

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成26年5月1日現在)

千葉大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	9
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	12
基礎資料 4	カリキュラムマップ	47
基礎資料 5	語学教育の要素	48
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	51
基礎資料 7	学生受入状況について	67
基礎資料 8	教員・事務職員数	68
基礎資料 9	専任教員年齢構成	69
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	70
基礎資料11	卒業研究の配属状況	79
基礎資料12	講義室等の数と面積	80
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	81
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	82
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	83

(基礎資料1-1) 学年別授業科目

	1 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	英語	前期・後期	30~40	24	83	コ	エ		4~8
	初修外国語	前期・後期	10~60	20	83	コ	エ		0~4
	情報処理	前期	80	1	83	エ			2
	スポーツ・健康科目 ※	前期・後期				ジ			1~2
	教養コア科目A	前期	50~250	4	83	コ			1
	教養コア科目B	前期	40~260	4	83	コ			1
	教養コア科目C	前期	30~290	4	83	コ			1
	教養コア科目D	前期	40~290	4	83	コ			1
	教養コア科目E	前期	40~160	4	83	コ			1
	教養コア科目F	前期	40~210	4	83	コ			1
	教養展開科目(その他) ※	前期・後期				コ	エ		0~2
	生物学	前期	90	1	83	コ	エ		2
	薬学への招待 I	前期	90	1	83	コ			2
	薬学への招待 II	後期	90	1	85	コ	ケ		2
	物理学基礎実験 I	前期	80	1	83	コ	ジ		1
※スポーツ・健康科目及び教養展開科目(薬学部で指定する「生物学」「薬学への招待I・II」「物理学基礎実験I」以外)については全学の普通教育科目として多くの科目が開講されており受講生も分散している。科目ごとの記載は多岐にわたり困難であるので省略した。 (参考資料:「履修案内」「Guidance2014」)									
薬学専門教育	機能形態学	前期	80	1	83	コ	エ		2
	チーム医療	前期	80	1	83	コ	S		1
	有機化学 I	前期	80	1	86	コ	エ		2
	薬理学 I	後期	80	1	83	コ	エ		2
	生物化学 I	後期	80	1	83	コ	エ		2
	有機化学 II	後期	80	1	84	コ	エ		2
	物理化学 I	後期	80	1	83	コ	エ		2
	分析化学 I	後期	80	1	95	コ	エ		2
演習	有機化学演習 I	後期	80	1	83	エ			1
	生物化学演習	後期	80	1	83	エ			1
単位数の合計								(必須科目)	37~48
								(選択科目)	0
								合計	37~48

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=エ
実習=ジ 研究室見学=ケ

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

		2 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
薬学専門教育	薬理学Ⅱ	前期	80	1	88	コ	エ		2	
	物理化学Ⅱ	前期	80	1	88	コ	エ		2	
	生物化学Ⅱ	前期	80	1	87	コ	エ		2	
	生物化学Ⅲ	前期	80	1	97	コ	エ		2	
	有機化学Ⅲ	前期	80	1	88	コ	エ		2	
	推測統計学	前期	80	1	91	コ			2	
	生薬学	前期	80	1	88	コ	エ		2	
	分析化学Ⅱ	前期	80	1	88	コ	エ		2	
	薬剤学Ⅰ	前期	80	1	88	コ	エ		2	
	チーム医療Ⅱ	前期	80	1	87	コ	S		1	
	衛生薬学Ⅰ	前期	80	1	95	コ	エ		2	
	生物化学Ⅳ	後期	80	1	94	コ	エ		2	
	薬理学Ⅲ	後期	80	1	87	コ	エ		2	
	物理化学Ⅲ	後期	80	1	93	コ	エ		2	
	微生物・感染症学	後期	80	1	87	コ	エ		2	
	薬剤学Ⅱ	後期	80	1	87	コ	エ		2	
	細胞生物学Ⅰ	後期	80	1	87	コ	エ		2	
	有機化学Ⅳ	後期	80	1	89	コ	エ		2	
	実習	分析化学実習	後期	80	1	87	コ	ジ	エ	1
		衛生・放射薬学実習A	後期	80	1	87	コ	ジ	エ	0.5
有機化学実習		後期	80	1	87	コ	ジ	エ	1	
薬用資源学実習		後期	80	1	87	ジ			1	
(択) 企業等インターンシップ		前期又は後期	?	?		ジ	エ		1	
演習	有機化学演習Ⅱ	前期	80	1	86	コ	エ		1	
	薬学総合演習(英語講義)	前期	80	1	88	コ	エ		1	
単位数の合計								(必須科目)	40.5	
								(選択科目)	1	
								合計	41.5	

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=エ
 実習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

		3 年 次							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	衛生薬学Ⅱ	前期	60	1	41	コ	エ	S	2
	薬物治療学Ⅰ	前期	60	1	41	コ	エ		2
	薬物治療学Ⅱ	前期	60	1	41	コ	エ		2
	化学療法学	前期	60	1	41	コ	エ		2
	臨床薬理学	前期	60	1	41	コ	エ		2
	細胞生物学Ⅱ	前期	60	1	41	コ	エ		2
	物理化学Ⅳ	前期	80	1	41	コ	エ		2
	有機化学Ⅴ	前期	80	1	41	コ	エ		2
	薬剤学Ⅲ	前期	80	1	41	コ	エ		2
	免疫学	後期	60	1	52	コ	エ		2
	臨床検査・診断薬学	後期	60	1	75	コ	エ		2
	臨床薬物動態学	後期	60	1	64	コ	エ		2
	医薬品安全性学	後期	60	1	59	コ	エ		2
	疾病学Ⅰ	後期	60	1	64	コ			2
	疾病学Ⅱ	後期	60	1	59	コ			2
	チーム医療Ⅲ	後期	60	1	46	コ	エ	S	1
	(択) 医薬品合成化学	前期	40	1	20	コ	エ		2
	(択) 分子イメージング薬剤学	前期	40	1	1	コ	エ		2
	(択) 分析化学Ⅲ	前期	40	1	0	コ	エ		2
	(択) 創薬化学	前期	40	1	0	コ			2
	(択) 製剤工学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 機能性分子化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 薬品物理化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 天然物化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 医薬化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 遺伝子応用学	後期	40	1		コ	エ		2

実習	生物化学実習 I	前期	80	1	41	コ	ジ	エ	1	
	生物化学実習 II A	前期	80	1	41	ジ	コ	エ	0.5	
	生物化学実習 II B	前期	80	1	41	ジ			0.5	
	製剤・薬剤学実習 A・B	前期・後期	80	1	41	ジ	エ		1	
	物理化学実習	前期	80	1	41	ジ			1	
	衛生・放射薬学実習 B	前期	80	1	40	コ	ジ		0.5	
	医療薬学実習	後期	60	1	50	ジ	エ	S	1	
	薬理学実習	後期	80	1	86	コ	ジ		1	
	(択) 企業等インターンシップ	前期又は後期	?	?		ジ	エ		1	
	単位数の合計									(必須科目)
								(選択科目)	21	
								合計	58.5	

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=エ

実習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-4) 学年別授業科目

		4 年 次								
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
薬学専門教育	薬物治療学Ⅳ	前期	40	1	44	コ	エ		2	
	調剤学	前期	40	1	45	コ	エ		2	
	薬剤師と地域医療	前期	40	1	44	コ	エ	S	2	
	医療薬学・医療行政学	前期	40	1	44	コ	エ		2	
	薬事法規・薬局方	前期	80	1	44	コ	エ		2	
	医薬品情報学	前期	40	1	44	コ	エ		2	
	薬物治療学Ⅲ	前期	40	1	44	コ	エ		2	
	漢方治療学	前期	40	1	47	コ	エ		2	
	チーム医療Ⅳ	後期	60	1	41	コ	S		1	
	(択) 医薬品合成化学	前期	40	1	20	コ	エ		2	
	(択) 分子イメージング薬剤学	前期	40	1	1	コ	エ		2	
	(択) 分析化学Ⅲ	前期	40	1	0	コ	エ		2	
	(択) 創薬化学	前期	40	1	0	コ			2	
	(択) 製剤工学	後期	40	1		コ	エ		2	
	(択) 機能性分子化学	後期	40	1		コ	エ		2	
	(択) 薬品物理化学	後期	40	1		コ	エ		2	
	(択) 天然物化学	後期	40	1		コ	エ		2	
	(択) 医薬化学	後期	40	1		コ	エ		2	
	(択) 遺伝子応用学	後期	40	1		コ	エ		2	
	実習	事前実務実習	後期	40	1	46	コ	エ・ジ	S	4
		(択) 企業等インターンシップ	前期又は後期	?	?		ジ	エ		1
特別実習Ⅰ		通期	2~5	18	44				6	
演習	医療薬学演習Ⅰ	後期	40	1	46	コ	エ	S	1	
	医療薬学演習Ⅱ	後期	40	1	46	エ	S		1	
	医療薬学演習Ⅲ	後期	40	1	46	コ	エ	S	1	
単位数の合計								(必須科目)	30	
								(選択科目)	21	
								合計	51	

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=エ
 実習=ジ

[注]

- 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。
- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

		5 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
薬学専門教育	(択) 医薬品合成化学	前期	40	1	20	コ	エ		2
	(択) 分子イメージング薬剤学	前期	40	1	1	コ	エ		2
	(択) 分析化学Ⅲ	前期	40	1	0	コ	エ		2
	(択) 創薬化学	前期	40	1	0	コ			2
	(択) 製剤工学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 機能性分子化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 薬品物理化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 天然物化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 医薬化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 遺伝子応用学	後期	40	1		コ	エ		2
実習	薬局実習	前期・後期	40	1	35	コ	エ	ジ・S	10
	病院実習	前期・後期	40	1	35	コ	エ	ジ・S	10
	(択) 企業等インターンシップ	前期又は後期	?	?		ジ	エ		1
	特別実習Ⅱ	通期	2~5	15	35				6
単位数の合計								(必須科目)	26
								(選択科目)	21
								合計	46

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=エ
 実習=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

	6 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	(択) 医薬品合成化学	前期	40	1	20	コ	エ		2
	(択) 分子イメージング薬剤学	前期	40	1	1	コ	エ		2
	(択) 分析化学Ⅲ	前期	40	1	0	コ	エ		2
	(択) 創薬化学	前期	40	1	0	コ			2
	(択) 製剤工学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 機能性分子化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 薬品物理化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 天然物化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 医薬化学	後期	40	1		コ	エ		2
	(択) 遺伝子応用学	後期	40	1		コ	エ		2
	実習	(択) 企業等インターンシップ	前期又は後期	?	?		ジ	エ	
特別実習Ⅲ		通期	2~5	15	37				6
演習	医療薬学特別演習Ⅰ	後期	40	1	37	コ	エ		1
	医療薬学特別演習Ⅱ	後期	40	1	37	コ	エ		1
単位数の合計							(必須科目)		8
							(選択科目)		21
							合計		29

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=エ

実習=ジ 研究室見学=ケ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	22	47
教養教育科目	40	62~65
語学教育科目	8	12.5~20.5
医療安全教育科目	41	80.5
生涯学習の意欲醸成科目	25	43
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	13	25.5

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	37~48	0	37~48
2 年 次	40.5	1	41.5
3 年 次	37.5	21	58.5
4 年 次	30	21	51
5 年 次	26	21	47
6 年 次	8	21	29
合計	179~190	85	264~275

(基礎資料 2-1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	80(40)	80(40)	80(40)	80(40)	80(40)	80(40)	320	A	
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	B	
	入学者数	83	88	88	88	84	81	512		
基準日 における	各学年の在籍学生数	83	92	42	44	35	37	333	C	
	編入学生数(内)※	0	0	0	0	0	0	0	D	
	留年者数(内)	0	5	1	0	0	0	6		
	留年者の 入学年度	平成21年度		1					1	
		平成22年度			1				1	
		平成23年度		1					1	
		平成24年度		3					3	
		平成25年度								
平成26年度										
C / (A+B)		1.04	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。							
D / B		-								

※ 薬科学科との一括入試(3年次から学科分け)のため、1・2年次は80名(学部全体定員)、3～6年次は40名(薬学科定員)としてAを算出した。

- [注] 1 「C / (A+B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍 学生数	249				288				339				340				340				333			
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数																				
1年次	1		1	-	1			-	2		1	-	1			-	1		2	-				-
2年次	3	3	3	-	2	4	3	-	2	4	1	-		3		-	2	4		-	1	2		-
3年次				-				-		1		-		1		-		1		-				-
4年次				-				-				-	1	1		-	1		1	-				-
5年次	/	/	/	-				-				-				-				-				-
6年次	/	/	/	-	/	/	/	-				-		1		-				-				-
合計	4	3	4	0	3	4	3	0	4	5	2	0	2	6	0	0	4	5	3	0	1	2	0	0

※薬科学科との一括入試のため、1・2年次については、在籍学生数・留年者数・休学者数・退学者数とも学科振り分け前の人数を記入している。

[注] 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		40名	41名	42名	36名	名	名			
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	40名	1名	名	名	名	名	平成18年度	40名	100.0%
	平成19年度入学者	名	40名	1名	名	名	名	平成19年度	41名	97.6%
	平成20年度入学者	名	名	41名	名	名	名	平成20年度	41名	100.0%
	平成21年度入学者	名	名	名	36名	名	名	平成21年度	37名	97.3%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	44名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	41名	0.0%

(基礎資料 3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	「機能形態学」 「チーム医療Ⅰ」	「チーム医療Ⅱ」	「医療薬学実習」 「チーム医療Ⅲ」	「チーム医療Ⅳ」		
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	「チーム医療Ⅰ」			「医療薬学・医療行政学」 「チーム医療Ⅳ」		
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)				「チーム医療Ⅳ」		
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)				「チーム医療Ⅳ」		
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)				「医療薬学演習Ⅱ」		
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	「チーム医療Ⅰ」	「チーム医療Ⅱ」	「チーム医療Ⅲ」	「チーム医療Ⅳ」		
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)				「チーム医療Ⅳ」 「医療薬学演習Ⅱ」		
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	「チーム医療Ⅰ」		「医療薬学実習」 「チーム医療Ⅲ」	「チーム医療Ⅳ」		
2. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。		「チーム医療Ⅱ」	「医療薬学実習」			
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。			「医療薬学実習」 「チーム医療Ⅲ」	「医療薬学演習Ⅰ」		
4. 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。						
5. 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。						
6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。		「チーム医療Ⅱ」		「薬剤師と地域医療」		
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。			「医療薬学実習」	「薬剤師と地域医療」 「医療薬学演習Ⅰ」		
8. 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)				「薬剤師と地域医療」		
【③患者安全と薬害の防止】						
1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)			「医療薬学実習」 「チーム医療Ⅲ」			
2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	「チーム医療Ⅰ」			「医療薬学・医療行政学」		
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。				「事前実務実習」		
4. 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				「調剤学」		
5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			「医療薬学実習」			
6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	「チーム医療Ⅰ」					
7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
【④薬学の歴史と未来】						
1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」 「チーム医療Ⅰ」		「創薬化学」	「創薬化学」 「医療薬学・医療行政学」		「創薬化学」
2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」					
3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」 「チーム医療Ⅰ」			「医療薬学・医療行政学」		
4. 将来の薬剤師と薬学が果たすべき役割について討議する。(知識・態度)	「薬学への招待Ⅰ」					
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)						
2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。						
3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	「チーム医療Ⅰ」			「医療薬学演習Ⅱ」		
4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
【②医療倫理】						
1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。						
2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	「チーム医療Ⅰ」			「薬事法規・薬局方」		
3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				「薬事法規・薬局方」		
2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。						
4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。						
5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7. 個人情報の取扱いについて概説できる。						
8. 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。						
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」			「薬事法規・薬局方」		
2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。				「医薬品情報学」		
3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。						
4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。						
5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。						
6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。					「薬事法規・薬局方」	
7. 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。						
8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。						
9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。					「医療薬学・医療行政学」	
10. 健康被害救済制度について説明できる。						
11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。					「薬事法規・薬局方」	
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」			「薬事法規・薬局方」		
2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						
3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。						
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				「医療薬学・医療行政学」		
2. 医療保険制度について説明できる。						
3. 療養担当規則について説明できる。				「薬事法規・薬局方」		
4. 公費負担医療制度について概説できる。						
5. 介護保険制度について概説できる。						
6. 薬価基準制度について概説できる。				「医療薬学・医療行政学」		
7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。						
【②医薬品と医療の経済性】						
1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	「薬学への招待Ⅰ」			「医療薬学・医療行政学」		
2. 国民医療費の動向について概説できる。						
3. 後発医薬品とその役割について説明できる。						
4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。						
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。		「チーム医療Ⅱ」	「医療薬学実習」	「医療薬学・医療行政学」		
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。				「薬剤師と地域医療」		
3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。		「チーム医療Ⅱ」		「医療薬学・医療行政学」		
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。				「薬剤師と地域医療」		
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。				「医薬品情報学」		
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1. 地域包括ケアの理念について説明できる。				「医療薬学・医療行政学」		
2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
3. 学校薬剤師の役割について説明できる。				「薬剤師と地域医療」		
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）		「チーム医療Ⅱ」		「薬剤師と地域医療」 「医療薬学・医療行政学」		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【① 化学結合】						
1. 化学結合の様式について説明できる。	「物理化学Ⅰ」 「有機化学演習Ⅰ」	「薬学総合演習 (英語講義)」				
2. 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。						
3. 共役や共鳴の概念を説明できる。						
【② 分子間相互作用】						
1. ファンデルワールス力について説明できる。	「有機化学演習Ⅰ」	「薬学総合演習 (英語講義)」	「物理化学Ⅳ」			
2. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
3. 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4. 分散力について例を挙げて説明できる。						
5. 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6. 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
7. 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【③ 原子・分子の挙動】						
1. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。			「物理化学Ⅳ」			
2. 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4. 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。						
5. 光の散乱および干渉について説明できる。						
6. 結晶構造と回折現象について概説できる。		「薬剤学Ⅱ」 「有機化学演習Ⅱ」				
【④放射線と放射能】						
1. 原子の構造と放射線について説明できる。		「物理化学Ⅲ」	「物理化学Ⅳ」 「物理化学Ⅳ」 「分子イメージング薬剤学」 「衛生・放射薬学実習B」 「臨床検査・診断薬学」	「分子イメージング薬剤学」		
2. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4. 核反応および放射平衡について説明できる。						
5. 放射線測定の方法と利用について概説できる。						
6. 「衛生・放射薬学実習B」						
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【① 気体の微視的状態と巨視的状態】						
1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	「物理化学Ⅱ」					
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【② エネルギー】						
1. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	「物理化学Ⅱ」	「有機化学Ⅰ」	「物理化学Ⅳ」			
2. 熱力学第一法則を説明できる。						
3. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6. エンタルピーについて説明できる。						
7. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③ 自発的な変化】						
1. エントロピーについて説明できる。	「物理化学Ⅱ」	「生物学」 「生物学」				
2. 熱力学第二法則について説明できる。						
3. 熱力学第三法則について説明できる。						
4. ギブズエネルギーについて説明できる。						
5. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④ 化学平衡の原理】						
1. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	「生物学」	「物理化学Ⅱ」	「物理化学Ⅳ」			
2. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
3. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
4. 共役反応の原理について説明できる。						
【⑤ 相平衡】						
1. 相変化に伴う熱の移動について説明できる。			「物理化学Ⅳ」			
2. 相平衡と相律について説明できる。						
3. 状態図について説明できる。						
【⑥ 電解質溶液の性質】						
1. 希薄溶液の束一的性質について説明できる。			「物理化学Ⅳ」			
2. 活量と活量係数について説明できる。						
3. 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4. イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】						
1. 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。						
2. 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。						
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1. 反応次数と速度定数について説明できる。			「物理化学Ⅳ」 「物理化学実習」			
2. 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）			「物理化学Ⅳ」			
3. 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。			「物理化学Ⅳ」 「物理化学実習」			
4. 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）						
5. 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。			「物理化学Ⅳ」			
6. 反応速度と温度との関係を説明できる。			「物理化学Ⅳ」 「物理化学実習」			
7. 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。			「有機化学実習」	「物理化学Ⅳ」		
02 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）	「分析化学Ⅰ」		「有機化学実習」 「分析化学実習」			
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）			「分析化学実習」			
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。						
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。						
2. pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）	「分析化学Ⅰ」	「分析化学実習」	「物理化学Ⅳ」			
3. 溶液のpH を測定できる。（技能）						
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。						
【②各種の化学平衡】						
1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	「分析化学Ⅰ」	「分析化学実習」	「分子イメージング薬剤学」 「臨床検査・診断薬学」	「分子イメージング薬剤学」		
2. 沈殿平衡について説明できる。						
3. 酸化還元平衡について説明できる。						
4. 分配平衡について説明できる。						
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	「分析化学Ⅰ」	「分析化学実習」				
2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【②定量分析（容量分析・重量分析）】						
1. 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。						
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	「分析化学Ⅰ」	「分析化学実習」				
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。			「薬学総合演習 （英語講義）」 「分析化学実習」			
5. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）						
6. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			「分析化学実習」			
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	「分析化学Ⅰ」					
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。			「分析化学Ⅱ」 「分析化学実習」			
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。						
3. 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			「分析化学Ⅱ」 「薬剤学Ⅱ」 「分析化学実習」			
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法およびICP質量分析法の原理および応用例を説明できる。						
5. 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。						
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）			「分析化学Ⅱ」 「分析化学実習」			
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】						
1. 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			「薬学総合演習 （英語講義）」 「分析化学Ⅱ」 「分析化学実習」			
【③質量分析法】						
1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			「分析化学Ⅱ」 「分析化学実習」			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④ X線分析法】						
1. X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。			「薬剤学Ⅱ」			
2. 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。			「分析化学実習」			
【⑤ 熱分析】						
1. 熱量測定法の原理を説明できる。			「薬剤学Ⅱ」			
2. 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。			「分析化学実習」			
【⑤ 分離分析法】						
【① クロマトグラフィー】						
1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。						
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			「分析化学実習」			
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)						
【②電気泳動法】						
1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。			「分析化学実習」			
【⑥ 臨床現場で用いる分析技術】						
【① 分析の準備】						
1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			「分析化学実習」			「分析化学Ⅲ」
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【②分析技術】						
1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						
2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			「分析化学実習」			「分析化学Ⅲ」
3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。						
4. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
5. 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。			「物理化学Ⅲ」 「分析化学実習」	「分析化学Ⅲ」 「臨床検査・診断薬学Ⅰ」 「衛生・放射薬学実習B」 「分析化学Ⅲ」 「臨床検査・診断薬学」		「分子イメージング薬剤学」 「分析化学Ⅲ」
【③ 化学物質の性質と反応】						
【① 化学物質の基本的性質】						
【①基本事項】						
1. 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。						「医薬品合成化学」
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。			「有機化学Ⅲ」 「有機化学演習Ⅱ」			
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。						
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。						
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。						
6. 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を理解し、分類できる。	「有機化学Ⅰ」		「有機化学実習」 「有機化学Ⅲ」 「有機化学演習Ⅱ」			「天然物化学」
7. 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。						
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。			「有機化学Ⅲ」 「有機化学演習Ⅱ」			「天然物化学」
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)						
【②有機化合物の立体構造】						
1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。						
2. キラルセンターと光学活性の関係を概説できる。						
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。						
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識・技能)						
6. 炭素-炭素二重結合の立体異性(cis, transならびにE/Z異性)について説明できる。						
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)						
8. エタン、ブタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。						
【② 有機化合物の基本骨格の構造と反応】						
【①アルカン】						
1. アルカンの基本的な性質について説明できる。(技能)						
2. アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)						
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)						
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	「有機化学演習Ⅰ」 「有機化学Ⅰ」					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②アルケン・アルキン】						
1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
【③芳香族化合物】						
1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。						
2. 芳香族性の概念を説明できる。						
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
4. 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
【③官能基の性質と反応】						
【①概説】						
1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。						
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
【②有機ハロゲン化合物】						
1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。						
3. 脱離反応の特徴について説明できる。						
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2. カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3. カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【⑤アミン】						
1. アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【⑥電子効果】						
1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。						
【⑦酸性度・塩基性度】						
1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。						
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。						
【④化学物質の構造決定】						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1. ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
3. ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4. ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。						
5. 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【②赤外吸収 (IR)】						
1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【③質量分析】						
1. マススペクトルより得られる情報を概説できる。						
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)						
3. ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。						
4. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【④総合演習】						
1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)						
【⑤無機化合物・錯体の構造と性質】						
【①無機化合物・錯体】						
1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。						
2. 代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3. 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	「物理化学Ⅰ」 「分析化学Ⅰ」		「分子イメージング薬剤学」 「臨床検査・診断薬学」	「分子イメージング薬剤学」		
5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
04 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1. 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。			「物理化学実習」			
2. 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
【②生体内で機能する小分子】						
1. 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。			「物理化学実習」 「化学療法学」 「創薬化学」	「創薬化学」		
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。						
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			「薬品物理化学」			
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1. リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。						
2. リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。						
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1. 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
2. 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
3. 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1. 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。	「薬理学Ⅰ」					
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。				「創薬化学」		
【④生体内で起こる有機反応】						
1. 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。				「天然物化学」		
2. 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。						
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1. 医薬品と生体分子との相互作用を有機化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。			「天然物化学」 「物理化学実習」 「薬品物理化学」 「創薬化学」	「天然物化学」 「薬品物理化学」 「創薬化学」		
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1. 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。				「薬品物理化学」 「創薬化学」		
2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。				「分子イメージング薬剤学」		
【③医薬品のコンポーネント】						
1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				「創薬化学」		
2. バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。				「創薬化学」		
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				「医薬品合成化学」		
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1. ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			「化学療法学」			
2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3. スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4. キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				「創薬化学」		
5. β -ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				「機能性分子化学」		
6. ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1. カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				「創薬化学」		
2. アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				「創薬化学」		
3. ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				「創薬化学」		
4. ペンシリアセピン骨格およびハルピタル骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				「創薬化学」		
5. オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		「薬理学Ⅱ」		「機能性分子化学」		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】							
1. DNA と結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			「創薬化学」 「化学療法学」		「創薬化学」		
2. DNA にインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。							
3. DNA 鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			「分子イメージング薬剤学」 「化学療法学」		「分子イメージング薬剤学」		
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】							
1. イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。			「薬理学Ⅲ」				
C5 自然が生み出す薬物							
(1) 薬になる動植物							
【①薬用植物】							
1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。			「生薬学」				
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)							
3. 植物の主な内部形態について説明できる。			「薬用資源学実習」 「生薬学」				
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。			「生薬学」				
【②生薬の基原】							
1. 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原植物、薬用部位を説明できる。			「生薬学」				
【③生薬の用途】							
1. 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。			「生薬学」				
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。							
【④生薬の同定と品質評価】							
1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。			「生薬学」				
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。							
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)			「薬用資源学実習」 「生薬学」				
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。							
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。			「生薬学」				
(2) 薬の宝庫としての天然物							
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】							
1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの合成経路を概説できる。	「薬学への招待Ⅰ」	「生薬学」			「天然物化学」		
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。							
3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						「機能分子化学」	
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。							
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。							
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】							
1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	「薬学への招待Ⅰ」	「生薬学」					
2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。							
【③天然生物活性物質の取扱い】							
1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	「薬学への招待Ⅰ」	「薬用資源学実習」					
【④天然生物活性物質の利用】							
1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」				「機能分子化学」 「天然物化学」		
2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。							
3. 農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。						「機能分子化学」	
C6 生命現象の基礎							
(1) 細胞の構造と機能							
【①細胞膜】							
1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。			「生物学」 「生物化学Ⅱ」 「生物学」	「細胞生物学Ⅰ」			
2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。			「生物化学演習」				
【②細胞小器官】							
1. 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	「生物化学演習」	「細胞生物学Ⅰ」					
【③細胞骨格】							
1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。			「細胞生物学Ⅱ」 「化学療法学」				
(2) 生命現象を担う分子							
【①脂質】							
1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。			「生物学」 「生物化学Ⅱ」 「生物化学演習」				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②糖質】						
1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	「生物学」					
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	「生物化学演習」					
【③アミノ酸】						
1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	「生物学」 「生物化学演習」					
【④タンパク質】						
1. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	「生物化学演習」					
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1. ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	「生物化学演習」					
【⑥ビタミン】						
1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	「薬理学Ⅰ」	「衛生薬学Ⅰ」				
【⑦微量元素】						
1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。		「衛生薬学Ⅰ」				
【⑧生体分子の定性、定量】						
1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。（技能）				「生物化学実習ⅡA」		
【③ 生命活動を担うタンパク質】						
【①タンパク質の構造と機能】						
1. 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	「生物学」 「生物化学Ⅱ」 「薬学への招待Ⅰ」			「細胞生物学Ⅱ」 「臨床検査・診断薬学」		
【②タンパク質の成熟と分解】						
1. タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	「生物化学演習」 「薬学への招待Ⅰ」	「生物化学Ⅳ」 「細胞生物学Ⅰ」		「臨床検査・診断薬学」		
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」	「細胞生物学Ⅰ」				
【③酵素】						
1. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	「生物学」					
2. 酵素反応における補酵素、微量元素の役割を説明できる。	「生物化学Ⅱ」					
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」			「臨床検査・診断薬学」		
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。（技能）	「薬学への招待Ⅰ」					
【④酵素以外のタンパク質】						
1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	「生物学」 「生物化学Ⅱ」	「細胞生物学Ⅰ」		「臨床検査・診断薬学」		
2. 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。						
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。			「生物化学Ⅳ」			
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	「生物化学演習」		「生物化学Ⅳ」 「細胞生物学Ⅰ」			
【②遺伝情報を担う分子】						
1. 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。			「生物化学Ⅳ」 「細胞生物学Ⅰ」			
2. 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	「生物化学演習」		「微生物学・感染症学」 「細胞生物学Ⅰ」			
3. RNAの種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど）と機能について説明できる。			「生物化学Ⅳ」 「微生物学・感染症学」 「細胞生物学Ⅰ」			
【③遺伝子の複製】						
1. DNAの複製の過程について説明できる。			「生物化学Ⅳ」	「化学療法学」		
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1. DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	「生物化学演習」		「生物化学Ⅳ」	「化学療法学」		
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。			「細胞生物学Ⅰ」			
3. 転写因子による転写制御について説明できる。			「生物化学Ⅳ」			
4. RNAのプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。			「微生物学・感染症学」			
5. RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。			「生物化学Ⅳ」	「化学療法学」		
			「微生物学・感染症学」			
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1. DNAの変異と修復について説明できる。			「生物化学Ⅳ」 「微生物学・感染症学」	「化学療法学」		
			「物理化学Ⅲ」			
【⑥組換えDNA】						
1. 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。				「生物化学実習ⅡB」 「免疫学」 「遺伝子応用学」		「遺伝子応用学」
2. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。			「薬用資源学実習」	「免疫学」 「遺伝子応用学」		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【①概論】						
1. エネルギー代謝の概要を説明できる。	「生物化学Ⅰ」 「生物化学Ⅱ」	「生物化学Ⅳ」				
【②ATPの産生と糖質代謝】						
1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	「生物化学Ⅰ」 「生物化学Ⅱ」	「微生物学・感染症学」				
2. クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。		「生物化学Ⅲ」				
3. 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。	「生物化学Ⅰ」	「微生物学・感染症学」				
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。		「生物化学Ⅲ」				
5. 糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】						
1. 脂肪酸の生合成とβ酸化反応について説明できる。		「生物化学Ⅲ」				
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
【④飢餓状態と飢食状態】						
1. 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		「生物化学Ⅲ」 「生物化学Ⅳ」				
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】						
1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		「生物化学Ⅲ」				
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		「生物化学Ⅳ」	「化学療法学」			
3. ペントースリン酸回路について説明できる。	「生物化学Ⅱ」					
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【①概論】						
1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	「生物学」	「生物化学Ⅳ」 「薬理学Ⅲ」	「細胞生物学Ⅱ」			
【②細胞内情報伝達】						
1. 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	「生物学」	「生物化学Ⅳ」 「細胞生物学Ⅰ」 「薬理学Ⅲ」	「細胞生物学Ⅱ」			
2. 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		「生物化学Ⅳ」 「薬理学Ⅲ」	「細胞生物学Ⅱ」 「化学療法学」			
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	「生物学」	「生物化学Ⅳ」 「細胞生物学Ⅰ」 「薬理学Ⅲ」	「細胞生物学Ⅱ」			
5. 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		「生物化学Ⅳ」 「薬理学Ⅲ」	「細胞生物学Ⅱ」 「化学療法学」			
【③細胞間コミュニケーション】						
1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。						
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。			「細胞生物学Ⅱ」			
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。		「生物化学Ⅳ」	「細胞生物学Ⅱ」 「化学療法学」			
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	「機能形態学」		「細胞生物学Ⅱ」			
【②細胞死】						
1. 細胞死(アポトーシスとネクロトーシス)について説明できる。		「生物化学Ⅳ」	「細胞生物学Ⅱ」			
【③がん細胞】						
1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		「生物化学Ⅳ」	「細胞生物学Ⅱ」			
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	「生物学」					
2. 遺伝子多型について概説できる。						
3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。						
【②発生】						
1. 個体発生について概説できる。	「機能形態学」					
2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
【③器官系概論】						
1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	「機能形態学」					
2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3. 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)						
4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④神経系】						
1. 中枢神経系について概説できる。	「機能形態学」	「薬理学Ⅱ」				
2. 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。						
【⑤骨格系・筋肉系】						
1. 骨、筋肉について概説できる。	「機能形態学」					
2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
1. 皮膚について概説できる。	「機能形態学」					
【⑦循環器系】						
1. 心臓について概説できる。	「機能形態学」					
2. 血管系について概説できる。						
3. リンパ管系について概説できる。						
【⑧呼吸器系】						
1. 肺、気管支について概説できる。	「機能形態学」					
【⑨消化器系】						
1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	「機能形態学」					
2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
【⑩泌尿器系】						
1. 泌尿器系について概説できる。	「機能形態学」					
【⑪生殖器系】						
1. 生殖器系について概説できる。	「機能形態学」	「薬理学Ⅲ」				
【⑫内分泌系】						
1. 内分泌系について概説できる。	「機能形態学」					
【⑬感覚器系】						
1. 感覚器系について概説できる。	「機能形態学」					
【⑭血液・造血器系】						
1. 血液・造血器系について概説できる。	「機能形態学」		「免疫学」			
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	「機能形態学」	「細胞生物学Ⅰ」				
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		「薬理学Ⅲ」				
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。		「薬理学Ⅲ」				
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	「機能形態学」					
【③オータコイドによる調節機構】						
1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	「機能形態学」 「薬理学Ⅰ」		「細胞生物学Ⅱ」			
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	「機能形態学」 「薬理学Ⅰ」					
【⑤血圧の調節機構】						
1. 血圧の調節機構について概説できる。	「機能形態学」					
【⑥血糖の調節機構】						
1. 血糖の調節機構について概説できる。	「機能形態学」					
【⑦体液の調節】						
1. 体液の調節機構について概説できる。	「機能形態学」					
2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1. 体温の調節機構について概説できる。	「機能形態学」					
【⑨血液凝固・線溶系】						
1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	「機能形態学」					
【⑩性周期の調節】						
1. 性周期の調節機構について概説できる。	「機能形態学」					
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【①生体防御反応】						
1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーおよび補体の役割について説明できる。	「機能形態学」 「薬学への招待Ⅰ」 「生物学」 「機能形態学」 「薬学への招待Ⅰ」	「微生物学・感染症学」	「免疫学」			
2. 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。						
3. 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						
4. 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1. 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	「機能形態学」 「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」	「免疫学」			
2. 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3. 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1. 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	「機能形態学」 「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」	「免疫学」			
2. MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3. T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。						
4. 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5. 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を概説できる。						
【②免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用】						
【①免疫応答の制御と破綻】						
1. 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」	「免疫学」 「医薬品安全性学」 「免疫学」			
2. アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3. 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。						
4. 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。						
5. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
【②免疫反応の利用】						
1. ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。	「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」	「免疫学」 「化学療法学」 「免疫学」 「免疫学」 「化学療法学」			
2. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。						
3. 血清療法と抗体医薬について概説できる。						
4. 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)						
【③微生物の基本】						
【①総論】						
1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	「生物化学演習」 「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」				
【②細菌】						
1. 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。	「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」	「生物化学実習 I」			
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。						
3. 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。						
4. 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。						
【③ウイルス】						
1. ウイルスの構造、分類および増殖機構について説明できる。	「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」				
【④真菌・原虫・蠕虫】						
1. 真菌の性状を概説できる。	「薬学への招待 I」		「化学療法学」			
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。						
【⑤消毒と滅菌】						
1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	「薬学への招待 I」		「生物化学実習 I」			
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
【⑥検出方法】						
1. グラム染色を実施できる。(技能)	「薬学への招待 I」		「生物化学実習 I」			
2. 無菌操作を実施できる。(技能)						
3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
【④病原体としての微生物】						
【①感染の成立と共生】						
1. 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。	「生物化学演習」 「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」				
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。	「薬学への招待 I」					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【②代表的な病原微生物病原体】							
1. DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。	「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」					
2. RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など) について概説できる。							
3. グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) および グラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など) について概説できる。							
4. グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ菌、緑膿菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌など) について概説できる。							
5. グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。							
6. 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。							
7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。							
8. 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など) について概説できる。	「薬学への招待 I」	「微生物学・感染症学」					
9. 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。							
D 衛生薬学							
D1 健康							
(1) 社会・集団と健康							
【①健康と疾病の概念】							
1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。							
【②保健統計】							
1. 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。							
2. 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。							
3. 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。							
【③疫学】							
1. 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。							
2. 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。							
3. 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。							
4. リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)							
(2) 疾病の予防							
【①疾病の予防とは】							
1. 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。							
2. 健康増進政策 (健康日本21 など) について概説できる。							
【②感染症とその予防】							
1. 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。							
2. 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。							
3. 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。							
4. 予防接種の意義と方法について説明できる。							
【③生活習慣病とその予防】							
1. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。							
2. 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。							
3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)							
【④母子保健】							
1. 新生児マスキニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。							
2. 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。							
【⑤労働衛生】							
1. 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。							
2. 労働衛生管理について説明できる。							
(3) 栄養と健康							
【①栄養】							
1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。							
2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。							
3. 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。							
4. 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。							
5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。							
6. 日本人の食事摂取基準について説明できる。							
7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。							
8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②食品機能と食品衛生】						
1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		「衛生薬学Ⅰ」	「衛生薬学Ⅱ」			
2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3. 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。						
4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
6. 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						
7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる。						
【③食中毒と食品汚染】						
1. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		「衛生薬学Ⅰ」	「衛生薬学Ⅱ」			
2. 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			「医薬品安全性学」 「衛生薬学Ⅱ」			
3. 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			「衛生薬学Ⅱ」			
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			「衛生薬学Ⅰ」 「衛生薬学Ⅱ」			
2. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			「衛生薬学Ⅱ」			
3. 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		「衛生薬学Ⅰ」				「分析化学Ⅲ」
4. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			「医薬品安全性学」			
6. 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
7. 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。			「医薬品安全性学」			
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)		「衛生・放射薬学実習A」				
2. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3. 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。				「衛生薬学Ⅱ」		
4. 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
5. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。						
【③化学物質による発がん】						
1. 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2. 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。			「医薬品安全性学」			
3. 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。						
【④放射線の生体への影響】						
1. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		「物理化学Ⅲ」				「分子イメージング薬剤学」
2. 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。						
3. 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4. 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1. 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		「衛生薬学Ⅰ」				
2. 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3. 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。						
4. 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)						
【②環境保全と法的規制】						
1. 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						「分析化学Ⅲ」
2. 環境基本法の理念を説明できる。						
3. 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
1. 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2. 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
4. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
5. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
6. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④大気環境】						
1. 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。						
2. 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			「衛生薬学Ⅱ」			
3. 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
【⑤室内環境】						
1. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			「衛生薬学Ⅱ」			
2. 室内環境と健康との関係について説明できる。			「衛生薬学Ⅱ」			
【⑥廃棄物】						
1. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。						
2. 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			「衛生薬学Ⅱ」			
3. マニフェスト制度について説明できる。						
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【① 薬の作用】						
1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。			「薬学総合演習 (英語講義)」 「薬理学Ⅲ」			
2. アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。						
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。			「薬理学Ⅲ」			
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。				「細胞生物学Ⅱ」		
6. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。			「薬学総合演習 (英語講義)」			
7. 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。						
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。		「薬理学Ⅰ」	「薬理学Ⅱ」 「薬理学Ⅲ」			
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。			「薬理学Ⅱ」	「臨床薬理学」		
【② 動物実験】						
1. 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)				「薬理学実習」 「衛生・放射薬学実習B」		
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)				「薬理学実習」		
【③日本薬局方】						
1. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
(2) 身体の病的変化を知る						
【① 症状】						
1. 以下の症状・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疽、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害						
【②病態・臨床検査】						
1. 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				「臨床検査・診断薬学」		
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
6. 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				「臨床検査・診断薬学」		
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
(3) 薬物治療の位置づけ						
1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。				「薬物治療学Ⅳ」		
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)			「薬理学実習」			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(4) 医薬品の安全性							
1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			「医薬品安全性学」				
2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。							
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。							
血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害							
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する(態度)。							
E2 薬理・病態・薬物治療							
(1) 神経系の疾患と薬							
【① 自律神経系に作用する薬】							
1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	「薬理学Ⅰ」						
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。							
3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。							
4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)						「薬理学実習」	
【② 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】							
1. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	「薬理学Ⅰ」		「薬理学実習」				
2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。							
3. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)							
4. 以下の疾患について説明できる。	「薬理学Ⅰ」						
進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barre(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)							
【③ 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】							
1. 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	「薬理学Ⅱ」		「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。							
3. 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。							
4. 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	「薬理学Ⅱ」 「薬理学Ⅲ」		「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
5. うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
6. 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
7. てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	「薬理学Ⅱ」		「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			「薬物治療学Ⅳ」	
8. 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
9. Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	「薬理学Ⅱ」		「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
10. 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	「薬理学Ⅱ」 「薬理学Ⅲ」		「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
11. 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。							
12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる(技能)。						「薬理学実習」	
13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する(態度)。							
14. 以下の疾患について説明できる。						「薬物治療学Ⅰ」	
脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症							
【④ 化学構造と薬物】							
1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			「薬理学Ⅱ」				
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬							
【① 抗炎症薬】							
1. 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	「薬理学Ⅰ」						
2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。							
3. 創傷治癒の過程について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1. アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	「薬理学Ⅰ」	「薬理学Ⅲ」	「免疫学」 「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
2. 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
3. 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)			「免疫学」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
4. 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症症候群、薬疹			「医薬品安全性学」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
5. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	「薬理学Ⅰ」					
6. 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			「免疫学」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」 「疫病学Ⅲ」			
7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1 型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群						「免疫学」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」
8. 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性関節炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)	「薬理学Ⅰ」					
9. 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	「薬理学Ⅰ」			「薬物治療学Ⅰ」		
2. 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					「薬物治療学Ⅳ」	
3. 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	「薬理学Ⅰ」					
4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		「薬理学Ⅲ」				
【④化学構造と薬物】						
1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。	「薬理学Ⅰ」	「薬理学Ⅲ」				
(3) 循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW 症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (Vf)、房室ブロック、QT 延長症候群	「薬理学Ⅱ」	「薬理学Ⅱ」	「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3. 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)						
5. 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患						
6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる (技能)。						「薬理学実習」
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1. 止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	「薬理学Ⅰ」					
2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
3. 以下の貧血について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血						「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」
4. 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
5. 以下の疾患について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病 (重複)、悪性リンパ腫 (重複)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1. 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
5. 以下の泌尿器系疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石		「薬理学Ⅱ」	「薬物治療学Ⅰ」			
6. 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腫症、子宮筋腫				「薬物治療学Ⅳ」		
7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8. 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不好症						
【④化学構造と薬物】						
1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				「薬物治療学Ⅱ」		
【④呼吸器系・消化器系の疾患と薬】						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1. 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		「薬理学Ⅲ」	「薬物治療学Ⅰ」 「免疫学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎				「薬物治療学Ⅳ」		
2. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3. 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		「薬理学Ⅲ」	「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
4. 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
5. 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
6. 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				「薬物治療学Ⅰ」		
8. 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
9. 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【③化学構造と薬物】						
1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		「薬理学Ⅲ」				
【⑤代謝系・内分泌系の疾患と薬】						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1. 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
2. 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		「薬理学Ⅲ」	「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
3. 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1. 性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		「薬理学Ⅲ」	「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
2. Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
3. 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4. 尿崩症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
5. 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内膜症 (重複)、アジソン病 (重複)				「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」		
【③化学構造と薬物】						
1. 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		「薬理学Ⅲ」	「薬物治療学Ⅱ」			
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1. 緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」			
2. 白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4. 以下の疾患について概説できる。 結膜炎 (重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						
【②耳鼻咽喉の疾患の薬、病態、治療】						
1. めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」			
2. 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症 (重複)、副鼻腔炎 (重複)、中耳炎 (重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎 (重複)、喉頭蓋炎			「薬物治療学Ⅰ」			
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3. 褥瘡について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」			
4. 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹 (重複)、薬疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾癬 (重複)、接触性皮膚炎 (重複)、光線過敏症 (重複)						
【④化学構造と薬物】						
1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。	「薬理学Ⅰ」					
(7) 病原微生物 (感染症)・悪性新生物 (がん) と薬						
【①抗菌薬】						
1. 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 β -ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、新キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (SI 合剤を含む)、その他の抗菌薬	「生物化学演習」		「生物化学実習Ⅰ」 「化学療法学」			
2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。			「化学療法学」			
【②抗菌薬の耐性】						
1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			「化学療法学」			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【③細菌感染症の薬、病態、治療】							
1. 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃腺炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		「微生物学・感染症学」	「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
2. 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎							
3. 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							
4. 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎							
5. 以下の性行為感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等							
6. 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							
7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」		
8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							
9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」	「薬剤師と地域医療」			
10. 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		「微生物学・感染症学」	「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】							
1. ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」	「微生物学・感染症学」	「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			「薬物治療学Ⅰ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
4. ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）							
5. 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							
6. 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病					「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」		
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】							
1. 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			「化学療法学」 「薬物治療学Ⅰ」				
2. 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコッカス症			「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」				
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】							
1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			「薬物治療学Ⅰ」				
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症							
【⑦悪性腫瘍】							
1. 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」				
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因		「物理化学Ⅲ」	「分子イメージング薬剤学」 「薬物治療学Ⅱ」 「臨床検査・診断薬学」	「分子イメージング薬剤学」			
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			「薬物治療学Ⅱ」				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			「化学療法学」 「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」	「薬物治療学Ⅳ」		
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」 「疫病学Ⅰ」 「疫病学Ⅱ」	「薬物治療学Ⅳ」		
4. 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFEX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。						
5. 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）			「薬物治療学Ⅱ」			
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」		「分子イメージング薬剤学」 「薬物治療学Ⅱ」	「分子イメージング薬剤学」		
7. 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
9. 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍						
11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」			
12. 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
13. 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1. がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			「薬物治療学Ⅱ」			
2. がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	「薬学への招待Ⅰ」		「薬物治療学Ⅱ」 「臨床検査・診断薬学Ⅰ」			
【⑩化学構造と薬物】						
1. 病原微生物・悪性新生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。	「薬学への招待Ⅰ」					
【⑪バイオ・細胞医薬品とゲノム情報】						
【①組換え体医薬品】						
1. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。						
2. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			「遺伝子応用学」 「化学療法学」		「遺伝子応用学」	
【②遺伝子治療】						
1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			「免疫学」 「遺伝子応用学」 「臨床検査・診断薬学Ⅰ」		「遺伝子応用学」	
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			「免疫学」 「薬理学実習」			
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			「免疫学」			
4. 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。						
【④要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション】						
1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。						
2. 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分分類（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患・見逃してはいけない疾患を列挙できる。						
4. 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）						
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等						
6. 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）と健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7. 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
8. 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）						
				「薬剤師と地域医療」		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③分布】 1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。 2. 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係タンパク結合との関係を、説明できる。 3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。 4. 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。 5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。 6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		「薬学への招待Ⅱ」	「薬剤学Ⅰ」			
【④代謝】 1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。 2. 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。 3. 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。 4. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。 5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げて説明できる。		「薬学への招待Ⅱ」	「薬剤学Ⅰ」	「製剤・薬剤学実習A・B」 「臨床薬理学」 「臨床薬理学」 「製剤・薬剤学実習A・B」 「臨床薬物動態学」 「臨床薬理学」		
【⑤排泄】 1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。 2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。 3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。 4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。 5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		「薬学への招待Ⅱ」	「薬剤学Ⅰ」			
(2) 薬物動態の解析 【①薬物速度論】 1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。 2. 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与〔単回および反復投与〕、定速静注）。（知識、技能） 3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能） 4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。 5. 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。 6. 薬物動態学-薬力学解析（PK-PD 解析）について概説できる。		「薬学への招待Ⅱ」	「薬剤学Ⅰ」	「薬剤学Ⅲ」 「製剤・薬剤学実習A・B」 「臨床薬物動態学」 「薬剤学Ⅲ」 「臨床薬物動態学」 「薬剤学Ⅲ」 「臨床薬物動態学」 「臨床薬物動態学」		
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】 1. 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDM が有効な薬物を列挙できる。 2. TDM を行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。 3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能） 4. ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。		「薬学への招待Ⅱ」	「薬剤学Ⅰ」	「臨床薬物動態学」 「医療薬学実習」 「臨床薬理学」 「臨床薬物動態学」 「臨床薬理学」	「医療薬学演習Ⅲ」	
E5 製剤化のサイエンス (1) 製剤の性質 【①固形材料】 1. 粉体の性質について説明できる。 2. 結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。 3. 固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 4. 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pH や温度など）について説明できる。 5. 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			「薬剤学Ⅱ」	「製剤・薬剤学実習A・B」		
【②半固形・液状材料】 1. 流動と変形（レオロジー）について説明できる。 2. 高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。					「製剤工学」	
【③分散系材料】 1. 界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 2. 代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。 3. 分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。 4. 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。					「製剤工学」	
【④薬物及び製剤材料の物性】 1. 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。 2. 薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。 3. 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1. 製剤化の概要と意義について説明できる。			「製剤・薬剤学実習A・B」 「製剤工学」			「製剤工学」
2. 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
3. 粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。						
4. 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						「製剤工学」
5. 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。						
6. その他の製剤（生薬関連製剤、透折に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。						
【②製剤化と製剤試験法】						
1. 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。						
2. 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			「製剤・薬剤学実習A・B」 「製剤工学」			「製剤工学」
3. 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
4. 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。						
【③生物学的同等性】						
1. 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。						
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1. DDS の概念と有用性について説明できる。						
2. 代表的なDDS 技術を列挙し、説明できる。			「薬剤学Ⅲ」			
【②コントロールドリリース（放出制御）】						
1. コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。						
2. 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			「薬剤学Ⅲ」			
3. コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【③ターゲティング（標的指向化）】						
1. ターゲティングの概要と意義について説明できる			「分子イメージング薬剤学」 「薬剤学Ⅲ」			「分子イメージング薬剤学」
2. 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			「薬剤学Ⅲ」			
3. ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			「分子イメージング薬剤学」 「薬剤学Ⅲ」			「分子イメージング薬剤学」
【④吸収改善】						
1. 吸収改善の概要と意義について説明できる。						
2. 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			「薬剤学Ⅲ」			
3. 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
F 薬学臨床						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】						
1. 患者・生活者の視点に立つて、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度）		「チーム医療Ⅱ」				
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）						
3. 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。（知識・技能）			「医療薬学実習」			
【②臨床における心構え】						
1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）					「事前実務実習」 「医療薬学演習Ⅱ」	
2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）					「事前実務実習」	
3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）						
4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）						「薬局実習」 「病院実習」
5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）						
6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）						
7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）						
【③臨床実習の基礎】						
1. 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。					「事前実務実習」 「調剤学」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」
2. 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						
3. 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						
4. 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。					「事前実務実習」	「病院実習」 「薬局実習」 「病院実習」
5. 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）に関する業務の概略を説明できる。						
6. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						
7. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						「病院実習」
8. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
9. 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					「薬局実習」 「病院実習」		
10. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。							
11. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。							
12. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。							
13. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。							
14. 保険薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。 <small>※ 未病者の調剤に対して、処方せんの交付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・技能）</small>					「薬局実習」		
(2) 処方せんに基づく調剤							
【①法令・規則等の理解と遵守】							
1. 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義と取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				「調剤学」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」		
2. 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）							
3. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）							
4. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						「薬局実習」	
【②処方せんと疑義照会】							
1. 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				「調剤学」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」		
2. 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。							
3. 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。							
4. 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。							
5. 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。							
6. 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）				「事前実務実習」			
7. 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）							
8. 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）							
9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）							
10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）							
11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）							
【③処方せんに基づく医薬品の調製】							
1. 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」		
2. 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。							
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）							
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。							
5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				「調剤学」 「事前実務実習」			
6. 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				「事前実務実習」			
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）							
8. 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）							
9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）							
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）							
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）							
12. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）							
13. 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）							
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						
16. 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）						
17. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）						
18. 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）						
19. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）						
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1. 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できるの対応できる。（態度）			「医療薬学実習」	「事前実務実習」		
2. 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				「調剤学」 「事前実務実習」		
3. 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）			「医療薬学実習」	「事前実務実習」		
4. 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）						
5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				「調剤学」 「事前実務実習」		
6. 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取り扱い方法を説明できる。（技能・態度）						
7. 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。						
8. 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）			「医療薬学実習」	「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
9. 患者・来局者に合わせて適切対応ができる。（態度）						
10. 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）						
11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）						
12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）						
13. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）						
14. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）						
15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）						
【⑤医薬品の供給と管理】						
1. 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				「調剤学」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
2. 前) 医薬品管理の流れを概説できる。						
3. 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。						
4. 前) 特定生物由来製品の管理と取扱いについて説明できる。						
5. 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。						
6. 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。					「病院実習」	
7. 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				「調剤学」 「漢方治療学」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
8. 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				「調剤学」 「事前実務実習」		
9. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）						
10. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）						
11. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）						
13. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥安全管理】						
1. 前) 処方から服薬 (投薬) までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				「調剤学」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の特徴と注意点を列挙できる。						
3. 前) 代表的なインシデント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				「事前実務実習」		
4. 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。						
5. 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				「調剤学」 「事前実務実習」		
6. 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。						
7. 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。						
8. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)						
9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						
10. 施設内のインシデント (ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)						
11. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)						
12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(態度)						
13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)						
14. 院内での感染対策 (予防、蔓延防止など) について具体的な提案ができる。(知識・態度)					「病院実習」	
【③薬物療法の実践】						
【①患者情報の把握】						
1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
2. 前) 患者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)						
3. 前) 身体所見の観察・測定 (フィジカルアセスメント) の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。			「医療薬学実習」			
4. 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)						
5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・技能)						
6. 患者・来局者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。						
7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)						
【②医薬品情報の収集と活用】						
1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(技能)						
3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)						
4. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)						
5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)						
6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)						
【③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】						
1. 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				「調剤学」 「薬物治療学Ⅲ」 「事前実務実習」	「薬局実習」 「病院実習」	
2. 前) 病態 (肝・腎障害など) や生理的特性 (妊婦・授乳婦、小児、高齢者など) 等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			「医療薬学実習」			「薬物治療学Ⅲ」 「事前実務実習」
3. 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。						
4. 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				「事前実務実習」		
5. 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。						
6. 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。						
7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					「薬局実習」 「病院実習」	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。					「病院実習」		
9. 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方立案ができる。（知識・態度）							
10. 処方設計の立案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）							
11. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）							
12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）							
13. 処方立案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。							
14. 処方立案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）							
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】							
1. 前）代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				「調剤学」 「薬物治療学Ⅲ」 「事前実務実習」 「医療薬学演習Ⅲ」	「薬局実習」 「病院実習」		
2. 前）代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）				「調剤学」 「事前実務実習」			
3. 前）代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理を立案し、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）			「医療薬学実習」	「調剤学」 「薬物治療学Ⅲ」 「事前実務実習」			
4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。					「病院実習」		
5. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。（知識・態度）				「医療薬学演習Ⅲ」 「調剤学」			
6. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）							
7. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				「調剤学」	「薬局実習」 「病院実習」		
8. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。							
9. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				「医療薬学演習Ⅲ」 「調剤学」			
10. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）							
11. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）							
12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理を立案し、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）				「調剤学」			
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）							
(4) チーム医療への参画							
【①医療機関におけるチーム医療】							
1. 前）チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。		「チーム医療Ⅱ」	「チーム医療Ⅲ」	「調剤学」 「チーム医療Ⅳ」 「事前実務実習」	「病院実習」		
2. 前）多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				「調剤学」			
3. 前）病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				「チーム医療Ⅳ」 「事前実務実習」			
4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）				「調剤学」			
5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）							
6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）							
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）							
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）							
9. 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）							
【②地域におけるチーム医療】							
1. 前）地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。		「チーム医療Ⅱ」		「薬剤師と地域医療」 「事前実務実習」	「薬局実習」		
2. 前）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）							
3. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）							
4. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1. 前）在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。						
2. 前）在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						
3. 前）在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。						
4. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）						
5. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						
6. 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1. 前）地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。						
2. 前）公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。						
3. 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）						
4. 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）						
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】						
1. 前）現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）						
2. 前）代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）						
3. 前）代表的な症候に対する要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）						
4. 前）代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）						
5. 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）						
6. 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）						
7. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）						
8. 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
9. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）						
【④災害時医療と薬剤師】						
1. 前）災害時医療について概説できる。						
2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。						
3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）						
9 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						
2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）						
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）						
(2) 研究に必要な法規制と倫理						
1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。						
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。（態度）						
(3) 研究の実践						
1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）						
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）						
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）						
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）						
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）						
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）						

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

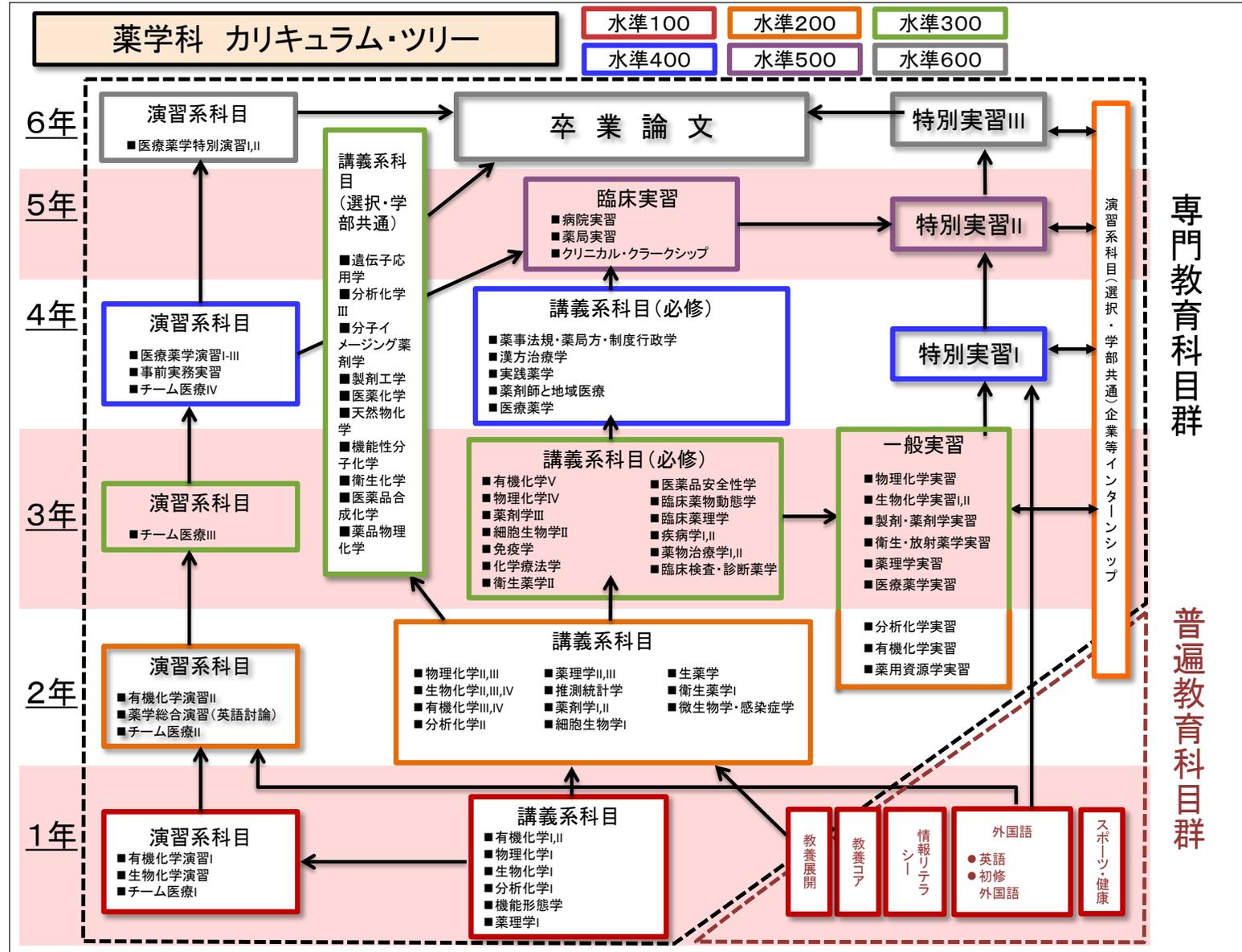
実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該当科目			
	2年	3年	4年	5年
F 薬学臨床				
(1) 薬学臨床の基礎				
【②臨床における心構え】				
1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)			「事前実務実習」 「医療薬学演習Ⅱ」	
2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)			「事前実務実習」	
3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				
【③臨床実習の基礎】				
1. 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。			「事前実務実習」	
2. 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				
3. 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				
4. 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				
5. 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)に関する業務の概略を説明できる。				
(2) 処方せんに基づく調剤				
【①法令・規則等の理解と遵守】				
1. 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			「事前実務実習」	
【②処方せんと疑義照会】				
1. 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			「事前実務実習」	
2. 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				
3. 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				
4. 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				
5. 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				
6. 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該当科目			
	2年	3年	4年	5年
【③処方せんに基づく医薬品の調製】				
1. 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）			「事前実務実習」	
2. 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				
5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				
6. 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）				
8. 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）				
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】				
1. 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できるの対応できる。（態度）		「医療薬学実習」	「事前実務実習」	
2. 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				
3. 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）		「医療薬学実習」		
4. 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）				
5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				
6. 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取り扱い方法を説明できる。（技能・態度）				
7. 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				
8. 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）		「医療薬学実習」		
【⑤医薬品の供給と管理】				
1. 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			「事前実務実習」	
2. 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				
3. 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				
4. 前) 特定生物由来製品の管理と取扱いについて説明できる。				
5. 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				
6. 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				
7. 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				
8. 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				
【⑥安全管理】				
1. 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			「事前実務実習」	
2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。				
3. 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）				
4. 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				
5. 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）				
6. 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				
7. 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目			
	2年	3年	4年	5年
(3) 薬物療法の実践				
【① 患者情報の把握】				
1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。			「事前実務実習」	
2. 前) 患者および種々の情報源(診療録・薬歴・指導記録・看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。 (技能・態度)				
3. 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。		「医療薬学実習」		
4. 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)				
【② 医薬品情報の収集と活用】				
1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)			「事前実務実習」	
【③ 処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】				
1. 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。			「事前実務実習」	
2. 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。		「医療薬学実習」		
3. 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				
4. 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				
5. 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				
6. 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				
【④ 処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】				
1. 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。			「事前実務実習」 「医療薬学演習Ⅲ」	
2. 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)			「事前実務実習」	
3. 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を挙示し、適切な評価と薬学的管理を立案し、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)		「医療薬学実習」		
(4) チーム医療への参画				
【① 医療機関におけるチーム医療】				
1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	「チーム医療Ⅱ」	「チーム医療Ⅲ」	「事前実務実習」 「チーム医療Ⅳ」	
2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				
3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				
【② 地域におけるチーム医療】				
1. 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。	「チーム医療Ⅱ」		「事前実務実習」	
2. 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画				
【① 在宅(訪問)医療・介護への参画】				
1. 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。		「医療薬学実習」	「事前実務実習」	
2. 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				
3. 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	「チーム医療Ⅱ」			
【② 地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】				
1. 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。			「事前実務実習」 「医療薬学演習Ⅰ」	
2. 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			「事前実務実習」	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該当科目			
	2年	3年	4年	5年
【④プライマリケア、セルフメディケーションの実践】				
1. 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)			「事前実務実習」	
2. 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)				
3. 前) 代表的な症候に対する要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				
4. 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				
【④災害時医療と薬剤師】				
1. 前) 災害時医療について概説できる。			「事前実務実習」	

(基礎資料4)カリキュラムマップ



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
基礎英語	1	○	○		
英語I L&S	1			○	○
英語I R	1	○			
英語I W	1		○		
CALL英語	1			○	
英語II (映像文化)	2~4	○		○	
英語II (口語英語)	2~4			○	○
英語II (報道英語)	2~4	○		○	
英語II (口頭発表)	2~4			○	○
英語II (留学準備)	2~4	○		○	○
英語II (英米分化)	2~4	○		○	○
英語II (文章表現)	2~4		○		
英語II (国際情報)	2~4	○		○	
英語II (文化芸術)	2~4	○		○	○
英語II (学術情報)	2~4	○		○	○
英語II (科学英語)	2~4	○			
英語II (CALL)	2~4			○	
中級英語I (総合)	1~4	○	○	○	○
中級英語I (CALL)	1~4			○	
中級英語I (オーラルコミュニケーション)	1~4			○	○
中級英語II (総合・留学準備)	1~4	○	○	○	○
中級英語II (オーラルコミュニケーション)	1~4			○	○
上級英語	1~4	○	○	○	○
海外研修英語文化 (アラバマ大学)	1~4	○	○	○	○
海外研修英語文化 (ボーンマス美術大学)	1~4	○	○	○	○
海外研修英語 (アラバマ大)	1~4	○	○	○	○
海外研修英語 (アルバータ大)	1~4	○	○	○	○
海外研修英語 (モナシュ大)	1~4	○	○	○	○
海外研修英語 (ロンドン大)	1~4	○	○	○	○
英語W-E (アラバマ大)	1~4	○	○		
検定英語I	1~4	○	○	○	
検定英語I・II	1~4	○	○	○	○
検定ドイツ語I	1~4	○	○	○	
検定ドイツ語I・II	1~4	○	○	○	
検定ドイツ語I・II・III	1~4	○	○	○	○
検定フランス語I	1~4	○	○	○	

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
検定フランス語I・II	1～4	○	○	○	○
検定フランス語I・II・III	1～4	○	○	○	○
検定中国語I	1～4	○	○	○	
検定中国語I・II	1～4	○	○	○	○
検定ロシア語I	1～4	○	○		
検定ロシア語I・II	1～4	○	○	○	
検定ロシア語I・II・III	1～4	○	○	○	○
ドイツ語1	1～4	○	○	○	○
ドイツ語1+2	1～4	○	○	○	○
ドイツ語3	1～4	○	○	○	○
ドイツ語4	1～4			○	○
ドイツ語3+4	1～4	○	○	○	○
ドイツ語5	1～4			○	○
ドイツ語6	1～4			○	○
フランス語1	1～4	○	○	○	○
フランス語2	1～4	○	○	○	○
フランス語1+2	1～4	○	○	○	○
フランス語3+4	1～4	○	○	○	○
フランス語5	1～4	○		○	○
フランス語6	1～4	○		○	○
中国語1	1～4	○	○	○	○
中国語2	1～4	○	○	○	○
中国語1+2	1～4	○	○	○	○
中国語3	1～4	○	○		
中国語3+4	1～4	○	○	○	○
中国語5	1～4	○	○	○	○
中国語6	1～4	○	○	○	○
スペイン語1	1～4	○	○	○	○
スペイン語2	1～4	○	○	○	○
スペイン語1+2	1～4	○	○	○	○
スペイン語3+4	1～4	○	○	○	○
スペイン語5	1～4	○	○	○	○
スペイン語6	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)1	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)2	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)1+2	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)3	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)4	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)3+4	1～4	○	○	○	○
朝鮮語(韓国語)5	1～4			○	○

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
朝鮮語（韓国語）6	1～4			○	○
ロシア語1	1～4	○	○	○	○
ロシア語2	1～4	○	○	○	○
ロシア語1+2	1～4	○	○	○	○
ロシア語3+4	1～4	○	○	○	○
ロシア語5	1～4	○			
ロシア語6	1～4	○		○	○
イタリア語1	1～4	○	○	○	○
イタリア語2	1～4	○	○	○	○
イタリア語1+2	1～4	○	○	○	○
イタリア語3	1～4	○			
イタリア語4	1～4	○			
イタリア語3+4	1～4	○	○	○	○
イタリア語5	1～4	○			
イタリア語6	1～4	○			
生物化学演習	1	○	○		

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6)4年次の実務実習事前学習のスケジュール

I グループ

月	日付	曜日	時限	場所	形態	内容	新コア・カリキュラム対応番号	LS
10	14	火	I	152	講義	概要等	—	—
			II			調剤の基本・処方箋鑑査	F-(2)-①-1、F-(2)-②-3、F-(2)-②-4	S201、S202
			III	152	SGD①	ファーマシューティカルケア・薬剤師の職能	A-(1)-②-3、B-(4)-①-2、F-(1)-②-1、F-(1)-②-3、F-(4)-①-1、F-(4)-①-2	S101、S102、S103、S104、
			IV					
	15	水	I	152	SGD②	処方せん鑑査	F-(2)-②-4	S211
			II	153-2	実習	軟膏	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210
			III					
			IV					
	16	木	I	004	実習	手洗い/てぶくろ・ガウン	F-(2)-⑥-5	S411
			II	153-3		クリンベンチ/搬入		
			III	152	実習	処方せん鑑査	F-(2)-②-3、F-(2)-②-4、F-(2)-②-5	S203、S210
	17	金	I	153-1	実習	水剤	F-(2)-①-1、F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3、F-(2)-③-5	S210
			II					
			III	152	講義	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208
			IV	152	実習	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208
	20	月	I	152	実習	混合注射	F-(2)-③-2、F-(2)-③-6	S411
			II					
			III	153-3				
			IV					
			V					
	VI	152	実習	注射(配合変化)	F-(2)-③-5	S302、S412		
	21	火	I	004	実習	薬局製剤	F-(2)-⑤-7、F-(5)-③-3	S409
			II					
III								
IV								
V								
22	水	I	153-3	実習	TPN	F-(2)-③-6、F-(2)-③-7	S411	
		II	152		抗がん剤			
		III	153-1	実習	錠剤・カプセル	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210	
		IV						
23	木	I	153-1	実習	散剤・顆粒剤・細粒剤/細胞毒性のある医薬品の調剤/麻薬・向精神薬・毒・劇の取り扱いと廃棄	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210、S302	
		II						
		III						

24	金	I	004	実習	院内製剤	F-(2)-⑤-6	S408、S410
		II					
		III					
		IV					
27	月	I	152	SGD③	医療安全	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-7	S501、S502 S506、S507
		II					
		III	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		IV					
		V					
		VI					
28	火	I	153	実技試験 1-1	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
29	水	I	153	実技試験 1-2	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
4	火	I	152	SGD④	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-6	S106、S301、 S303、S304
		II					
		III	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		IV					
		V					
		VI					
5	水	I	152	講義	リスクマネージメント(調剤・注射)	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-2、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-4、F-(2)-⑥-7、	S501、S502、 S503、S506、
		II	152	実習			
		III	152	SGD⑤	服薬指導(ベッドサイド・薬・薬連携)	F-(2)-④-5	S602、S603、 S604、S605、
		IV					
6	木	I	152	講義	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-5	S204、S301、 S303、S304、 S305
		II					
		III	152	実習	疑義照会の実践	F-(2)-②-6	S204、S306
		IV					
		V					

7	金	I	118	実習	医薬品情報	F-(3)-①-2、F-(3)-②-1	S605
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
10	月	I	152	講義	患者情報と服薬指導	F-(2)-③-4、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3	S602、S604、S605
		II	004 152(集合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、S604、S605、S606
		III					
		IV					
		V					
11	火	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
12	水	I	152	SGD⑥	医薬品の取り扱い	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5、F-(2)-⑤-8	S401、S402、S403、S404、S405、S406、S407
		II					
		III	118	実習	保険請求	B-(3)-①-7	—
		IV					
		V					
		VI					
13	木	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(ベットサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
14	金	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(ベットサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
17	月	I	152	SGD⑦	在宅医療	F-(4)-①-1、F-(4)-①-2、F-(4)-①-3、F-(4)-②-1、F-(4)-②-2、F-(5)-①-1、F-(5)-①-2、F-(5)-①-3	S104、S105
		II	152	SGD⑧	薬効評価	F-(2)-④-8、F-(3)-③-1、F-(3)-③-2、F-(3)-③-3、F-(3)-④-1、F-(3)-④-2、F-(3)-④-3	S504、S505
		III					
		IV					

18	火	I					
		II					
		III					
		IV					
		V					
19	水	I	153	実習	総合実習	F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
20	木	I	152	実技試験 2-1	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
21	金	I	152	実技試験 2-2	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
25	火	I	152	講義	プレアポイド	F-(2)-⑥-7	S501、S502
		II	152	講義	医薬品の取り扱い/特別な配慮を要する医薬品	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5	S403、S404、S405、S406、S407

II グループ

月	日付	曜日	時限	場所	形態	内容	新コア・カリキュラム対応番号	LS
	14	火	I	152	講義	概要等	—	—
			II			調剤の基本・処方箋鑑査	F-(2)-①-1、F-(2)-②-3、F-(2)-②-4	S201、S202
		IV	152	SGD①	ファーマシューティカルケア・薬剤師の職能	A-(1)-②-3、B-(4)-①-2、F-(1)-②-1、F-(1)-②-3、F-(4)-①-1、F-(4)-①-2	S101、S102、S103、S104、	
15	水	I	152	SGD②	処方せん鑑査	F-(2)-②-4	S211	
		II	004	実習	手洗い/てぶくろ・ガウン クリンベンチ/搬入	F-(2)-⑥-5	S411	
		III						
		IV						153-3

16	木	I	153-1	実習	水剤	F-(2)-①-1、F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3、F-(2)-③-5	S210
		II					
		III	152	実習	処方せん鑑査	F-(2)-②-3、F-(2)-②-4、F-(2)-②-5	S203、S210
		IV	153-3	実習	TPN	F-(2)-③-6、F-(2)-③-7	S411
		V	152		抗がん剤		
17	金	I	153-3	実習	混合注射	F-(2)-③-2、F-(2)-③-6	S411
		II					
		III					
		IV					
		V					
20	月	I	004	実習	薬局製剤	F-(2)-⑤-7、F-(5)-③-3	S409
		II					
		III					
		IV					
		V					
21	火	I	153-1	実習	錠剤・カプセル	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210
		II					
		III	153-2	実習	軟膏	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210
		IV					
22	水	I	006	実習	院内製剤	F-(2)-⑤-6	S408、S410
		II					
		III	004				
		IV					
23	木	I	152	講義	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208
		II	152	実習	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208
		III	152	実習	注射(配合変化)	F-(2)-③-5	S302、S412
24	金	I	153-1	実習	散剤・顆粒剤・細粒剤/細胞毒性のある医薬品の調剤/ 麻薬・向精神薬・毒・劇の取り扱いと	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210、S302
		II					
		III					
27	月	I	152	SGD③	医療安全	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-7	S501、S502 S506、S507
		II					
		III	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		IV					
		V					
		VI					

10

28	火	I	153	実技試験 1-1	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		II					
29	水	III	153	実技試験 1-2	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		IV					
4	火	V	152	SGD④	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-6	S106、S301、 S303、S304
		VI					
5	水	I	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		II	152	講義	リスクマネジメント(調剤・注射)	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-2、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-4、F-(2)-⑥-7、	S501、S502、 S503、S506、
6	木	III	152	SGD⑤	服薬指導(ベッドサイド・薬・薬連携)	F-(2)-④-5	S602、S603、 S604、S605、
		IV	152	講義	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-5	S204、S301、 S303、S304、 S305
7	金	V	118	実習	医薬品情報	F-(3)-①-2、F-(3)-②-1	S605
		VI					

10	月	I	152	講義	患者情報と服薬指導	F-(2)-③-4、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3	S602、S604、S605
		II	004 152(集合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、S604、S605、S606
		III					
		IV					
		V					
11	火	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
12	水	I	152	SGD⑤	医薬品の取り扱い	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5、F-(2)-⑤-8	S401、S402、S403、S404、
		II	118	実習	保険請求	B-(3)-①-7	—
		III					
		IV					
		V					
		VI					
13	木	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(ベットサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
14	金	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(ベットサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
17	月	I	152	SGD⑦	在宅医療	F-(4)-①-1、F-(4)-①-2、F-(4)-①-3、F-(4)-②-1、F-(4)-②-2、F-(5)-①-1、F-(5)-①-2、F-(5)-①-3	S104、S105
		II	152	SGD⑧	薬効評価	F-(2)-④-8、F-(3)-③-1、F-(3)-③-2、F-(3)-③-3、F-(3)-④-1、F-(3)-④-2、F-(3)-④-3	S504、S505
		III					
		IV					
18	火	I					
		II					
		III					
		IV					
		V					

11

19	水	I	153	実習	総合実習	F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
20	木	I	152	実技試験 2-1	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
21	金	I	152	実技試験 2-2	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
25	火	I	152	講義	プレアポイド	F-(2)-⑥-7	S501、S502
		II	152	講義	医薬品の取り扱い/特別な配慮を要する医薬品	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5	S403、S404、S405、S406、S407

Ⅲグループ

月	日付	曜日	時限	場所	形態	内容	新コア・カリキュラム対応番号	LS			
10	14	火	I	152	講義	概要等	—	—			
			II			調剤の基本・処方箋鑑査	F-(2)-①-1、F-(2)-②-3、F-(2)-②-4	S201、S202			
			III	152	SGD①	ファーマシューティカルケア・薬剤師の職能	A-(1)-②-3、B-(4)-①-2、F-(1)-②-1、F-(1)-②-3、F-(4)-①-1、F-(4)-①-2	S101、S102、S103、S104、			
			IV								
	15	水	I	152	SGD②	処方せん鑑査	F-(2)-②-4	S211			
			II	006	実習	院内製剤	F-(2)-⑤-6	S408、S410			
			III								
			IV	004							
			V								
			VI								
	16	木	I						153-2	実習	混合注射
			II								
			III	153-3							
			IV								
			V								
	17	金	I	004	実習	薬局製剤	F-(2)-⑤-7、F-(5)-③-3	S409			
			II								
			III								
			IV								
			V								
20	月	I	153-1	実習	散剤・顆粒剤・細粒剤/細胞毒性のある医薬品の調剤/ 麻薬・向精神薬・毒・劇の取り扱いと	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210、S302				
		II									
		III									
21	火	I	153-1	実習	水剤	F-(2)-①-1、F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3、F-(2)-③-5	S210				
		II									
		III	152					実習	処方せん鑑査	F-(2)-②-3、F-(2)-②-4、F-(2)-②-5	S203、S210
22	水	I	153-2	実習	軟膏	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210				
		II									
		III	153-3					実習	TPN	F-(2)-③-6、F-(2)-③-7	S411
		IV	152								
23	木	I	152	講義	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208				
		II	152	実習	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208				
		III	004	実習	手洗い/てぶくろ・ガウン クリンベンチ/搬入	F-(2)-⑥-5	S411				
		IV	153-3								

24	金	I	153-1	実習	錠剤・カプセル	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210	
		II						
		III	152	実習	注射(配合変化)	F-(2)-③-5	S302、S412	
27	月	I	152	SGD③	医療安全	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-7	S501、S502 S506、S507	
		II						
		III						
		IV						
		V						
		VI	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210	
28	火	I	153	実技試験 1-1	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210	
		II						
		III						
		IV						
		V						
		VI	153	実技試験 1-2	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210	
29	水	I	153	実技試験 1-2	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210	
		II						
		III						
		IV						
		V						
		VI	152	SGD④	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-6	S106、S301、 S303、S304	
4	火	II	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210	
		III						
		IV						
5	水	V	152	講義	リスクマネージメント(調剤・注射)	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-2、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-4、F-(2)-⑥-7、	S501、S502、 S503、S506、	
		VI						
		I		152	実習	服薬指導(ベッドサイド・薬・薬連携)	F-(2)-④-5	S602、S603、 S604、S605、
		II		152	SGD⑤			
6	木	III	152	講義	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-5	S204、S301、 S303、S304、 S305	
		IV						
		V						
		VI						152

7	金	I	118	実習	医薬品情報	F-(3)-①-2、F-(3)-②-1	S605
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
10	月	I	152	講義	患者情報と服薬指導	F-(2)-③-4、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3	S602、S604、S605
		II	004 152(集合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、S604、S605、S606
		III					
		IV					
		V					
11	火	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
12	水	I	152	SGD⑤	医薬品の取り扱い	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5、F-(2)-⑤-8	S401、S402、S403、S404、
		II	118	実習	保険請求	B-(3)-①-7	—
		III					
		IV					
		V					
		VI					
13	木	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(ベットサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
14	金	I	004 152(集合)	実習	服薬指導(ベットサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、S604、S605、S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
17	月	I	152	SGD⑦	在宅医療	F-(4)-①-1、F-(4)-①-2、F-(4)-①-3、F-(4)-②-1、F-(4)-②-2、F-(5)-①-1、F-(5)-①-2、F-(5)-①-3	S104、S105
		II	152	SGD⑧	薬効評価	F-(2)-④-8、F-(3)-③-1、F-(3)-③-2、F-(3)-③-3、F-(3)-④-1、F-(3)-④-2、F-(3)-④-3	S504、S505
		III					
		IV					

18	火	I					
		II					
		III					
		IV					
		V					
19	水	I	153	実習	総合実習	F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
20	木	I	152	実技試験 2-1	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
21	金	I	152	実技試験 2-2	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
25	火	I	152	講義	プレアポイド	F-(2)-⑥-7	S501、S502
		II	152	講義	医薬品の取り扱い/特別な配慮を要する医薬品	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5	S403、S404、S405、S406、S407

IVグループ

月	日付	曜日	時限	場所	形態	内容	新コア・カリキュラム対応番号	LS
10	14	火	I	152	講義	概要等	—	—
			II			調剤の基本・処方箋鑑査	F-(2)-①-1、F-(2)-②-3、F-(2)-②-4	S201、S202
			III	152	SGD①	ファーマシューティカルケア・薬剤師の職能	A-(1)-②-3、B-(4)-①-2、F-(1)-②-1、F-(1)-②-3、F-(4)-①-1、F-(4)-①-2	S101、S102、S103、S104、
			IV					
	15	水	I	152	SGD②	処方せん鑑査	F-(2)-②-4	S211
			II	153-1	実習	水剤	F-(2)-①-1、F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3、F-(2)-③-5	S210
			III					
			IV					
	16	木	I	006	実習	院内製剤	F-(2)-⑤-6	S408、S410
			II	004				
			III					
			IV					
	17	金	I	153-2	実習	軟膏	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210
			II					
			III	153-1	実習	錠剤・カプセル	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210
			IV					
	20	月	I	153-3	実習	TPN	F-(2)-③-6、F-(2)-③-7	S411
			II	152		抗がん剤		
			III	004	実習	手洗い/てぶくろ・ガウン	F-(2)-⑥-5	S411
			IV	153-3		クリンベンチ/搬入		
	21	火	I	153-3	実習	混合注射	F-(2)-③-2、F-(2)-③-6	S411
			II					
			III					
IV								
V								
VI			152	実習	注射(配合変化)	F-(2)-③-5	S302、S412	
22	水	I	153-1	実習	散剤・顆粒剤・細粒剤/細胞毒性のある医薬品の調剤/ 麻薬・向精神薬・毒・劇の取り扱いと	F-(2)-③-1、F-(2)-③-2、F-(2)-③-3	S210、S302	
		II						
		III						
23	木	I	004	実習	薬局製剤	F-(2)-⑤-7、F-(5)-③-3	S409	
		II						
		III	006					
		IV						
		V						

24	金	I	152	講義	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208
		II	152	実習	調剤薬鑑査	F-(2)-③-8	S210、S206、S207、S208
		III	118	実習	処方せん鑑査	F-(2)-②-3、F-(2)-②-4、F-(2)-②-5	S203、S210
27	月	I	152	SGD③	医療安全	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-7	S501、S502 S506、S507
		II					
		III	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		IV					
		V					
		VI					
28	火	I	153	実技試験 1-1	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
29	水	I	153	実技試験 1-2	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
4	火	I	152	SGD④	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-6	S106、S301、S303、S304
		II					
		III	153	実習	総合調剤	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8	S210
		IV					
		V					
		VI					

5	水	I	152	講義	リスクマネジメント(調剤・注射)	F-(2)-⑥-1、F-(2)-⑥-2、F-(2)-⑥-3、F-(2)-⑥-4、F-(2)-⑥-7、	S501、S502、 S503、S506、
		II	152	実習			
		III	152	SGD⑤	服薬指導(ベッドサイド・薬・薬連携)	F-(2)-④-5	S602、S603、 S604、S605、
		IV					
6	木	I	152	講義	疑義照会	F-(2)-①-1、F-(2)-②-5	S204、S301、 S303、S304、 S305
		II	152	実習	疑義照会の実践	F-(2)-②-6	S204、S306
		III					
		IV					
		V					
7	金	I	118	実習	医薬品情報	F-(3)-①-2、F-(3)-②-1	S605
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
10	月	I	152	講義	患者情報と服薬指導	F-(2)-③-4、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3	S602、S604、 S605
		II	004 152(集 合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、 S604、S605、 S606
		III					
		IV					
		V					
11	火	I	004 152(集 合)	実習	服薬指導(薬局カウンター)	F-(2)-③-4、F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6、F-(5)-③-3	S602、S603、 S604、S605、 S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
12	水	I	152	SGD⑤	医薬品の取り扱い	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5、F-(2)-⑤-8	S401、S402、 S403、S404、
		II	118	実習	保険請求	B-(3)-①-7	—
		III					
		IV					
		V					
		VI					
13	木	I	004 152(集 合)	実習	服薬指導(ベッドサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、 S604、S605、 S606
		II					
		III					
		IV					
		V					

14	金	I	004 152(集 合)	実習	服薬指導(ベツトサイド)	F-(2)-④-1、F-(2)-④-2、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S602、S603、 S604、S605、 S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
17	月	I	152	SGD⑦	在宅医療	F-(4)-①-1、F-(4)-①-2、F-(4)-①-3、F-(4)-②-1、F-(4)-②-2、F-(5)-①-1、F-(5)-①-2、F-(5)-①-3	S104、S105
		II	152	SGD⑧	薬効評価	F-(2)-④-8、F-(3)-③-1、F-(3)-③-2、F-(3)-③-3、F-(3)-④-1、F-(3)-④-2、F-(3)-④-3	S504、S505
		III					
IV							
18	火	I					
		II					
		III					
		IV					
		V					
19	水	I	153	実習	総合実習	F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S606
		II					
		III					
		IV					
		V					
20	木	I	152	実技試験 2-1	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
21	金	I	152	実技試験 2-2	総合演習	F-(2)-③-1、F-(2)-③-3、F-(2)-③-6、F-(2)-③-8、F-(2)-④-1、F-(2)-④-3、F-(2)-④-4、F-(2)-④-6	S701
		II					
		III					
		IV					
		V					
		VI					
25	火	I	152	講義	プレアボイド	F-(2)-⑥-7	S501、S502
		II	152	講義	医薬品の取り扱い/特別な配慮を要する医薬品	F-(2)-⑤-1、F-(2)-⑤-2、F-(2)-⑤-3、F-(2)-⑤-4、F-(2)-⑤-5	S403、S404、 S405、S406、 S407

(基礎資料7) 学生受入状況について

学科名	入試の種類		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
			入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	
薬学部	一般入試(前期日程)	受験者数	402	398	453	463	440	454	
		合格者数	66	66	68	68	65	66	
		入学者数(A)	62	64	63	66	60	63	
		募集定員数(B)	60	60	60	60	60	60	
		A/B*100(%)	103%	107%	105%	110%	100%	105%	
	一般入試(後期日程)	受験者数	149	223	199	153	137	288	
		合格者数	13	16	14	12	15	14	
		入学者数(A)	12	12	13	11	11	12	
		募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
		A/B*100(%)	120%	120%	130%	110%	110%	120%	
	推薦入試	受験者数	70	70	65	70	64		
		合格者数	10	10	10	10	10	10	
		入学者数(A)	10	10	10	10	10	10	
		募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
		A/B*100(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	帰国子女入試	受験者数	4	6	7	3	6	9	
		合格者数	1	2	1	1	3	2	
		入学者数(A)	0	2	1	1	2	2	
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-	
	私費外国人留学生入試	受験者数	6	4	2	1	0	3	
		合格者数	1	0	0	0	0	0	
		入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-	
	国費外国人留学生入試	受験者数	0	0	1	0	0	0	
		合格者数	0	0	1	0	0	0	
		入学者数(A)	0	0	1	0	0	0	
募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-		
学科計	受験者数	631	701	727	690	647	754		
	合格者数	91	94	94	91	93	92		
	入学者数(A)	84	88	88	88	83	87		
	募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80		
	A/B*100(%)	105%	110%	110%	110%	104%	109%		

※3年次進級時に、本人の志望を基に(志望に偏りのある場合は成績を基に)学科を決定する。なお、薬学科の定員は40名。

- [注]
- 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
 - 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
 - 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	30名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	4名

* 1 大学設置基準 第2条別表第一、イ備考四

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						19(2)=19名のうち2名が実務家教員
語学教育						
薬学基礎教育	19(2)	13(1)	1	21(2)		13(1)=13名のうち1名が実務家教員
専門薬学教育						21(2)=21名のうち2名が実務家教員
実務実習教育						
小計	19(2)	13(1)	1	21(2)		TA 0名(平成26年5月1日現在、後期に配置)RA 12名
専任教員数	54 (5)					
(事務職員の部)	事務長	副事務長	係長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	1	1	3	13	2	事務員13名のうち3名が主任
法人業務関連						その他2=技術専門職員
小計	1	1	3	13	2	
事務職員数	18					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授		5(1)	11(1)	3			19(2)
	%	26%	58%	16%	%	%	100%
准教授			2(2)	8(1)	3(1)		13(4)
	%	%	15%	62%	23%	%	100%
専任講師					1		1
	%	%	%	%	100%	%	100%
助教				2(1)	17(3)	2	21(4)
	%	%	%	10%	80%	10%	100%
合計		5(1)	13(3)	13(2)	21(4)	2	54(10)
	%	9%	24%	24%	39%	4%	100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業時 間数	最終学歴及び 学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬科学科	環境科学	教授		男	61	1982.4.1	2002.4.1	物理化学Ⅰ		0.7					0.0	0.7	1.8	京都大学大学院工学研究科博士課程修了工学博士
								物理化学Ⅱ	0.7						0.7	0.0		
								物理化学実習					1.0		1.0	0.0		
								薬品物理化学		0.7					0.0	0.7		
								薬学総合演習(英語講義)			0.4				0.4	0.0		
								計	0.7	1.4	0.4	0.0	1.0	0.0	2.1	1.4		
薬科学科	ゲノム機能学	教授		男	59	1985.4.1	1985.4.1	薬学への招待Ⅰ	0.1					0.1	0.0	2.2	東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了、薬学博士	
								生物化学Ⅰ		0.7				0.0	0.7			
								生物化学演習				0.2		0.0	0.2			
								生薬学	0.5					0.5	0.0			
								遺伝子応用学		0.3				0.0	0.3			
								薬用資源学実習					2.1	0.0	2.1			
								くすり与健康Ⅰ		0.2				0.0	0.2			
								社会の中のくすり		0.2				0.0	0.2			
								計	0.6	1.4	0.0	0.2	0.0	2.1	0.6			3.7
								生物化学演習				0.1		0.0	0.1			
								細胞生物学Ⅰ		0.8				0.0	0.8			
生物化学実習ⅡB					0.7	0.7	0.0											
細胞生物学Ⅱ	0.7					0.7	0.0											
免疫学		1.0				0.0	1.0											
薬学への招待Ⅰ	0.1					0.1	0.0											
化学療法学	0.5					0.5	0.0											
計	1.3	1.8	0.0	0.1	0.7	0.0	2.0	1.9										
薬科学科	神経薬物学	教授		男	58	2000.4.1	2000.4.1	薬理学Ⅰ		0.9				0.0	0.9	1.7	北海道大学大学院薬学研究科博士課程修了：薬学博士	
								薬理学Ⅱ	0.8					0.8	0.0			
								薬理学Ⅲ		0.7				0.0	0.7			
								薬理学実習					0.7	0.0	0.7			
								薬学総合演習			0.2			0.2	0.0			
								薬学への招待Ⅱ		0.1				0.0	0.1			
								計	0.8	1.7	0.2	0.0	0.0	0.7	1.0			2.4
薬科学科	高齢者薬剤学	教授		男	55	2014.4.1	2014.4.1	薬物治療学Ⅰ	0.4					0.4	0.0	3.9	北海道大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
								薬物治療学Ⅱ	0.2					0.2	0.0			
								薬物治療学Ⅲ	0.2					0.2	0.0			
								漢方治療学	0.1					0.1	0.0			
								医療薬学演習Ⅲ	0.8					0.8	0.0			
								薬局実習					1.4	1.4	1.4			1.4
								病院実習					1.5	1.5	1.5			1.5
								事前実務実習						0.2	0.0			0.2
								計	1.7	0.0	0.0	0.0	2.9	3.1	4.6			3.1
								疾病学Ⅰ		0.1					0.0			0.1
疾病学Ⅱ		0.1					0.0	0.1										
臨床検査・診断薬学		0.4					0.0	0.4										
医薬品情報学	0.1						0.1	0.0										
医療薬学実習Ⅲ		0.8					0.0	0.8										
薬学への招待Ⅱ		0.1					0.0	0.1										
薬物治療学Ⅱ	0.2						0.2	0.0										
病院実習					1.5	1.5	1.5	1.5										
計	0.3	1.5					1.8	3.0										

薬学科	高齢者薬物学	教授	男	41	2013.1.1	2013.1.1	薬剤学Ⅰ	0.7						0.7	0.0	3.2	東京大学大学院薬学系研究科博士後期課程修了 博士(薬学)
							薬剤学Ⅲ	0.5					0.5	0.0			
							臨床薬物動態学		0.9				0.0	0.9			
							薬学への招待Ⅱ		0.1				0.0	0.1			
							薬学総合演習			0.4			0.4	0.0			
							物理化学Ⅳ	0.1					0.1	0.0			
							医薬品安全性学		0.1				0.0	0.1			
							事前実務実習						0.2	0.0	0.2		
							医療薬学演習Ⅲ						0.8	0.0	0.8		
							医療薬学特別演習Ⅱ				0.2		0.0	0.2			
							製剤・薬剤学実習A・B					2.4	2.4	0.0	0.0		
							計	1.3	1.1	0.4	0.2	2.4	0.8	4.1	2.3		
							薬学科	臨床薬学	教授	男	53	2001.4.1	2007.8.1	医療薬学・医療行政学	0.4		
薬事法規・薬局方	0.5					0.5								0.0			
医療薬学演習Ⅰ				0.8		0.0								0.8			
医療薬学演習Ⅱ				0.8		0.0								0.8			
医療薬学演習Ⅲ				0.8		0.0								0.8			
事前実務実習						7.0								0.0	7.0		
薬局実習					1.4	1.4								1.4	1.4		
病院実習					1.5	1.5								1.5	1.5		
医療薬学特別演習Ⅰ				1.1		0.0								1.1			
医療薬学特別演習Ⅱ				1.1		0.0								1.1			
薬学への招待Ⅱ		0.1				0.0								0.1			
衛生薬学Ⅱ	0.4					0.4								0.0			
薬物治療学Ⅰ	0.4					0.4								0.0			
薬物治療学Ⅲ	0.1					0.1								0.0			
医療品情報学	0.5					0.5								0.0			
薬剤師と地域医療	0.4					0.4								0.0			
計	2.7	0.1	0.0	4.6	2.9	9.9								5.6	14.6		
薬学科	臨床薬学	教授	女	50	2009.4.1	2009.4.1	子一ム医療Ⅰ			2.2				2.2	0.0	12.0	明治薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了 博士(薬学)
							子一ム医療Ⅱ			2.6				2.6	0.0		
							子一ム医療Ⅲ			0.8				0.8	0.0		
							子一ム医療Ⅳ			1.0				1.0	0.0		
							薬学への招待Ⅱ		0.2				0.0	0.2			
							薬物治療学Ⅰ	0.1					0.1	0.0			
							薬物治療学Ⅲ	0.8					0.8	0.0			
							薬剤師と地域医療	0.1					0.1	0.0			
							薬事法規・薬局方	0.1					0.1	0.0			
							医療薬学実習						1.2	0.0	1.2		
							事前実務実習						6.5	0.0	6.5		
							医療薬学演習Ⅰ				0.8			0.0	0.8		
							医療薬学演習Ⅱ				0.8			0.0	0.8		
							医療薬学演習Ⅲ				0.8			0.0	0.8		
							薬局実習					1.4	1.4	1.4	1.4		
							病院実習					1.5	1.5	1.5	1.5		
							衛生薬学Ⅱ	0.1						0.1	0.0		
計	1.2	0.2	6.6	2.4	0.0	1.2	10.7	13.2									
薬学科	遺伝子薬物学	教授	男	45	2012.5.1	2012.5.1	生物学	1.1						1.1	0.0	3.0	大阪大学医学研究科博士課程修了 博士(医)
							生物化学Ⅲ	0.8					0.8	0.0			
							生物化学Ⅳ		1.5				0.0	1.5			
							生物化学実習ⅡA					2.1	2.1	0.0			
							生物化学演習				0.4		0.0	0.4			
							薬学への招待Ⅰ	0.1					0.1	0.0			
計	2.0	1.5	0.0	0.4	2.1	0.0	4.1	1.9									

薬学科	遺伝子薬物学講座	教授	男	63	1997.5.1	1997.5.1	臨床薬理学	0.8								0.8	0.0	千葉大学大学院薬学研究科修士課程修了 薬学博士
							薬物治療学Ⅳ	0.6							0.6	0.0		
							医薬品安全性学		0.5						0.0	0.5		
							薬学への招待Ⅱ		0.2						0.0	0.2		
							社会の中の薬学		0.1						0.0	0.1		
							薬理学実習						0.8	0.0	0.8			
							計	1.4	0.8				0.8	1.4	1.6	1.5		
薬科学科	分子医薬科学	教授	男	64	1995.9.1	1995.9.1	有機化学Ⅲ	0.9							0.9	0.0	学大学院薬学系研究科修士課程中退 1975年3月東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了 薬学博士(1982年、東京大学)	
							有機化学実習					1.4	0.0	1.4				
							有機化学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0			
							医薬化学		0.8					0.0	0.8			
							衛生薬学Ⅰ	0.3						0.3	0.0			
							分析化学Ⅰ		0.5					0.0	0.5			
							計	1.2	1.3	0.3	0.0	0.0	1.4	1.5	2.7	2.1		
薬科学科	分子医薬科学	教授	男	60	1996.4.1	2001.4.1	有機化学Ⅰ	0.8							0.8	0.0	北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了 博(薬)	
							有機化学Ⅱ		0.3					0.0	0.3			
							薬学への招待Ⅰ	0.1						0.1	0.0			
							衛生薬学Ⅰ	0.2						0.2	0.0			
							有機化学演習Ⅰ				0.1			0.0	0.1			
							医薬品合成化学	0.3						0.3	0.0			
							基礎化学B		0.5					0.0	0.5			
							計	1.4	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	1.4	0.9	1.2		
薬学科	分子医薬科学	教授	男	59	1989.4.1	2003.4.1	分析化学Ⅰ		1.0						0.0	1.0	千葉大学大学院役学研究科修士後期課程修了・薬学博士	
							分析化学Ⅱ	0.6						0.6	0.0			
							分析化学Ⅲ	1.0						1.0	0.0			
							分析化学実習						0.9	0.0	0.9			
							薬学への招待Ⅱ		0.1					0.0	0.1			
							薬学総合演習			0.2				0.2	0.0			
							衛生・放射薬学実習A						0.4	0.0	0.4			
							医療薬学特別演習Ⅱ				0.1			0.0	0.1			
							計	1.6	1.1	0.2	0.1	0.0	1.3	1.8	2.5	2.2		
薬科学科	分子医薬科学	教授	男	46	2002.9.1	2014.4.1	物理学基礎実験Ⅰ	0.5							0.5	0.0	千葉大学大学院薬学研究科修士課程修了 薬学博士(千葉大学)	
							製剤工学		1.0					0.0	1.0			
							薬剤学Ⅱ		1.0					0.0	1.0			
							薬剤学Ⅲ	0.6						0.6	0.0			
							製剤・薬剤学実習A・B						0.8	0.0	0.8			
							事前実務実習						0.2	0.0	0.2			
							医療薬学特別演習Ⅰ				0.1			0.0	0.1			
							物理化学Ⅳ	0.5						0.5	0.0			
							薬学への招待Ⅱ		0.1					0.0	0.1			
							計	1.6	2.1	0.0	0.1	0.0	0.8	1.6	3.2	2.4		
薬学科	分子医薬科学	教授	女	64	1976.4.16	2000.4.1	微生物学・感染症学		1.0						0.0	1.0	昭和41年、北海道大学大学院医学研究科博士課程2年中途退学 薬学博士(昭和56年、九州大学)、医学博士(平成2年)	
							衛生薬学Ⅱ	0.1						0.1	0.0			
							化学療法学	0.6						0.6	0.0			
							生物化学実習Ⅰ					0.8		0.8	0.0			
							薬学への招待Ⅰ	0.1						0.1	0.0			
							生物化学演習				0.1			0.0	0.1			
							計	0.8	1.0	0.0	0.1	0.8	0.0	1.6	1.1	1.4		
薬科学科	創薬資源科学	教授	男	60	1986.7.1	2004.4.1	有機化学Ⅳ		0.8						0.0	0.8	千葉大学大学院薬学研究科修士後期課程修了 薬学博士	
							機能性分子化学		0.9					0.0	0.9			
							有機化学演習Ⅱ			0.2				0.2	0.0			
							薬用資源学実習						1.8	0.0	1.8			
							基礎化学A	0.5						0.5	0.0			
							社会の中のくすり		0.2					0.0	0.2			
							計	0.5	1.9	0.2	0.0	0.0	1.8	0.7	3.7	2.2		

薬学科	創薬資源科学	教授	男	60	1999.4.1	1999.4.1	物理化学Ⅲ		0.7						0.0	0.7	2.1	京都大学大学院薬学研究科博士課程単位取得退学薬学博士
							物理化学Ⅳ	0.7					0.7	0.0				
							臨床検査・診断薬学		0.5				0.0	0.5				
							分子イメージング薬剤学	1.0					1.0	0.0				
							薬剤学Ⅲ	0.1					0.1	0.0				
							衛生・放射薬学実習B				0.7		0.7	0.0				
							薬学への招待Ⅰ	0.1					0.1	0.0				
							社会の中のくすり		0.3				0.0	0.3				
計	1.9	1.5	0.0	0.0	0.7	0.0	2.6	1.5										
薬科学科	創薬資源科学 活性構造化学研究室	教授	男	56	1997.11.1	1997.11.1	天然物化学		0.7					0.0	0.6	1.7	東京大学大学院理学系研究科博士課程修了理学博士	
							有機化学Ⅴ	0.7					0.7	0.0				
							分析化学Ⅱ	0.9					0.9	0.0				
							薬学への招待Ⅰ	0.1					0.1	0.0				
							基礎化学B		0.6				0.0	0.6				
							社会の中のくすり		0.3				0.0	0.3				
							計	1.7	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.6			
薬科学科	環境科学	准教授	男	49	1996.4.1	2001.4.1	情報処理	0.8						0.8	0.0	2.1	早稲田大学理工学研究科博士課程修了博(工)	
							物理化学Ⅰ		0.8				0.0	0.8				
							物理化学Ⅱ	0.8					0.8	0.0				
							薬品物理化学		0.8				0.0	0.8				
							物理化学実習				0.5		0.5	0.0				
							薬学への招待Ⅰ	0.1					0.1	0.0				
							有機化学演習Ⅰ		0.2				0.0	0.2				
							薬学総合演習	0.2					0.2	0.0				
計	1.9	1.8	0.0	0.0	0.5	0.0	2.4	1.8										
薬科学科	ゲノム機能学	准教授	女	50	1992.4.1	2000.5.1	生物化学Ⅰ		0.5					0.0	0.5	2.1	千葉大学大学院薬学研究科博士後期過程修了博(薬)	
							生物化学Ⅱ	0.5					0.5	0.0				
							生物化学演習				0.1		0.0	0.1				
							生薬学	0.4					0.4	0.0				
							薬用資源学実習					2.1	0.0	2.1				
							遺伝子応用学		0.2				0.0	0.2				
							漢方治療学	0.1					0.1	0.0				
計	1.0	0.7	0.0	0.1	0.0	2.1	1.0	3.3										
薬学科	神経薬物学	准教授	男	46	2005.4.1	2006.3.1	薬理学Ⅰ		0.6					0.0	0.6	1.4	北海道大学大学院薬学研究科博士課程修了博士(薬学)	
							薬理学Ⅱ	0.7					0.7	0.0				
							薬理学Ⅲ		0.8				0.0	0.8				
							薬学総合演習	0.1					0.1	0.0				
							薬理学実習					0.6	0.0	0.6				
計	0.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.6	0.8	2.0										
薬学科	高齢者薬物学	准教授	男	46	2009.1.1	2013.3.1	薬物治療学Ⅰ	0.4						0.4	0.0	6.9	千葉大学大学院薬学研究科博士後期課程修了博士(臨床薬学)	
							薬物治療学Ⅱ	0.2					0.2	0.0				
							薬物治療学Ⅲ	0.1					0.1	0.0				
							衛生薬学Ⅱ	0.1					0.1	0.0				
							漢方治療学	0.1					0.1	0.0				
							病態生化学	0.1					0.1	0.0				
							栄養学	0.2					0.2	0.0				
							医療薬学実習					0.5	0.0	0.5				
							医療薬学演習Ⅰ				0.1		0.0	0.1				
							医療薬学演習Ⅱ				0.1		0.0	0.1				
							医療薬学演習Ⅲ				0.1		0.0	0.1				
							事前実務実習					5.8	0.0	5.8				
							薬剤師と地域医療	0.1					0.1	0.0				
							薬局実習					1.4	1.4	1.4	1.4			
病院実習					1.5	1.5	1.5	1.5										
計	1.3	0.0	0.0	0.3	2.9	0.5	4.2	9.5										

薬学科	遺伝子薬物学	准教授	女	45	1997.10.1	2005.4.1	臨床薬理学	0.7							0.7	0.0	東京理科大学 薬学研究所 修士課程修了 博(薬)	
							薬理学実習					2.4	0.0	2.4				
							薬物治療学Ⅳ	0.6					0.6	0.0				
							医薬品安全性学		0.4				0.0	0.4				
							病態生化学(旧)		0.1				0.0	0.1				
							事前実務実習					0.2	0.0	0.2				
							計	1.3	0.5	0.0	0.0	0.0	2.4	1.3	2.9	2.1		
薬科学科	分子医薬科学	准教授	男	37	2003.1.1	2012.1.1	有機化学Ⅲ	0.5		0.1				0.6	0.0	東京大学大学院 薬学系研究科 修士課程修了 (薬学博士)		
							医薬化学		0.6		0.1		0.0	0.7				
							有機化学実習		0.2			1.8	0.0	2.0				
							有機化学演習Ⅱ	0.2		0.2			0.4	0.0				
							医療薬学特別演習Ⅰ				0.1		0.0	0.1				
							計	0.7	0.8	0.3	0.2	0.0	1.8	1.0	2.8		1.9	
薬科学科	分子医薬科学	准教授	男	45	2001.12.1	2007.4.1	医薬品合成化学	1.2					1.2	0.0			東京大学大学院 薬学系研究科 博士前期課程 修了薬学博士	
							有機化学演習Ⅰ				0.1		0.0	0.1				
							有機化学実習					1.0	0.0	1.0				
							有機化学Ⅰ	0.7					0.7	0.0				
							計	1.9	0.0	0.0	0.1	0.0	1.0	1.9	1.1	1.5		
							臨床検査・診断薬学		0.5				0.0	0.5				千葉大学 薬学研究所 博士課程 中退 博士(薬学)
							生物化学Ⅱ	0.5					0.5	0.0				
							薬学総合演習			0.2			0.2	0.0				
							分析化学Ⅲ	0.3					0.3	0.0				
							分析化学実習					0.7	0.0	0.7				
							衛生・放射薬学実習A					0.8	0.0	0.8				
							事前実務実習					0.2	0.0	0.2				
							病態生化学(旧)	0.6					0.6	0.0				
							計	1.4	0.5	0.2	0.0	0.1	1.7	1.6	2.2	1.9		
薬学科	分子医薬科学	准教授	女	37	2001.4.1	2009.10.1	生物化学Ⅲ	0.5					0.5	0.0			平成13年 千葉大学大学院 薬学系研究科 修士前期課程修了 薬学博士(平成17年, 千葉大学)	
							微生物学・感染症学		0.3				0.0	0.3				
							化学療法学	0.2					0.2	0.0				
							遺伝子応用学		0.3				0.0	0.3				
							生物化学演習				0.1		0.0	0.1				
							生物化学実習Ⅰ					0.8	0.8	0.0				
							事前実務実習						3.5	0.0	3.5			
							医療薬学演習Ⅰ				0.2		0.0	0.2				
							医療薬学演習Ⅱ				0.2		0.0	0.2				
							薬局実習					1.4	1.4	1.4	1.4			
							病院実習					1.5	1.5	1.5	1.5			
							医療薬学特別演習Ⅰ				0.6		0.0	0.6				
							計	0.7	0.6	0.0	1.1	3.7	0.0	4.4	8.1	6.3		
薬科学科	薬品製造学	准教授	男	40	2010.4.1	2010.4.1	有機化学Ⅱ		1.2				0.0	1.2			東京大学大学院 薬学系研究科 博士課程 修了 博(薬)	
							創薬化学	0.5					0.5	0.0				
							医療薬学特別演習		0.1				0.0	0.1				
							基礎化学B		0.4				0.0	0.4				
							衛生薬学Ⅱ	0.1					0.1	0.0				
							有機化学演習				2.7		0.0	2.7				
							有機化学実習					1.3	0.0	1.3				
							計	0.6	1.7	0.0	2.7	0.0	1.3	0.6	5.7	3.2		
薬科学科	創薬資源科学	准教授	女	50	1986.10.1	2005.4.1	有機化学Ⅳ		0.7				0.0	0.7			千葉大学薬学部 博士(薬学)	
							有機化学演習Ⅱ			0.2			0.2	0.0				
							機能性分子化学		0.5				0.0	0.5				
							事前実務実習					0.2	0.0	0.2				
							医療薬学特別演習Ⅰ				0.1		0.0	0.1				
							薬用資源学実習					2.1	0.0	2.1				
							基礎化学A	0.5					0.5	0.0				
							計	0.5	1.2	0.2	0.1	0.0	2.1	0.7	3.6	2.2		

薬学科	創薬資源科学	准教授	男	40	2000.1.1	2012.1.16	機能形態学	0.9					0.9	0.0	2.3	京都大学大学院薬学研究科博士課程中退博士(薬学)	
						物理化学Ⅲ		0.8				0.0	0.8				
						分子イメージング薬剤学		0.2				0.0	0.2				
						医療薬学特別演習Ⅰ				0.2		0.0	0.2				
						衛生・放射薬学実習B					2.3	2.3	0.0				
						放射線と生命科学	0.1	0.1				0.1	0.1				
						計	1.0	1.1	0.0	0.2	2.3	0.0	3.3	1.3			
薬科学科	創薬資源科学	准教授	女	42	2006.4.1	2006.4.1	有機化学Ⅴ	0.8					0.8	0.0	1.7	東京大学大学院薬学研究院博士課程修了博士(薬学)	
						天然物化学		0.6				0.0	0.6				
						薬用資源学実習					2.0	0.0	2.0				
						計	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	2.0	0.8	2.6			
薬学科	ゲノム機能学	講師	男	35	2006.9	2012.8.1	細胞生物学Ⅰ		0.4				0.0	0.4	1.9	大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了博士(博学)	
						細胞生物学Ⅱ	0.5					0.5	0.0				
						生物化学実習ⅡB				2.1		2.1	0.0				
						生物化学演習				0.2		0.0	0.2				
						生物化学Ⅱ	0.3					0.3	0.0				
						医療薬学特別演習Ⅱ				0.1		0.0	0.1				
						病態生化学	0.1					0.1	0.0				
						計	0.9	0.4	0.0	0.3	2.1	0.0	3.0	0.7			
薬科学科	環境科学	助教	男	35	2008.4.1	2008.4.1	物理化学実習				0.8		0.8	0.0	0.5	京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了博士(理学)	
						医療薬学特別演習Ⅰ				0.1		0.0	0.1				
						計	0.0	0.0	0.0	0.1	0.8	0.0	0.8	0.1			
薬科学科	ゲノム機能学	助教	女	37	2007.6.1	2007.6.1	生物化学Ⅰ		0.4				0.0	0.4	2.1	千葉大学大学院医学薬学府後期3年博士課程修了博士(薬学)	
						チーム医療Ⅰ	1.0					1.0	0.0				
						生物化学演習				0.2		0.0	0.2				
						衛生薬学Ⅰ	0.2					0.2	0.0				
						薬用資源学実習					2.1	0.0	2.1				
						遺伝子応用学		0.2				0.0	0.2				
						医療薬学特別演習Ⅰ				0.1		0.0	0.1				
						計	1.2	0.6	0.0	0.3	0.0	2.1	1.2	3.0			
薬学科	ゲノム機能学	助教	男	36	2012.12.1	2012.12.1	細胞生物学Ⅰ		0.3				0.0	0.3	1.5	東京大学大学院薬学系研究科・博士(薬学)	
						細胞生物学Ⅱ	0.3					0.3	0.0				
						生物化学実習ⅡB				1.4		1.4	0.0				
						チーム医療Ⅲ					0.8	0.0	0.8				
						チーム医療Ⅰ			0.1			0.1	0.0				
						生物化学演習				0.1		0.0	0.1				
						計	0.3	0.3	0.1	0.1	1.4	0.8	1.8	1.2			
薬学科	神経薬物学	助教	男	34	2006.10.1	2006.10.1	医療薬学特別演習Ⅱ				0.2		0.0	0.2	1.6	千葉大学大学院医学薬学府後期3年博士課程修了博士(薬学)	
						薬理学実習					2.7	0.0	2.7				
						病態生化学(旧)	0.2					0.0	0.0				
						計	0.2			0.2		2.7	0.2	2.9			
薬学科	高齢者薬物学	助教	女	34	2008.4.1	2008.4.1	薬物治療Ⅱ	0.4					0.4	0.0	5.9	千葉大学大学院医学薬学府後期3年博士課程修了博士(薬学)	
						薬物治療Ⅲ	0.1					0.1	0.0				
						漢方治療学	0.2					0.2	0.0				
						医療薬学実習					3.0	0.0	3.0				
						事前実務実習					1.7	0.0	1.7				
						薬局実習				1.4	1.4	1.4	1.4				
						医療薬学演習Ⅱ				3.0		0.0	3.0				
						チーム医療Ⅱ	0.1					0.1	0.0				
						医療学特別演習Ⅱ				0.1		0.0	0.1				
						病態生化学(旧)	0.2					0.2	0.0				
						栄養学(旧)	0.2					0.2	0.0				
						計	1.2	0.0	0.0	3.1	1.4	6.1	2.6	9.2			

薬学科	高齢者薬物学	助教	男	32	2005.4.1	2005.4.1	薬剤学I	0.6						0.6	0.0	2.3	千葉大学薬学部総合薬品科学科卒業薬学博士
							薬剤学III	0.8					0.8	0.0			
							薬学総合演習	0.2		0.1			0.3	0.0			
							臨床薬物動態学		0.8				0.0	0.8			
							製剤・薬剤学実習A					0.8	0.8	0.0			
							医薬品安全性学		0.3				0.0	0.3			
							チーム医療IV				0.2		0.0	0.2			
							事前実務実習						0.2	0.0	0.2		
							医療薬学演習III				0.4		0.4	0.0			
							医療薬学特別演習II		0.1				0.0	0.1			
							計	1.6	1.2	0.1	0.6	0.8	0.2	2.9	1.6		
薬学科	高齢者薬物学	助教	男				薬剤学I	0.2					0.2	0.0	1.4	東京大学大学院薬学系研究科生命薬学専攻博士課程修了薬学博士	
							薬剤学III	0.1					0.1	0.0			
							製剤・薬剤学実習A				2.0		2.0	0.0			
							医療薬学演習III				0.4		0.0	0.4			
計	0.3	0.0	0.0	0.4	2.0	0.0	2.3	0.4									
薬学科	臨床薬学	助教	男	40	2005.4.1	2005.4.1	薬物治療学I	0.2					0.2	0.0	8.4	千葉大学大学院博士課程修了薬学博士	
							医薬品情報学	0.1					0.1	0.0			
							薬事法規・薬局方	0.2					0.2	0.0			
							チーム医療II	0.1					0.1	0.0			
							事前実務実習						6.8	0.0			6.8
							医療薬学実習						1.9	0.0			1.9
							医療薬学演習I				0.8		0.0	0.8			
							医療薬学演習II				0.8		0.0	0.8			
							衛生薬学II	0.1					0.1	0.0			
							薬局実習					1.4	1.4	1.4			1.4
							病院実習					1.5	1.5	1.5			1.5
計	0.7	0.0	0.0	1.6	2.9	11.6	3.6	13.2									
薬学科	臨床薬学	助教	女	40	2008.10.1	2009.10.1	薬事法規・薬局方	0.4					0.4	0.0	6.1	筑波大学大学院修士課程修了薬学博士	
							医療薬学・医療行政学	0.1					0.1	0.0			
							医薬品情報学	0.1					0.1	0.0			
							医療薬学演習I				0.8		0.0	0.8			
							医療薬学演習II				0.8		0.0	0.8			
							衛生薬学II	0.2					0.2	0.0			
							事前実務実習						6.9	0.0			6.9
							薬局実習					1.4	1.4	1.4			1.4
計	0.8	0.0	0.0	1.6	1.4	8.3	2.2	9.9									
薬学科	臨床薬学	助教	男	35	2007.4.1	2013.4.1	調剤学	0.5					0.5	0.0	23.4	共立薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程修了修士(医療薬学)	
							チーム医療I				1.8		1.8	0.0			
							チーム医療II				2.0		2.0	0.0			
							チーム医療III					0.8	0.0	0.8			
							チーム医療IV					2.0	0.0	2.0			
							医療薬学実習					0.4	0.0	0.4			
							事前実務実習					5.2	0.0	5.2			
							医療薬学演習I				1.2		0.0	1.2			
							医療薬学演習II				1.2		0.0	1.2			
							医療薬学演習III				1.2		0.0	1.2			
							薬局実習					1.4	1.4	1.4			1.4
病院実習					13.8	13.8	13.8	13.8									
計	0.5	0.0	0.0	3.6	19.0	23.6	19.5	27.2									
薬学科	遺伝子薬物学	助教	男	34	2012.10.1	2012.10.1	生物化学実習II B				2.1		2.1	0.0	1.5	名古屋大学大学院理学研究科博士課程(後期課程)生命理学専攻修了	
							化学物質と生体応答1	0.3					0.3	0.0			
							化学物質と生体応答2	0.3					0.3	0.0			
							チーム医療I ファシリテ-	0.2					0.2	0.0			
計	0.8	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	2.9	0.0									

薬学科	遺伝子薬物学	助教	女	33	2012.10.1	2012.10.1	生物化学実習ⅡA					2.1		2.1	0.0		東京大学薬学研 究科・博士課程 修了・博(薬)
							生物化学演習			0.2				0.0	0.2		
							計	0.0	0.0	0.0	0.2	2.1	0.0	2.1	0.2	1.2	
薬学科	遺伝子薬物学	助教	男	37	2005.4.1	2005.4.1	薬学への招待Ⅱ		0.2					0.0	0.2		博士(薬学) 千葉大学
							臨床薬理学	0.2						0.2	0.0		
							薬物治療学Ⅳ	0.6						0.6	0.0		
							化学物質と生体応答	0.7						0.7	0.0		
							薬理学実習					1.5		0.0	1.5		
							病態生化学	0.1						0.1	0.0		
							計	1.6	0.2	0.0	0.0	0.0	1.5	1.6	1.7	1.7	
薬科学科	分子医薬科学	助教	男	28	2013.5.1	2013.5.1	有機化学演習Ⅱ			0.4				0.4	0.0		京都大学大学 院薬学研究所 博士課程修了 博士(薬学)
							基礎化学A	0.5						0.5	0.0		
							有機化学実習					2.7		0.0	2.7		
							チーム医療	0.2						0.2	0.0		
							計	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	2.7	1.1	2.7	1.9	
薬科学科	分子医薬科学	助教	男	34	2007.4.1	2007.4.1	有機化学演習Ⅰ				0.2			0.0	0.2		東京大学大学 院薬学系研究 科博士課程修 了 博士(薬学)
							有機化学実習					1.8		0.0	1.8		
							チーム医療Ⅰ	2.2						2.2	0.0		
							医療薬学特別演習Ⅰ				0.1			0.0	0.1		
							計	2.2	0.0	0.0	0.3	0.0	1.8	2.2	2.1	2.2	
薬学科	分子医薬科学	助教	男	35	2010.4.1	2010.4.1	分析化学Ⅲ	0.2						0.2	0.0		千葉大学大学 院医学薬学府 先進医療科学 専攻 博士 (医薬学)
							分析化学実習					0.3		0.0	0.3		
							衛生・放射薬学実習A					0.2		0.0	0.2		
							医療薬学特別演習Ⅱ			0.1				0.0	0.1		
							チーム医療Ⅳ					0.1		0.0	0.1		
							リーディング大学院	0.1						0.1	0.0		
							実践社会薬学の確立と発 展に資する薬剤師養成プ ログラム IPE step1			0.2				0.2	0.0		
							実践社会薬学の確立と発 展に資する薬剤師養成プ ログラム IPE step4			1.1				1.1	0.0		
							実践社会薬学の確立と発 展に資する薬剤師養成プ ログラム IPE クラスE-3 ドーピング防止啓発活動			1.1				1.1	0.0		
							計	0.3		2.4	0.1		0.6	2.7	0.7	1.7	
薬科学科	分子医薬科学	助教	男	32	2007.4.1	2007.4.1	物理学基礎実験Ⅰ					1.5		1.5	0.0		千葉大学大学 院医学薬学府 修士課程 修了 博(薬)
							薬剤学Ⅱ		0.4					0.0	0.4		
							薬剤学Ⅲ		0.1					0.0	0.1		
							製剤工学		0.4					0.0	0.4		
							物理化学Ⅳ	0.2						0.2	0.0		
							製剤・薬剤学実習A・B					2.3		2.3	0.0		
							チーム医療Ⅲ		0.2					0.0	0.2		
							医療薬学特別演習Ⅱ				0.2			0.0	0.2		
							計	0.2	1.1	0.0	0.2	3.8	0.0	4.0	1.3	2.7	
薬学科	分子医薬科学	助教	男	35	2009.4.1	2009.4.1	生物化学実習Ⅰ					1.1		1.1	0.0		千葉大学薬学 研究所修士課 程修了 博(薬)
							チーム医療Ⅱ					0.3		0.3	0.0		
							遺伝子応用学		0.2					0.0	0.2		
							生物化学演習				0.4			0.0	0.4		
							計		0.2		0.4	1.4		1.4	0.6	1.0	

薬科学科	創薬資源科学	助教	男	35	2004.10.1	2004.10.1	有機化学演習Ⅱ			0.2				0.2	0.0	1.8	千葉大学大学院医学薬学府 修了 博士 (薬学)
							機能性分子化学		0.2				0.0	0.2			
							医療薬学特別演習Ⅰ			0.1			0.0	0.1			
							チーム医療Ⅱ			1.0			1.0	0.0			
							薬用資源学実習					1.8	0.0	1.8			
							創薬化学	0.2					0.2	0.0			
計	0.2	0.2	1.2	0.1	0.0	1.8	1.4	2.1									
薬学科	創薬資源科学	助教	男	36	2011.3.1	2011.3.1	分子イメージング薬剤学	0.2					0.2	0.0	0.6	京都大学大学院薬学研究所修士 課程修了 博 (医)	
							衛生・放射薬学実習B				0.9		0.9				
							計	0.2			0.9		0.2	0.9			
薬科学科	活性構造化学研究室	助教	男	36	2009.6.1	2009.6.1	チーム医療Ⅰ	3.0					3.0	0.0	3.0	千葉大学大学院医学薬学府 博士課程修了 博士 (薬学)	
							衛生薬学Ⅰ	0.3					0.3	0.0			
							薬用資源学実習					2.5	0.0	2.5			
							天然物化学		0.1				0.0	0.1			
							医療薬学特別演習		0.1				0.0	0.1			
							計	3.3	0.2			2.5	3.3	2.7			

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	44名
5年生の在籍学生数	35名
6年生の在籍学生数	37名

	配属研究室	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬品物理化学	3	0	2	3	5
2	遺伝子資源応用	3	3	4	2	9
3	分子細胞生物学	3	4	3	3	10
4	薬効薬理学	3	0	0	1	1
5	高齢者薬剤学	3	5	4	5	14
6	分子心血管薬理学	2	4	3	2	9
7	生物薬剤学	3	3	0	2	5
8	病院薬学	2	2	2	2	6
9	臨床教育	3	4	5	4	13
10	実務薬学	3	1	2	2	5
11	生化学	3	2	3	2	7
12	薬物学	3	5	1	3	9
13	薬化学	3	1	0	0	1
14	薬品合成化学	3	0	0	0	0
15	病態分析化学	3	1	1	2	4
16	製剤工学	2	0	0	2	2
17	微生物薬品化学	3	1	1	0	2
18	薬品製造学	2	1	0	0	1
19	生体機能性分子	3	1	2	0	3
20	分子画像薬品学	3	3	1	2	6
21	活性構造学	3	1	1	0	2
22	医薬品情報学	1	2	0	0	2
	合計	60	44	35	37	116

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
亥鼻キャンパス	講義室	4	437	共有	384	297	1.47	
	実習室	3	653	共有	220	179	3.65	
	演習室	1	99	共有	42	169	0.59	
	情報解析室	1	91	専用	49	35	2.60	
	トレーニングルーム	4	59	専用	4	35	1.69	
	実務研修薬局	1	147	専用	5	35	4.20	
西千葉キャンパス (全学共通)	講義室	4	524	共有	491	2,322	0.23	薬学部83人
	実験室	2						
	演習室	1						
西千葉キャンパス	講義室	1	180	共有	104	2,022	0.09	薬学部83人
	実験室	1	95	共有	40	87	1.09	

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） A/B * 100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
本館	719	9,492	7.6	グループ閲覧室： 4室 研究者個室：8室	グループ閲覧 室：計48席 研究者個室：計8 席	無線LAN使用可能	・改修のため、 座席数は前年比 54%程度（2014 年10月オープン 予定） ・教育用端末50 台、情報検索用 2台、館内貸出 PC15台、館内貸 出タブレット10 台 ・閲覧室の一部 で無線LAN使用 可能
亥鼻分館	211	2,176	9.7	グループ閲覧室： 4室	計48席	無線LAN使用可能	・情報検索用端 末10台 ・閲覧室の一部 で無線LAN使用 可能
松戸分館	128	1,064	12.0	アクティブラーニ ングスペース：1 室	20席	無線LAN使用可能	情報検索用端末 8台 ・閲覧室の一部 で無線LAN使用 可能
計	1,058	12,732					

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
本館	1,037,476	492,638	9,361	5,784	3,700	21,927	8,385	7,719	7,529	電子ジャーナルは全学+ 西千葉キャンパス限定ア クセスの数
亥鼻分館	253,642	158,367	2,341	3,149	898	22	2,377	2,223	4,871	電子ジャーナルは亥鼻 キャンパス限定アクセス の数
松戸分館	96,404	50,579	2,637	926	323	3	631	1,114	867	電子ジャーナルは松戸 キャンパス限定アクセス の数
計	1,387,522	701,584	14,339	9,859	4,921	21,952	11,393	11,056	13,267	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	環境科学
		職名	教授
		氏名	根矢 三郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年5月～	講義内容の理解を促すために、学生には毎回小試験を課している。小試験は出席状況の把握にも利用している。講義冒頭では講義概要を伝え、前回講義との関連を明示している。講義には教科書以外に、手作りの講義資料を配布して教科書内容の補完に努めている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成20年5月 平成23年3月	ベーシック薬学教科書シリーズ3「物理化学」(2009)1-64ページ、(化学同人、京都) スタンダード薬学シリーズ2 第2版「物理系薬学Ⅰ」(2011) 40-51ページ (東京化学同人、東京)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年5月～	薬学部で開かれる教育活動に関するFDおよび学生と教員間の意見交換会には毎回出席している。さらに、普遍教育コア科目の主任・副主任を担当しており、普遍教育での学生からの講義に関する要望を毎年聞いている。学生の意見には真摯に耳を傾けて授業改善に反映している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Saburo Neya, Masaaki Suzuki, Tyuji Hoshino "Molecular insight of interisic heme distortion to the ligand binding in hemoprotein"	共著	2010年4月	Biochemistry (2010) 49, 5642-5650.
(論文) Chunmao He, Saburo Neya, Markus Knipp "Breaking of the proximal Fe(III)-his bond in hemoproteins through local structural tension"	共著	2011年8月	Biochemistry (2011) 50, 8559-5575.
(論文) Saburo Neya, Masaaki Suzuki, Takashi Matsugae, Tyuji Hoshino "Synthesis, structure, and aromaticity of the Ni(II) complex of pyricorrole"	共著	2012年4月	Inorg. Chem. (2012) 51, 3126-3129.
(論文) Saburo Neya, Masaaki Suzuki, Tyuji Hoshino, Akira Kawaguchi "Relaxation analysis of ligand binding to the myoglobin with Co(III) heme"	共著	2013年6月	Inorg. Chem. (2013) 52, 7383-7392.
(論文) Saburo Neya, Takashi Yoneani, Akira Kawaguchi "Usefulness of the myoglobin containing cobalt heme cofactor in designing myoglobin-based artificial oxygen carrier"	共著	2014年10月	Artificial Organs (2014) 38, 327-329.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
酸素結合型ミオグロビンにおける量子化学的共鳴を通じた酸素親和性調節		2014年6月	第41回生体分子科学討論会
ミオグロビンの酸素結合を支配するヘム構造因子の解明		2014年6月	第24回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Porphyrin with a terpyridine coordination units as the imaging probe for SPECT		2014年6月	8th International conference on porphyrins and phthalocyanines
Skeltallyly recombined N-fused pentaphyrin bromide and its derivatives		2014年6月	8th International conference on porphyrins and phthalocyanines
COよりもO ₂ にたいして高い親和性をしめすミオグロビンの創製		2014年9月	第52回日本生物物理学会年会
二つのピリジン環をもつ新しい芳香族ポルフィリノイドの号関と性質		2014年9月	錯体化学第64回討論会
非平面meso-トリフロメチル置換β-オクタアルキルポルフィリンの合成と物性		2014年9月	第25回基礎有機化学討論会
Interaction between pyridine units in novel bis(pyridine)-substituted aromatic porphyrinoid.		2014年10月	Michinoku international symposium of porphyrins and phthalocyanines.
Electronic regulation of ligand-binding preference of the L29F mutant of myoglobin.		2014年10月	Michinoku international symposium of porphyrins and phthalocyanines.
Characterization of elusive electronic state of ferrous high-spin heme in deoxy myoglobin.		2014年11月	第53回NMR討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年～	日本薬学会生体金属の関与する生体関連反応シンポジウム評議員		
平成23年度および24年度	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員第1次審査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	千葉大学	講座名	ゲノム機能学(遺伝子資源応用)	職名 教授 氏名 齊藤 和季
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年4月～	初回の講義日に、講義の目標、評価、教科書などについて詳細に説明するとともに、ノートを取り方、予習復習の仕方について説明している。講義はノートを取りながら考えることを重視し、板書を基本に行っている。	
2	作成した教科書、教材、参考書		天然医薬資源学第5版(廣川書店)編集、分担執筆 H23年生物学辞典 第5版(岩波書店)分野編集、分担執筆 H25年生物学辞典(東京化学同人)分担執筆 H22年植物ゲノム科学辞典(朝倉書店)編集、分担執筆 H21年	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部で開催されるFDフォーラムに毎回出席し、種々の問題提起と解決方法を探っている。	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
(論文) Metabolomics for Functional Genomics, Systems Biology, and Biotechnology	共著	2010年5月	Annual Review of Plant Biology, 61, 463-489	
(論文) Triterpene Functional Genomics in Licorice for Identification of CYP72A154 Involved in the Biosynthesis of Glycyrrhizin	共著	2011年11月	Plant Cell, 23 (11), 4112-4123	
(論文) Lysine Decarboxylase Catalyzes the First Step of Quinolizidine Alkaloid Biosynthesis and Coevolved with Alkaloid Production in Leguminosae	共著	2012年3月	Plant Cell, 24 (3), 1202-1216	
(論文) Phytochemical genomics - a new trend	単著	2013年6月	Current Opinion Plant Biology, 16 (3), 373-380	
(論文) 統合メタボロミクスによる有用植物資源の開発	共著	2014年5月	化学と生物, 52 (5), 313-320	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(招待講演) Metabolomics revolutionizes phytochemical genomics and crops improvement		2014年・6月	10th Annual Conference of the Metabolomics Society	
(招待講演) Metabolomics-based functional genomics: From Arabidopsis to crops and medicinal plants		2014年・7月	The 3rd International Conference on Plant Metabolism	
III 学会および社会における主な活動				
平成20年～現在	日本学術会議 連携会員			
平成20年～21年	日本植物細胞分子生物学会 会長			
平成22年～25年	独立行政法人日本学術振興会 学術システム研究センター 専門研究員			
平成22年～25年	独立行政法人理化学研究所植物科学研究センター 副センター長・グループディレクター			
平成24年～25年	日本生薬学会 第59回年会会長			
平成25年～現在	独立行政法人理化学研究所環境資源科学研究センター 副センター長・グループディレクター			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	ゲノム機能学
		職名	教授
		氏名	山口 直人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年4月～ 現在	国際標準レベルの授業を行うために、英米で定評のある代表的な教科書の日本語訳本を教科書として採用し、原著でも勉強できる機会を与えている。そして、教科書に自主学習用ウェブサイトが記載されていれば、このウェブサイトアクセスして予習・復習を行い、科学英語の基礎を学習するように指導している。中間試験・期末試験では、ウェブサイトに記載されている英文の和訳を必ず出題して、学習成果を確認している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成26年2月28日	山口直人、遺伝情報とその発見。 「薬学生のための基礎シリーズ6 基礎生命科学(辻勉・入村達郎 共編)」 培風館、東京 2014, p.69～85.
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年7月～ 現在	薬学部FDフォーラムにはほぼ出席して、諸問題に対して見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Sato I, Obata Y, Kasahara K, Nakayama Y, Fukumoto Y, Yamasaki T, Yokoyama KK, Saito T, and Yamaguchi N: Differential trafficking of c-Src, Lyn, c-Yes and Fyn is specified by the state of palmitoylation in the SH4 domain.	共著	2009年4月	J. Cell Sci., 122 (7): 965-975, 2009.
(論文) Obata Y, Fukumoto Y, Nakayama Y, Kuga T, Dohmae N, and Yamaguchi N: The Lyn kinase C-lobe mediates Golgi export of Lyn through conformation-dependent ACSL3 association.	共著	2010年8月	J. Cell Sci., 123 (15): 2649-2662, 2010.
(論文) Ishibashi K, Fukumoto Y, Hasegawa H, Abe K, Kubota S, Aoyama K, Kubota S, Nakayama Y, and Yamaguchi N: Nuclear ErbB4 signaling through H3K9me3 is antagonized by EGFR-activated c-Src.	共著	2013年1月	J. Cell Sci., 126 (2): 625-637, 2013.
(論文) Kubota S, Fukumoto Y, Aoyama K, Ishibashi K, Yuki R, Morinaga T, Honda T, Yamaguchi N, Kuga T, Tomonaga T, and Yamaguchi N: Phosphorylation of KRAB-associated protein 1 (KAP1) at Tyr-449, Tyr-458, and Tyr-517 by nuclear tyrosine kinases inhibits the association of KAP1 and heterochromatin protein 1 α (HP1 α) with heterochromatin.	共著	2013年6月	J. Biol. Chem., 288 (24): 17871-17883, 2013.
(論文) Kubota S, Fukumoto Y, Ishibashi K, Soeda S, Kubota S, Yuki R, Nakayama Y, Aoyama K, Yamaguchi N, and Yamaguchi N: Activation of the prereplication complex is blocked by mimosine through reactive oxygen species-activated Ataxia telangiectasia mutated (ATM) protein without DNA damage.	共著	2014年2月	J. Biol. Chem., 289 (9): 5730-5746, 2014.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
The zinc finger protein lastin-mediated inhibition of cell proliferation in a cell density-dependent manner		2014年・8月	FEBS-EMBO 2014 Conference
Cell-cycle arrest at the G1-S phase boundary through mimosine-induced ATM activation		2014年・8月	FEBS-EMBO 2014 Conference
受容体型チロシンキナーゼErbB4の核移行によるヒストンメチル化酵素の制御		2014年・9月	日本薬学会生物系薬学部会
ヒストン修飾に関わるc-Ablの核内新規チロシンリン酸化基質の解析		2014年・9月	日本薬学会生物系薬学部会
Src型チロシンキナーゼによるアポトーシス抑制機構の解析		2014年・9月	日本薬学会生物系薬学部会
c-Ablによる核内チロシンリン酸化のがん転移機構における役割の検討		2014年・9月	日本薬学会関東支部
v-Srcによるチロシンリン酸化で引き起こされる細胞周期進行異常		2014年・10月	日本生化学会
AKAP8のチロシンリン酸化を介したクロマチンとの結合阻害		2014年・11月	日本分子生物学会
c-Ablによるチロシンリン酸化を介したクロマチン制御因子への影響		2014年・11月	日本分子生物学会
Cell detachment induces Lyn and Fyn activation through the change in their membrane distribution		2014年・12月	American Society for Cell Biology/ International Federation for Cell Biology Meeting
III 学会および社会における主な活動			
平成13年1月～現在	医薬品医療機器総合機構 専門委員		
平成19年11月～現在	日本国際賞(The Japan Prize) 推薦者		
平成20年2月～平成25年1月	日本薬学会 代議員		
平成20年4月～平成22年3月 平成23年4月～平成25年3月	日本薬学会 関東支部 幹事		
平成20年4月～平成23年3月	日本薬学会 英文学会誌(Biological & Pharmaceutical Bulletin) 編集委員		
平成20年4月～平成22年3月	日本生化学会 生化学教育委員会 委員		
平成20年4月～平成21年3月	第17回 日本バイオイメージング学会 運営委員		
平成20年4月～平成21年3月	静岡県立大学教員特別研究推進費に係る学外審査委員		

平成20年9月	日本薬学会 役員等候補者選考委員会 委員
平成21年9月、23年9月、25年9月	日本薬学会 学会賞第1次選考委員
平成22年12月～平成24年11月	科学研究費委員会 専門員
平成23年4月～平成25年3月	日本薬学会 英文学会誌 (BPB) Current Topicsオーガナイザー
平成23年11月～平成24年1月	The Nobel Prize in Chemistry for 2012 推薦者
平成25年4月～現在	日本薬学会 生物系薬学部会 常任世話人
平成26年4月	平成26年度科学研究費補助金「新学術領域研究(研究領域提案型)」に係る審査意見書作成者

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	神経薬理学
		職名	教授
		氏名	村山 俊彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成12年4月～ 現在	出席表を講義中に1名ずつ配布し、質問、感想、コメントなどを記入させた。出欠確認後、次の授業時に返却した。また、複数の学生から出た質問や疑問点を次回の授業で再確認、説明し、理解度を向上させている。授業は板書形式で、図示を多く示し、学生が自分でまとめ直すことを伝えている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月	第1章(薬物作用総論)、第2章(生体および細胞情報伝達)。ベーシック薬学教科書シリーズ16「薬理学」金子周司編、化学同人、京都、p1-55。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部で開催される教育関係FDに参加し、問題点などの発見、改善を図っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Indomethacin induces cellular morphological change and migration via epithelial-mesenchymal transition in A549 human lung cancer cells: A novel cyclooxygenase-inhibition-independent effect.	共著	2011年	Biochem. Pharmacol. 82, 1781-1791.
Arachidonic acid metabolism via cytosolic phospholipase A2 α induces cytotoxicity in Niemann-Pick disease type C cells.	共著	2012年	J. Cell. Physiol. 227, 2847-2855.
Lactosylceramide interacts with and activates cytosolic phospholipase A2 α .	共著	2013年	J. Biol. Chem. 288, 23264-23272.
Regulation of alkaline ceramidase activity by the c-Src-mediated pathway.	共著	2014年	Arch. Biochem. Biophys. 550-551, 12-19.
Hydrogen sulfide-mediated regulation of contractility in the mouse ileum with electrical stimulation: roles of L-cysteine, cystathionine β -synthase, and K ⁺ channels.	共著	2014年	Eur. J. Pharmacol. 740, 112-120.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Lactisylceramide interacts with and activates cytosolic phospholipase A2		2014年・6月	55th International Conference on the Bioscience of Lipids Aberdeen, UK
ヒトEP4プロスタノイド受容体C末端領域機能の解明		2014年・10月	第131回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成23年3月	(独)放射線医学総合研究所「研究倫理審査委員会」委員		
平成25年1月～12月	(独)日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
平成25年2月～	日本薬学会関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	高齢者薬剤学
		職名	教授
		氏名	樋坂 章博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年10月～ 現在	薬学部学生、大学院生、医学部学生を対象に、医療薬学、医薬品評価科学、病院実習等の講義。実習を担当。豊富な実務経験をもとに、医薬品開発、モデル解析、TDMなどについて独自の資料を作成して分かりやすい講義を実施し
2	作成した教科書、教材、参考書	2008年	杉山雄一・楠原洋之 編集 分子薬物動態学 南山堂, 第15章. ポピュレーション・ファーマコキネティクス
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年～現在	創薬の体験実習で多数の候補化合物のプロファイルをコンピューターで合成し、議論しながら受講者に選択させる教育活動を複数回実践した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Kudo T, Hisaka A, Sugiyama Y, Ito K. Analysis of the repaglinide concentration increase produced by gemfibrozil and itraconazole based on the inhibition of the hepatic uptake transporter and metabolic enzymes.	共著	2013年2月	Drug Metab Dispos. 41:362-71
Ito N, Ito K, Koshimichi H, Hisaka A, Honma M, Igarashi T, Suzuki H. Contribution of protein binding, lipid partitioning, and asymmetrical transport to drug transfer into milk in mouse versus human.	共著	2013年9月	Pharm Res. 30: 2410-22.
Nukui Y, Hatakeyama S, Okamoto K, Yamamoto T, Hisaka A, Suzuki H, Yata N, Yotsuyanagi H, Moriya K. High plasma linezolid concentration and impaired renal function affect development of linezolid-induced thrombocytopenia.	共著	2013年9月	J Antimicrob Chemother. 68:2128-33.
Hisaka A, Ohno Y, Yamamoto T, and Suzuki H. Prediction of pharmacokinetic drug-drug interaction caused by changes in cytochrome P450 activity using in vivo information.	共著	2010年2月	Pharmacol Ther. 125:230-48
(著書) 大野能之, 樋坂章博 (鈴木洋史監修), これからの薬物相互マネジメント～臨床を変える PISCSの基本と実践～	共著	2014年1月	じほう
2. 学会発表		発表年・月	学会名
樋坂章博. レギュラトリーサイエンスにおけるモデリング&シミュレーションの役割(シンポジウム)		2014年3月	第87回日本薬理学会年会, 仙台
樋坂章博. モデリング&シミュレーション: 薬物相互作用ガイドラインの中での役割(シンポジウム)		2013年12月	第34回日本臨床薬理学会学術総会, 東京
複数のバイオマーカーの長期的変化を評価する新しい方法によるアルツハイマー病の疾患モデル解析 (シンポジウム)		2013年12月	第34回日本臨床薬理学会学術総会, 東京
A. Hisaka, T. Ishida, M. Honma, K. Yokozuka, H. Kasai, T. Moritoyo, Y. Arakawa, T. Iwatsubo, H. Suzuki. Reconstruction of Entire Chronological Changes of Multiple Biomarkers in Alzheimer's Disease from ADNI Data by Modeling: Significance of Classification by Amyloid Beta in CSF		2013年11月	6th Clinical Trials Conference on Alzheimer's Disease (CTAD), San Diego
Hisaka A, Matsunami R, Suzuki H. Meta-analysis of Ethnic Differences in Oral Clearance between Western and Japanese: Comparison among Various Clearance Pathways		2013年11月	American Association of Pharmaceutical Scientists (AAPS) Annual Meeting and Exposition, San Antonio
Hisaka A. Simultaneous Analysis of Long Term Changes of Multiple Biomarkers in Alzheimer's Disease by Stochastic Restoration of Fragmented Time-Course (Symposium)		2013年10月	第28回日本薬物動態学会, 東京
Hisaka A. Expectations for Japanese New Guideline of Drug Interaction: Roles of Modeling and Impact on Labeling (Symposium)		2013年10月	第28回日本薬物動態学会, 東京
Hisaka A. Science Based Management of Drug Interactions (Symposium)		2013年9月	The First International Conference of Sugiyama Laboratory, Tokyo
樋坂章博. 相互作用の網羅的予測とマネージメント (講演)		2013年6月	日本臨床薬理学会講習会, 東京
樋坂章博. 疾患モデル構築における課題: アルツハイマー病を例として (講演)		2013年4月	第27回日本薬物動態学会ワークショップ, 東京
III 学会および社会における主な活動			
2006年～現在	医薬品開発支援機構 放射線被曝評価倫理審査委員		
2007年6月～現在	日本ファーマコメトリクス研究会 幹事		
2007年10月～現在	日本薬物動態学会 評議員		
2012年 5月～現在	日本薬剤学会 評議員		
2012年12月～現在	薬物相互作用ガイドライン改訂の検討班 幹事、およびモデリングとラベリングに関するワーキンググループ、グループ長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	分子心血管薬理学
		職名	教授
		氏名	高野 博之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月～	「疾病学」等の授業で、動画を多く使用し学生の理解を深めるよう努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成26年4月～	「医療薬学実習」の教材にフィジカルアセスメントの記載を追加し実習で使用した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月～	薬学部で開催されるFD講演会に出席し、諸問題に対する見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Hama Y, Funabashi N, Ueda M, Kanaeda T, Uehara M, Nakamura K, Murayama T, Mikami Y, Takaoka H, Kawakubo M, Lee K, Takano H, Komuro I. Right-sided heart wall thickening and delayed enhancement caused by chronic active myocarditis complicated by sustained monomorphic ventricular tachycardia.	共著	2009年	Circulation 119: 200-203, 2009.
(論文) Takano H, Ueda K, Niitsuma Y, Hasegawa H, Uchiyama R, Oka T, Miyazaki M, Nakaya H, Komuro I. Sonic hedgehog is a critical mediator of erythropoietin-induced cardiac protection in mice.	共著	2010年	J Clin Invest. 2010, 120: 2016-2029.
(論文) Kameda Y, Hasegawa H, Kubota A, Tadokoro H, Kobayashi Y, Komuro I, Takano H. Effects of pitavastatin on pressure overload-induced heart failure in mice.	共著	2012年	Circ J. 2012, 76: 1159-1168.
(論文) Uchiyama R, Hasegawa H, Kameda Y, Ueda K, Kobayashi Y, Komuro I, Takano H. Role of regulatory T cells in atheroprotective effects of granulocyte colony-stimulating factor.	共著	2012年	J Mol Cell Cardiol. 2012, 52: 1038-1047.
(論文) Takano H, Mizuma H, Kuwabara Y, Sato Y, Shindo S, Kotooka N, Fujimatsu D, Kobayashi Y, Inoue T, Node K, Komuro I. Effects of pitavastatin in Japanese patients with chronic heart failure.	共著	2013年	Circ J. 2013, 77: 917-925.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effects of pitavastatin on Japanese patients with dilated cardiomyopathy		2014年・3月	第78回日本循環器学会
心不全に対するDPP-4阻害薬の心保護効果と作用機序の解明		2014年・3月	第134回日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年～	日本心不全学会評議員		
平成22年～	国際心臓研究学会日本部会評議員		
平成25年～	日本肺高血圧学会評議員		
平成24年～	日本薬理学会学術評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	千葉大学	講座名	高齢者薬物学	職名	教授	氏名	伊藤 晃成
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年1月～	毎回の授業で用いる資料(プリント)を前週に配布することで予習させる習慣をつけるよう工夫した。出席票を講義中に一人一枚ずつ配布し、質問と感想を記入させて回収した。また、当日の授業に関連する演習問題を課し次回までの宿題とした。次回講義冒頭では質問に対する回答と演習問題の解説を行うことで、疑問をそのままにせず、また復習の習慣をつけさせる工夫をした。			
2	作成した教科書、教材、参考書			なし			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部で開催されるFDフォーラムに毎回出席し、種々の問題提起と解決方法を探っている。			
II 研究活動							
1.	著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
	ITO, N., ITO, K., IKEBUCHI, Y., KITO, T., MIYATA, H., TOYODA, Y., TAKADA, T., HISAKA, A., HONMA, M., OKA, A., KUSUHARA, H. & SUZUKI, H. (2014). Organic Cation Transporter/Solute Carrier Family 22a is Involved in Drug Transfer into Milk in Mice.			共著	2014年	J Pharm Sci, 103(10), 3342-3348.	
	YOSHIKADO, T., TAKADA, T., YAMAMOTO, H., TAN, J. K., ITO, K., SANTA, T. & SUZUKI, H. (2013). Ticlopidine, a Cholestatic Liver Injury-Inducible Drug, Causes Dysfunction of Bile Formation via Diminished Biliary Secretion of Phospholipids: Involvement of Biliary-Excreted Glutathione-Conjugated Ticlopidine Metabolites.			共著	2013年	Mol Pharmacol, 83(2), 552-562.	
	ITO, N., ITO, K., KOSHIMICHI, H., HISAKA, A., HONMA, M., IGARASHI, T. & SUZUKI, H. (2013). Contribution of protein binding, lipid partitioning, and asymmetrical transport to drug transfer into milk in mouse versus human.			共著	2013年	Pharm Res, 30(9), 2410-2422.	
	IKEBUCHI, Y., SHIMIZU, H., ITO, K., YOSHIKADO, T., YAMANASHI, Y., TAKADA, T. & SUZUKI, H. (2012). Ursodeoxycholic acid stimulates the formation of the bile canalicular network.			共著	2012年	Biochem Pharmacol, 84(7), 925-935.	
	ICHIDA, K., MATSUO, H., TAKADA, T., NAKAYAMA, A., MURAKAMI, K., SHIMIZU, T., YAMANASHI, Y., KASUGA, H., NAKASHIMA, H., NAKAMURA, T., TAKADA, Y., KAWAMURA, Y., INOUE, H., OKADA, C., UTSUMI, Y., IKEBUCHI, Y., ITO, K., NAKAMURA, M., SHINOHARA, Y., HOSOYAMADA, M., SAKURAI, Y., SHINOMIYA, N., HOSOYA, T. & SUZUKI, H. (2012). Decreased extra-renal urate excretion is a common cause of hyperuricemia.			共著	2012年	Nat Commun, 3, 764.	
2.	学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名	
	伊藤晃成: 薬剤性肝障害のスクリーニング系構築・メカニズム解明に向けた取組				2014年・9月	第4回 杉山特別研究室(理研)公開シンポジウム	
	薄田健史ら: 薬剤性胆汁うっ滞型肝障害発症リスク予測におけるサンドイッチ培養肝細胞を用いた肝毒性評価法の有用性				2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会	
	白川真帆ら: 反応性代謝物を考慮した肝ミトコンドリア毒性評価系の構築				2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会	
	関根秀一ら: マイクロ空間培養プレートを用いた胆汁うっ滞型肝障害評価系の構築				2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会	
	伊崎彩ら: サンドイッチ培養肝細胞を用いた肝毛細胆管形成障害を指標とした肝障害誘発性薬物評価系の確立				2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会	
	竹村晃典ら: トログリタゾン及びその硫酸抱合体による肝毛細胆管形成過程への影響				2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会	
	大泉久美子ら: 胆汁酸排泄輸送体の阻害による胆汁酸の蓄積と肝細胞毒性に関わる胆汁酸分子種の同定				2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会	
	伊藤晃成ら: BORP1による輸送を考慮した薬物乳汁移行予測精度の改善				2014年・6月	医療薬学フォーラム2014	
	Suzukida T et al.: Inhibition of basolateral efflux transporter causes drug induced bile acids-dependent hepatotoxicity				2014年・4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress	
	Ito K et al.: Prediction of the clinical risk of drug-induced cholestatic liver injury from in vitro rat sandwich cultured hepatocytes assay.				2014年・4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress	
III 学会および社会における主な活動							
平成20年4月～	日本薬剤学会 評議員						
平成21年4月～	日本薬剤学会「薬剤学」編集委員(2011年4月～2014年3月 副委員長、2014年4月～委員長)						
平成22年4月～平成26年3月	日本薬剤学会 広報委員						
平成22年4月～	日本薬物動態学会 評議員						
平成22年10月	第4回若手医療薬科学シンポジウム 実行副委員長						

平成24年4月～	日本薬物動態学会 総務委員
平成25年4月～	日本医療薬学会 JPHCS 編集委員
平成26年4月～	日本薬学会 医療薬科学部会 常任世話人
平成26年4月～	薬剤師国家試験出題委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	千葉大学	講座名	職名 教授	氏名 佐藤 信範
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年9月17日 発行	薬学生・薬剤師のための知っておきたい病気100第2版 (日本薬学会編), 第Ⅲ部 薬剤性障害 5. 薬剤性腎症 6. 薬剤性血液障害, 287-292. 東京化学同人(分担執筆).	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		<p>1. 佐藤信範, 櫻田大也, 寺島朝子, 小林典子, 宮本悦子, 木津純子(2009) 「実務実習指導・管理システムの構築と試み 第4弾」- トライアル結果解析に基づく新規システムの構築- 第19回 日本医療薬学会年会(長崎).</p> <p>2. 櫻田大也, 山浦克典, 設楽悦久, 高屋明子, 石井伊都子, 関根祐子, 佐藤 信範, 上野光一(2010) 千葉大学薬学部事前実務実習の取り組みと連携, 日本薬学会 第130年会(岡山)</p> <p>3. 櫻田大也, 増田和司, 高屋明子, 佐藤信範(2010) 実務実習指導・管理システムの運用から見たシステム, 第43回日本薬剤師会学術大会(長野).</p> <p>4. 櫻田大也, 小林江梨子, 長谷川哲也, 小嶋文良, 佐藤信範(2011) 実務実習指導・管理システムの運用と評価, 医療薬学フォーラム2011第19回クリニカルファーマシーシンポジウム(旭川).</p> <p>櫻田 大也, 小嶋 文良, 長谷川 哲也, 佐藤 信範: 実務実習指導・管理システムの活用と評価. 医薬品相互作用研究, Vol.36 No.1 21-27(2012)</p> <p>5. 高橋真生, 櫻田大也, 大久保正人, 小林江梨子, 山浦克典, 関根祐子, 石井茂樹, 眞鍋知史, 佐藤信範, 荒野泰(2014) 効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び実技修得に関する検討, 第47回 日本薬剤師会学術大会(山形)</p> <p>6. 大学間連携による新しい薬剤師教育の展望, 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」シンポジウム, (千葉)</p> <p>7. 櫻田大也, 大野智司, 小林江梨子, 佐藤 信範 (2015) 医薬品適正使用の啓発活動における高校生の意識調査, 日本薬学会 第135年会年会(神戸)</p>	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	(FD) 2008年6月～ 平成25～現在 平成25～現在 平成25～現在	<p>薬学部FDフォーラムには積極的に出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。</p> <p>OSCE委員としてOSCEの実施・運営に携わっている。</p> <p>薬学特別演習委員会 委員長</p> <p>薬学実務実習委員会 委員長</p> <p>大学院教育委員会 委員</p>	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
(論文) Community pharmacists' perspectives on generic substitution on Japan.	共著	2011年	J Public Health, 19:249-256	
(論文) 小林 江梨子, 小野口 麻美, 小林 美沙樹, 佐藤 信範: 妊娠・授乳中の女性への薬剤投与に関する医薬品情報の現状	共著	2011年	産科と婦人科, Vol.78 No.9; 111-116	
(論文) 患者・消費者の視点から見た医薬品情報の現状及びあり方に関する研究	共著	2011年	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, Vol.42 No.8; 723-730	
(論文) Present status of drug information regarding breastfeeding women -Evaluation based on expressions for the item "breastfeeding women" of package inserts-	共著	2011年	医薬品相互作用研究, Vol.34 No.3; 5-8	
(論文) Public involvement in pharmacogenomics research: a national survey on patients' attitudes towards pharmacogenomics research and the willingness to donate DNA samples to a DNA bank in Japan.	共著	2011年	Cell Tissue Bank, 12:71-80	
(論文) Doubling of serum creatinine: is it appropriate as the endpoint for CKD? Proposal of a new surrogate endpoint based on the reciprocal of serum creatinine.	共著	2011年	Clin Exp Nephrol, vol15:100-107	
(論文) Patients' attitudes towards generic drug substitution in Japan.	共著	2011年	Health Policy, 99:60-65	
(論文) Establishment and characterization of two 5-fluorouracil-resistant hepatocellular carcinoma cell lines	共著	2012年	INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY, 40; 105-1010	
(論文) 医薬品回収の実態に関する研究	共著	2012年	医薬品相互作用研究, Vol.35 No.32 23-29	
(論文) 医療用医薬品添付文書に記載の「社内資料」情報提供体制に関する検討	共著	2012年	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, Vol.43 No.8 761-769	

(論文) Safety of Pandemic Influenza A (H1N1) 2009 Vaccination during Pregnancy in Lapan.	共著	2012年	医薬品相互作用研究, Vol.36 No.1 39-46
(論文) 医療用医薬品添付文書の課題～承認条件の在り方に関する検討～	共著	2012年	Jpn J Clin Pharmacol Ther, Vol.43 No.6 381-386
(論文) 櫻田大也, 小嶋 文良, 長谷川哲也, 佐藤信範. 実務実習指導・管理システムの活用と評価.	共著	2012年	Journal of Drug Interaction Research. 2012. Vol.36 No.1 21-27
(論文) 透析患者におけるニフェジピンの後発医薬品への切り替えに際しての降圧効果の検討	共著	2012年	Jpn J Clin Pharmacol Ther, Vol.43 No.6 387-392
(論文) Miharu Suzuki, Tomoya Sakurada, Kazumi Gotoh, Satoshi Watanabe and Nobunori Satoh. Correlation Between the Administration of Morphine or Oxycodone and the Development of Infections in Patients With Cancer Pain.	共著	2013年	American Journal of Hospice and Palliative Medicine, 30(7):712-716.
(論文) OTC医薬品に対する企業勤務者の意識調査	共著	2014年	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 43(3):251-260
(論文) 保険薬局における外用薬の混合調剤の実態調査に関する研究	共著	2014年	医薬品相互作用研究, Vol.38 No.2 25-30
(雑誌) 3分で伝える 重大な副作用 第1回横紋筋融解症	監修	2015年	日経ドラッグインフォメーション 1月号
(雑誌) 3分で伝える 重大な副作用 第2回急性腎不全	監修	2015年	日経ドラッグインフォメーション 2月号
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
1. 楊 裕介, 大山邦男, 佐藤信範 「医療用医薬品添付文書における相互作用・遺伝情報の使用上の注意への記載内容に関する検討」		2014	日本薬学会第134年会
2. 川上明三, 岩瀬万里子, 安原 一, 佐藤信範, 村山純一郎 「新しい医療用医薬品の添付文書に関する研究—臨床検査結果に及ぼす影響, 過量投与, 臨床成績, その他の注意の記載容量の検討—」		2014	第24回日本医療薬学会年会
3. 高橋真生, 櫻田大也, 大久保正人, 小林江梨子, 山浦克典, 関根祐子, 石井茂樹, 眞鍋知史, 佐藤信範, 荒野泰. 「効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び実技修得に関する検討」		2014	第47回 日本薬剤師会学術大会
4. 阿部智美, 鳥山五月, 服部洋子, 浅田和広, 小林江梨子, 佐藤信範 「新しい医療用医薬品の添付文書に関する研究—添付文書モデル(案)に対する医療従事者の意識調査—」		2014	第24回日本医療薬学会年会
5. 工藤賢三, 櫻田大也, 平松寛彦, 小林江梨子, 佐藤信範 「新しい医療用医薬品の添付文書に関する研究—「適用上の注意」、「取り扱上の注意」の記載要領に関する検討—」		2014	第24回日本医療薬学会年会
6. 鳥井真緒, 飯島久志, 小林江梨子, 佐藤信範 「小児患者での薬剤による服用感の変化やアレルギー患者への服薬指導に関する研究」		2014	第24回日本医療薬学会年会
7. 木村美咲, 坂田菜摘, 黒沢智佳子, 幸田真純, 黒木光良, 高橋真生, 小林江梨子, 佐藤信範 「OTC医薬品に対する消費者意識調査～来客患者に関して～」		2014	第24回日本医療薬学会年会
8. 川崎淳史, 加茂恵代, 澤田康裕, 小林江梨子, 佐藤信範 「一般用医薬品販売時の情報提供に関する意識調査」		2014	第24回日本医療薬学会年会
9. 高安芽衣子, 栗林芽衣, 刈込 博, 後藤一美, 櫻田大也, 小林江梨子, 佐藤信範 「妊娠中の糖尿病薬使用に関する研究」		2014	第24回日本医療薬学会年会
10. 佐藤信範 「医療用医薬品添付文書の見直しについて」～医薬品の情報提供の今後を考える～		2014	第4回レギュラトリーサイエンス学術大会
11. 佐藤 信範 「医療用医薬品の使用上の注意のあり方に関する研究」		2015	平成26年度第2回JASDIフォーラム
12. 櫻田大也, 大野智司, 小林江梨子, 佐藤 信範 「医薬品適正使用の啓発活動における高校生の意識調査」		2015	日本薬学会 第135年会年会
13. 木村美咲, 澤田康裕, 小野寺隆芳, 後藤一美, 佐々木忠徳, 工藤賢三, 小林江梨子, 佐藤信範 「OTC医薬品の情報提供における課題抽出に関する研究」		2015	日本薬学会 第135年会年会
14. 鳥井真緒, 保坂萌, 徳井幸旗, 奥寛子, 鈴木聡子, 小林江梨子, 佐藤信範 「抗生物質の服用感情情報のデータベース作成に関する研究」		2015	日本薬学会 第135年会年会
15. 阿部智美, 岡遠太郎, 小野寺隆芳, 丸宗孝, 小林江梨子, 佐藤信範 「貼付剤の先発医薬品と後発医薬品における物理的性質比較に関する研究」		2015	日本薬学会 第135年会年会
16. 高安芽衣子, 櫻田大也, 小林江梨子, 佐藤信範 「緩和ケア情報の在り方に関する研究」		2015	日本薬学会 第135年会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
所属学会	日本薬学会、日本POS医療学会、日本ジェネリック医薬品学会、千葉市薬剤師会会員		
平成16.4—現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員		
平成22.9—平成23.5	(財)昭和大学医学振興財団 評議員		
平成18.1—現在	(特定非営利活動法人) 医薬品適正使用推進機構 理事		
平成25.4—現在	関東地区調整機構委員		
平成26.11—現在	千葉県社会保険診療報酬請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会選考協議会委員		
平成27.2—現在	日本薬学会 関東支部幹事		
平成17—平成19	(一社)千葉県薬剤師会 ネットワーク委員会 委員		
平成20—平成22	(一社)千葉県薬剤師会 薬学生対策委員会 委員		
平成21—平成25	(一社)千葉県薬剤師会 薬学生連携会議 委員		
平成23—平成25	(一社)千葉県薬剤師会 薬学生受入対策委員会 委員		
平成25.4—現在	(一社)千葉県薬剤師会薬学生受入委員会 委員		
平成25.4—現在	(一社)千葉県薬剤師会在宅医療委員会 委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	臨床薬学講座
職名	教授	氏名	関根 祐子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (授業評価)	平成26年4月～ 現在	「チーム医療」の授業で、発表会の評価についてルーブリックを用いた客観的な評価法で行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成23年3月24 日発行 平成24年11月 ～現在	薬学生のための臨床実習マニュアル、松田重三 編集、 分担執筆 第1章 pp42-47医学評論社 「医療薬学演習Ⅲ」で使用されるシミュレータ用シナリオを授業担 当教員と共に作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年3月	日本薬学会第133年会(横浜)教育フォーラム「国立大学博士 課程におけるチーム医療・地域医療モデル教育プログラムの 開発」にて発表を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成26年11月	日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンスワーク ショップ(大阪)に参加した。
	(OSCE)	平成21年～現 在	千葉大学薬学部OSCE委員として、本学で実施されたOSCEの 運営に関わった。
	(実務実習)	平成21年～現 在	関東地区調整機構大学委員として、実務実習の運営に関わっ た。また、千葉大学薬学部実務実習委員として、本学の実務 実習の運営に関わった。
	(その他)	平成24年5月	特別経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンス教 育プログラムの共同開発」事業の第1グループ担当者として、 本学においてシンポジウムを開催した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 島田万里江, 佐藤洋美, 武藤奈々美, 関根 祐子, 上野光一: 承認済み医薬品の臨床試験における 女性参加の状況	共著	2014年	医薬品医療機器レギュラトリーサイエ ンス, 45(2), 147-154
(解説) 酒井郁子, 朝比奈真由美, 前田崇, 関根祐 子, 黒河内仙奈, 山田響子: 【多職種連携教育】 取 り組み事例 千葉大学の場合	共著	2014年	医学教育, 45(3), 153-162
(論文) Ozawa K., Sugawara M., Sekine Y., Nakashima M.: Development of advanced pharmacy practice experience in national universities.	共著	2012年	Yakugaku Zasshi, 132(2), 345-50
(論文) 岩田 紘樹, 佐藤 洋美, 岡部 裕之, 矢野友 啓, 関根祐子, 上野光一: モルヒネのヒトがん細胞株 の増殖に対する影響	共著	2011年	日本緩和医療薬学雑誌 4(3), 85-91
渡部一宏, 横山葉子, 佐藤恵子, 竹上未紗, 関根祐 子, 網岡克雄, 大西良浩, 福原俊一: 臨床薬剤師を 対象とした臨床研究への関心度とその教育的解析	共著	2010年	医療薬学, 36(4), 277-283
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬剤師による研究の質の変遷に関する研究—過去10年間の学会抄録 より—		2014年・6月	医療薬学フォーラム2014 第22回クリ ニカルファーマシーシンポジウム
関節リウマチ患者の周術期における生物学的製剤使用に関する調査		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
千葉大学「玄鼻IPE」におけるFD/SDの効果測定を試み		2015年・2月	第48回日本痛風・核酸代謝学会
Urat1-Uox-ダブルノックアウトマウスは腎性低尿酸血症と運動後急 性腎障害の疾患モデル動物である		2015年・3月	日本薬理学会第88年会
腎性低尿酸血症と運動後急性腎不全の疾患モデル動物として のUrat1-Uox-ダブルノックアウトマウス		2015年・3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年6月～平成24年5月	日本薬局協働会 理事		
平成25年4月～平成27年3月	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	生化学
		職名	教授
		氏名	伊藤 素行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年5月 から現在	Moodleを活用し、授業内容の資料を提供や課題の提出をさせている。小テストを行い、理解度の確認を行っている。感想や疑問点を授業後に行い解説と補足を行うようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD)	平成24年5月	薬学部で開催されるFD研修に毎回出席し、大学教育に関する諸問題への見識を深めた。
	(OSCE)	平成24年12月、 平成25年12月	本学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。
	(実務実習)	平成25年8月	第9回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ千葉に参加し、教育方法、評価法について見識を深めた。
	(ハラスメント防止研修)	平成26年3月	アカデミックハラスメントに関する研修会に参加し、見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Okigawa S, Mizoguchi T, Okano M, Tanaka H, Isoda M, Jiang YJ, Suster M, Higashijima S, Kawakami K, Itoh M. Different combinations of Notch ligands and receptors regulate V2 interneuron progenitor proliferation and V2a/V2b cell fate determination.	共著	2014年4月	Dev Biol. 2014, 391:196-206.
(論文) Ota S, Ishitani S, Shimizu N, Matsumoto K, Itoh M, Ishitani T. NLK positively regulates Wnt/ β -catenin signalling by phosphorylating LEF1 in neural progenitor cells.	共著	2012年4月	EMBO J. 2012, 31:1904-1.
(論文) Mizoguchi T, Togawa S, Kawakami K, Itoh M#. Neuron and sensory epithelial cell fate is sequentially determined by Notch signaling in zebrafish lateral line development.	共著	2011年10月	J Neurosci. 2011, 31:15522-15530
(論文) Yamamoto M, Morita R, Mizoguchi T, Matsuo H, Isoda M, Ishitani T, Chitnis AB, Matsumoto K, Crump JG, Hozumi K, Yonemura S, Kawakami K, Itoh M#. Mib-1/Notch signalling regulates patterning and structural roles of the notochord by controlling cell-fate decisions.	共著	2009年8月	Development. 2010, 137:2527-37.
(論文) Ishitani T, Hirao T, Suzuki M, Isoda M, Ishitani S, Harigaya K, Kitagawa M, Matsumoto K, Itoh M. Nemo-like kinase suppresses Notch signalling by interfering with formation of the Notch active transcriptional complex.	共著	2009年3月	Nat. Cell Biol. 2010, 12:278-285.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Different combinations of Notch ligands and receptors regulate V2 interneuron progenitor proliferation and V2a/V2b cell fate determination. Sayumi Okigawa, Takamasa Mizoguchi, Makoto Okanao, Haruna Tanaka1, Miho Isoda, Yun-Jin Jiang, Maximiliano Susuter, Shinichi Higashijima, Koichi Kawakami, Motoyuki Itoh		2014年・5月	第47回日本発生物学会大会
Target gene knockdown by 2', 4' -BNA/LNA antisense oligonucleotides in zebrafish Mizuki Nakaura, Takeshi Imanishi, Satoshi Obika, Motoyuki Itoh		2014年・5月	第47回日本発生物学会大会
Mib1 regulates cell migration through negative control of Ctnnd1 function by its ubiquitination. Takamasa Mizoguchi, Kazuya Hirose, Shoko Ikeda, Saori Watanabe, Sasa Yang, Motoyuki Itoh.		2014年・6月	11th International Conference on Zebrafish Development and Genetics
Mib2ノックアウトゼブラフィッシュは明暗周期誘発行動が抑制される: 中浦 水輝、川原 敦雄、伊藤 素行		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Mib1 による p120ctn のユビキチン化を介した細胞移動制御の機構解析: 渡邊 沙織、溝口 貴正、池田 祥子、楊 薩薩、廣瀬 和也、伊藤 素行		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
DeltaA plays a role in exploratory behavior Miki Chin, Motoyuki Itoh		2014年・9月	第20回小型魚類研究会
The appropriate control of the Notch signaling activity is required for various neuronal subtype differentiation and their functions Takamasa Mizoguchi, Mizuki Nakaura, Michi Fukada, Miki Chin, Koichi Kawakami, Motoyuki Itoh		2014年・9月	第20回小型魚類研究会

Immobilized Notch ligand proteins activate Notch signaling through MNNL-EGF repeat 3 region. Ledi Liu, Hiroe Wada, Natsuki Matsubara, Kensuke Izumoto, Motoyuki Itoh	2014・年12月	第37回日本分子生物学会年会
Myosin light chain kinase positively regulates Notch signaling Kensuke Izumoto, Ledi Liu, Hiroe Wada, Natsuki Matsubara, Motoyuki Itoh	2014年・12月	第37回日本分子生物学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成19年4月～現在	ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」運営委員	
平成25年2月～現在	日本薬学会 代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	遺伝子薬物学講座・薬物学研究室
職名	教授	氏名	千葉 寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年～	わかり易い講義を常に心がけている。そのための工夫として、基本の確認とそこからの論理的な積み上げ、小括、重要事項の指摘と強調などを講義の中で適時行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成21年 平成22年	千葉 寛、SBO6-8, 薬と疾病、IA 薬の効くプロセス (1)薬理、日本薬学会編、東京化学同人、2009、PP25-32 千葉 寛、薬物代謝、臨床薬理学、日本臨床薬理学会編、医学書院、2010、PP103-111
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年～25年 平成24年～25年 平成26年	CBT委員会委員長 実務実習委員会委員長 教務委員会委員長
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
	Chiba K. Perspective of humanized mouse models for assessing PK/PD and toxic profile of drug candidates in preclinical study.	単著	2014年2月
	Saiki R, Hayashi D, Ikuo Y, Nishimura K, Ishii I, Kobayashi K, Chiba K, Toida T, Kashiwagi K, Igarashi K. Acrolein stimulates the synthesis of IL-6 and C-reactive protein (CRP) in thrombosis model mice and cultured cells.	共著	2013年12月
	Hashimoto M, Kobayashi K, Watanabe M, Kazuki Y, Takehara S, Inaba A, Nitta S, Senda N, Oshimura M, Chiba K. Knockout of mouse Cyp3a gene enhances synthesis of cholesterol and bile acid in the liver.	共著	2013年8月
	Kazuki Y, Kobayashi K, Aueviriyavit S, Oshima T, Kuroiwa Y, Tsukazaki Y, Senda N, Kawakami H, Ohtsuki S, Abe S, Takiguchi M, Hoshiya H, Kajitani N, Takehara S, Kubo K, Terasaki T, Chiba K, Tomizuka K, Oshimura M. Trans-chromosomal mice containing a human CYP3A cluster for prediction of xenobiotic metabolism in humans.	共著	2013年2月
	薬物代謝学(加藤隆一、山添康、横井毅編)	共著	2011年
	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称		Drug Metab Pharmacokinet
			J Neurochem
			J Lipid Res
			Human Mol Genet
			東京化学同人
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	Cho N, Kobayashi K, Yosida M, Shibuya M, Chiba K. Formation of novel glutathion adducts of benzbromarone metabolites by human liver microsomes and cytosoles	2014年・10月	19th North American ISSX and 29th JSSX meeting
	Yamazaki M, Kobayashi K, Hashimoto M, Kazuki Y, Takehara S, Oshimura M, Chiba K. Effect of CYP3A deficiency on adrogen action in the mouse prostate	2014年・10月	19th North American ISSX and 29th JSSX meeting
III 学会および社会における主な活動			
2006年～2011年	日本薬物動態学会理事		
2014年～2015年	日本薬物動態学会副会長		
2016年～	日本薬物動態学会会長		
2008年～2011年	Drug Metabolism & Pharmacokinet, Editor-in-Chief		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬化学
職名	教授	氏名	濱田 康正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		講義内容をノートにきちんと付けるように指導している。講義内容が理解できるように演習科目で問題を解いて理解が深まるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Yasumasa Hamada and Kazuishi Makino: Asymmetric Synthesis and Application of α -Amino Acids, (Stereoselective Synthesis of anti- β -Hydroxy- α -Amino Acids using anti-Selective Asymmetric Hydrogenation), Vadium A. Soloshonok and Kunisuke Izawa (Eds.) ACS Book	共著	2009年	米国化学会, pp227-238.
(論文) Yasumasa Hamada: Diastereo- and enantioselective anti-selective hydrogenation of α -amino- β -keto ester hydrochlorides and related compounds using transition-metal-chiral-bisphosphine catalysts.	単著	2014年	The Chemical Record, 14 (2), 235-250
(論文) Yasumasa Hamada: Development of New Methods in Organic Synthesis and Their Applications to the Synthesis of Biologically Interesting Natural Products.	単著	2012年	Chem. Pharm. Bull. 60, 1-20
(論文) Yasuhiro Menjo, Akinari Hamajima, Neri Sasaki, Yasumasa Hamada: Asymmetric Aziridination of Cyclic Enones Using Chiral Diamine Catalysts and Its Application to the Total Synthesis of (-)-Agelastatin A.	共著	2011年	Org. Lett. 13, 5744-5747
(論文) Tetsuhiro Nemoto, Zengduo Zhao, Takuya Yokosaka, Yuta Suzuki, Riliga Wu, Yasumasa Hamada: Palladium-Catalyzed Intramolecular ipso-Friedel-Crafts Alkylation of Phenols and Indoles: Rearomatization-Assisted Oxidative Addition.	共著	2013年	Angew. Chem. Int. Ed. 52, 2217-2220.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
特異なアミノ酸を含む生物活性環状ペプチドの合成		2014年・6月	平成26年度 前期(春季)有機合成化学講習会
ロジウム触媒を用いたアミド結合への挿入反応による含窒素架橋型分子の合成		2014年・11月	第106回有機合成シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2010年1月1日~2011年12月31日	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
2012年10月11日~2015年3月31日	(社) 日本薬学会 役員候補者選考委員会委員		
2013年8月1日~2014年7月31日	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬品合成化学研究室
		職名	教授
		氏名	西田 篤司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 意見カードを利用した双方向授業	平成18年度～	講義はじめに用紙を配り、日時、氏名を記載の後、その日の講義内容に関する設問の回答を記載する。さらに、その日の講義内容に対する質問・感想を記載させる。次回の講義で設問に答え、また学習方法についても指導する。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 New Education in Graduate School of Pharmaceutical Sciences of Chiba University	平成23年9月	The 80th Anniversary of Shenyang Pharmaceutical University The President (Dean) Forum on Higher Pharmacy Education Shenyang Kempinski Hotel, China
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年10月～ 平成26年9月	文部科学省大学間連携共同教育推進事業「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」(千葉大学薬学部、千葉科学大学薬学部、城西国際大学薬学部) 事業推進責任者 文部科学省大学間連携共同教育推進事業「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラムシンポジウム」 大学間連携による新しい薬剤師教育の展望 (主催)
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
	Shigeru Arai, Masaya Nakajima, Atsushi Nishida, A Concise and Versatile Synthesis of Alkaloids from <i>Kopsia tenuis</i> : Total Synthesis of (±)-Lundurine A and B	共著	2014年5月
	Masaki Hoshi, Osamu Kaneko, Masaya Nakajima, Shigeru Arai, Atsushi Nishida, Total synthesis of (±)-lundurine B	共著	2014年1月
	Shinji Harada, Takahiro Morikawa, Atsushi Nishida, Chiral Holmium Complex-Catalyzed Diels-Alder Reaction of Silyloxyvinylindoles: Stereoselective Synthesis of Hydrocarbazoles	共著	2013年9月
	Shigeru Arai, Yuka Amako, Xiaofei Yang, Atsushi Nishida, Hydrocyanative Cyclization and Three-Component Cross-Coupling Reaction between Allenes and Alkynes under Nickel Catalysis	共著	2013年7月
	Shigeru Arai, Yuka Koike, Hirohiko Hada, Atsushi Nishida, Catalytic Dicyanative [4+2] Cycloaddition Triggered by Cyanopalladation of Conjugated Enynes under Aerobic Conditions	共著	2010年3月
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
	First Total Synthesis of Lundurine A and B		2014年・12月
	Stereoselective Synthesis of Hydrocarbazoles via Holmium-Catalyzed Diels-Alder Reaction of Silyloxyvinylindoles, and Its Application to Synthetic Study of Natural Products		2014年・11月
	Total synthesis of polycyclic alkaloids, lundurine A and B		2014年・11月
	コプシアアルカロイド、ランドリン類の全合成		2014年・10月
	Total Synthesis of Lundurines,		2014年・4月
III 学会および社会における主な活動			
2014年5月～2016年5月 厚生労働省医道審議会専門委員			
2013年2月より	公益社団法人有機合成化学協会 理事		
2011年8月～2013年3月	新制度の薬学部及び大学院における研究・教育等の状況に関するフォローアップワーキング・グループ委員		
2010年4月より	(財)日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「アジアにおける最先端有機化学の新展開」コーディネーター(代表者)(2015年3月まで)		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	分子医薬科学
職名	教授	氏名	戸井田 敏彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年4月～	授業の最後に毎回小テストを行い、要点理解を確認した。ノート作成を充実させるために講義はすべて板書スタイルとし、理解を深めるために教科書以外の専門書を抜粋し、プリントとして配布した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年4月～	薬学部で開催されるFDフォーラムに毎回出席し、種々の問題提起と解決方法を探っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Partial depolymerization of pectin by a photochemical reaction." (2010).	共著	2010年・7月	Carbohydr. Res., 345(9):1205-1210.
(著書) Determination of galacturonic acid from pomelo pectin in term of galactose by HPAEC with fluorescence detection." Carbohydr. Polym., 81, 461-465 (2010).	共著	2010年・9月	Carbohydr. Polym., 81, 461-465.
(論文) Induction of Nucleolin Translocation by Acharan Sulfate in A549 Human Lung Adenocarcinoma."	共著	2010年・10月	J. Cell Biochem., 110(5):1272-1278
(論文) The proteoglycan bikunin has a defined sequence."	共著	2012年・9月	Nat. Chem. Biol., 7(11):827-833 (2011)
(論文) Sequence analysis and domain motifs in the porcine skin decorin glycosaminoglycan chain."	共著	2013年・7月	J. Biol. Chem., 288(41):9226-9237
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) コンドロイチン硫酸の経口吸収		2014年・8月	日本糖質学会
(演題名) ヘパラン硫酸合成機構に関するポリアミンの影響		2014年・10月	日本生化学会
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～	日本糖質学会評議員		
平成24年4月～	日本薬学会関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	製剤工学
職名	教授	氏名	森部 久仁一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～	書き込みが可能なプリントを作成し、それをもとに講義を行っている。プリントには最新の話題やデータを反映させ、参照できるように工夫している。スライドを用いて講義を行い、適宜練習問題などを取り入れている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成20年4月～ 平成22年4月 平成24年4月	自作のプリント 物理薬剤学・製剤学演習 荻原・尾関・森部 京都廣川書店 最新薬剤学 第10版 乾・尾関・林 編集 廣川書店
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年4月～	薬学部で開催されるFDにはほぼ出席し、FDに関する諸見識を高めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanistic differences in permeation behavior of supersaturated and solubilized solutions of carbamazepine revealed by nuclear magnetic resonance measurements.	共著	2012年11月	Mol Pharm. 9 (2012):3023-3033
(論文) Characterization of cromolyn sodium hydrates and its formulation by (23) Na-multiquantum and magic-angle spinning nuclear magnetic resonance spectroscopy.	共著	2013年8月	J Pharm Sci. 102 (2013):2738-2747
(論文) Inhibitory effect of hydroxypropyl methylcellulose acetate succinate on drug recrystallization from a supersaturated solution assessed using nuclear magnetic resonance measurements.	共著	2013年10月	Mol Pharm. 10 (2013):3801-3811
(論文) The effect of HPMCAS functional groups on drug crystallization from the supersaturated state and dissolution improvement.	共著	2014年4月	Int J Pharm. 464 (2014) 205-213
(論文) Drug solubilization mechanism of α -glucosyl stevia by NMR spectroscopy.	共著	2014年4月	Int J Pharm. 465 (2014) 255-261
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
AFMを用いた懸濁液中における3成分ナノ粒子凝集過程の評価		2014年・10月	製剤と粒子設計シンポジウム
Physicochemical characterization of wet-milled piroxicam nanosuspension by means of TEM, AFM, and NMR techniques		2014年・11月	AAPS Annual Meeting 2014
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～	日本薬剤学会評議員		
平成22年4月～	粉体工学会製剤と粒子設計部会世話人		
平成26年4月～	日本薬剤学会 広報委員長		
平成26年4月～	製剤機械技術学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	微生物薬品化学
		職名	教授
		氏名	山本 友子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2009年4月～	講義の理解を深めるよう毎回復習を促す。到達度を確認するため、時折小テストを実施した。 教科書・スライド等を使用するほか、他の専門書に記載されている重要事項をプリントで配布した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2014年12月1日 2014年8月5日 2013年1月30日 2012年4月20日 2013年2月20日	病原微生物学 基礎と臨床(荒川宜親・神谷茂・柳雄介編)東京化学同人 見てわかる薬学 図解微生物学・感染症学・化学療法(藤井暢弘・山本友子編)南山堂 薬科微生物学 第6版(加藤文男・西川朱實編)丸善出版 微生物学 基礎から臨床へのアプローチ(神谷茂・河野茂監訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル 医科細菌学第4版(笹川千尋・林哲也編)南江堂
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部で開催されるFD講習会に毎回出席して種々の問題提起を行い、解決方法を探っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Sato Y, Takaya A, Yamamoto T, Mouslim C, Hughes K, Yamamoto T. FlhI selectively enhances proteolysis of FlhC subunit in FlhD ₄ C ₂ complex by an ATP-dependent protease, ClpXP.	共著	2014年11月	J. Biolol. Chem. 289:33001-33011.
(論文) Takaya A, Sato Y, Shoji T, Yamamoto T. Methylation of 23S rRNA nucleotide G748 by RlmAII methyltransferase renders Streptococcus pneumoniae telithromycin susceptible.	共著	2013年8月	Antimicrobiol. agents Chemother. 57:3789-3796.
(論文) Takaya A, Erhardt M, Karata K, Winterberg K, Yamamoto T, Hughes KT. YdiV: a dual function protein that targets FlhDC for ClpXP-dependent degradation by promoting release of DNA-bound FlhDC complex.	共著	2012年3月	Mol. Microbiol. 83(6):1268-1284.
(論文) Sato Y, Takaya A, Yamamoto T. Meta-analytic approach to the accurate prediction of secreted virulence effectors in gram-negative bacteria.	共著	2011年11月	BMC Bioinformatics 12:442.
(論文) Kitagawa R, Takaya A, Ohya M, Mizunoe Y, Takade A, Yoshida SI, Isogai E, Yamamoto T. Biogenesis of <i>Salmonella enterica</i> serovar Typhimurium Membrane Vesicles Provoked by Induction of PagC.	共著	2010年11月	J. Bacteriol. 192(21):5645-5656.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Modulation of macrophage-induced transcription by Salmonella RNA chaperones, CspC and CspE		2015年・3月	第88回日本細菌学会総会
Sequential modification of rRNA renders Streptococcus pneumoniae telithromycin susceptibility		2015年・3月	第88回日本細菌学会総会
グラム陽性菌の内因性rRNA修飾と薬剤耐性		2014年・1月	感染症研究グローバルネットワークフォーラム2014
臨床由来コアグラールゼ陰性ブドウ球菌のリネゾリド耐性機構		2014年・10月	第43回薬剤耐性菌研究会
マルチオミクス解析によるサルモネラエフェクター予測と分泌制御様式の理解		2014年・10月	第96回日本細菌学会関東支部総会
肺炎球菌のテリスロマイシン感受性に寄与するrRNA内因性修飾		2014年・10月	第96回日本細菌学会関東支部総会
Genetical assessment of linezolid resistance mechanisms in <i>Staphylococcus capitis</i> isolated clinically		2014年・9月	Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy
FlhI fine-tunes the flagellar biogenesis by enhancing the ClpXP-catalyzed degradation of master regulator FlhD ₄ C ₂		2013年・9月	EMBO workshop on AAA+ proteins: from mechanism and disease to targets.
III 学会および社会における主な活動			
平成25年～平成26年	科学技術振興機構国際科学技術協力推進委員		
平成24年～平成26年	内閣府野口英世アフリカ賞医学研究分野推進委員会委員		
平成22年～平成25年	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
平成24年～平成25年	文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会主査		
平成22年～平成25年	文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員		
平成21年～平成25年	文部科学省私立大学研究高度化推進委員会委員		
平成25年	第86回日本細菌学会総会長		
平成21年～平成23年	日本細菌学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	創薬資源科学
職名	教授	氏名	高山 廣光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (学生による授業評価) (小テスト)	平成21年度～ 平成21年度～	全ての講義で学生による授業評価を行っている。学生から寄せられて要望等を講義内容、方法にフィードバックしている。 講義毎に小テストを行い、理解度を確認している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成21年7月 平成21年7月 平成24年1月 平成26年5月	(分担執筆) 薬学生・新人薬剤師のための知っておきたい医薬品選600, 日本薬学会編, 東京, じほう (分担執筆)[新版]トキシコロジー, 日本トキシコロジー学会教育委員会編, 東京, 朝倉書店, pp 141-147 (分担執筆)パートナー 天然物化学, 海老塚豊, 森田博史編, 東京, 南江堂, pp 180-203 (分担執筆)漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト3「生薬の化学成分・アルカロイド」東京、日本薬剤師研修センター, pp 13-36
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年7月	千葉大学未来医療教育研究機構シンポジウムで「機能強化に向けた薬学研究院の取組み」と題して講演した
4	その他教育活動上特記すべき事項 (CBT) (FD)ハラスメント防止研修 (その他)	平成18年～ 22年 平成26年2月 平成22年度	千葉大学薬学部のCBT委員長を務めた 薬学部主催のハラスメント防止講演会に参加し、見識を深めた 薬学部教務委員長として学部カリキュラムの改訂を行った
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Asymmetric Total Synthesis of a Pentacyclic Lycopodium Alkaloid, Huperzine-Q.	共著	2011年8月	Angew. Chem., Int. Ed., 50 (35), 8025-8028
(論文) Total Synthesis Guided Structure Elucidation of (+)-Psychotetramine.	共著	2011年3月	Angew. Chem., Int. Ed., 50 (12), 2716-2719 (2011)
(論文) Asymmetric Total Synthesis of an Iboga-Type Indole Alkaloid, Voacangalactone, Newly Isolated from Voacanga africana.	共著	2012年11月	Org. Lett., 14 (22), 5800-5803 (2012)
(著書) Lycopodium Alkaloids: Isolation and Asymmetric Synthesis.	共著	2012年11月	Topics in Current Chemistry, "Alkaloid Synthesis", ed. by H.-J. Knölker, Springer, 309, 1-32 (2012)
(論文) Biogenetically Inspired Total Syntheses of Lycopodium Alkaloids, (+)-Flabellidine and (-)-Lycodine.	共著	2014年5月	J. Am. Chem. Soc., 136 (33), 11618-11621 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Lycopodiumアルカロイド Lycodineの生合成経路を模擬した短段階不斉全合成		2014年・6月	第105回有機合成シンポジウム
(演題名) キョウチクトウ科Kopsia arborea含有インドールアルカロイドの探索		2014年・9月	日本生薬学会第61回年会
(演題名) キョウチクトウ科植物Kopsia arborea含有新規インドールアルカロイドKopsiyunnanines E, I, J1, J2		2014年・10月	第56回天然有機化合物討論会
(演題名) 新規骨格 Lycopodium アルカロイド Lycoposerramine-Rの不斉全合成研究		2014年・11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) 温度感受性TRPチャネルアンタゴニスト活性を有するVoacangine関連化合物の全合成研究と構造活性相関		2014年・11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月1日～平成26年3月31日	日本生薬学会学会誌編集委員長および J. Natural MedicinesのEditor in Chief		
平成21年4月1日～現在	日本薬学会医薬化学部会幹事		
平成23年4月1日～平成25年3月31日	文部科学省大学設置審議会専門委員		
平成26年4月1日～平成28年3月31日	薬学教育協議会常任理事		
平成26年4月1日～平成28年3月31日	全国薬科大学長・薬学部長会議理事		
平成26年4月1日～平成28年3月31日	日本薬学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	分子画像薬品学
職名	教授	氏名	荒野 泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年4月～	現在の内容とこれまでの内容との関連性を把握、理解させるように配慮している。プリントを配布し、重要事項は空欄にするなど、インタラクティブな講義となるよう留意している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成23年4月～	・放射化学と放射線化学 (通商産業研究社刊) ・新放射化学・放射性医薬品学 (南江堂) ・元素111の新知識第2版増補版 (講談社)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年～	薬学部で開催されるFDに毎回出席し、講義や研究室の運営方策を探っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Enhanced target specific accumulation of radiolabeled antibodies by conjugating arginine-rich peptides as anchoring molecules.	共著	2010年	Bioconjugate Chem. 21 (11), 2031-2037
(論文) Insight into technetium amidoxime complex: Oxo technetium(V) complex of N-substituted benzamidoxime as new basic structure for molecular imaging.	共著	2011年	Inorganic Chem. 50 (3), 992-998
(論文) Toward In Vivo Imaging of Heart Disease Using a Radiolabeled Single-Chain Fv Fragment Targeting Tenascin-C.	共著	2012年	Anal. Chem. 83 (23), 9123-9130
(論文) New ^{99m} Tc(CO) ₃ mannosylated dextran bearing S-derivatized cysteine chelator for sentinel lymph node detection.	共著	2013年	Mol. Pharmaceutics 9 (6), 1681-1692
(論文) Preclinical characterization of 5-amino-4-oxo-[6- ¹¹¹ C]hexanoic acid as an imaging probe to estimate protoporphyrin IX accumulation induced by aminolevulinic acid.	共著	2014年	J. Nucl. Med. 55 (10), 1671-1677
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
放射性医薬品の取扱と品質管理		2014年・4月	第14回日本核医学会春季大会 (第11回放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会)
放射性医薬品の基礎知識		2014年・5月	第5回核医学専門技師研修セミナー
金属の特性を利用した分子イメージングプローブの創製		2015年・3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～	日本アイソトープ協会医学・薬学部会専門委員 (企画専門委員、放射性医薬品安全性専門委員、放射性医薬品専門委員)		
平成19年8月～平成23年7月	日本核医学会学会理事		
平成22年6月～	放射性医薬品取り扱いガイドライン策定委員会委員長		
平成23年4月～	岡山大学分子イメージング高度専門人材育成事業外部評価委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	活性構造化学
		職名	教授
		氏名	石橋 正己
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (演習および授業感想の提出) (教員による授業評価)	平成20年4月～ 現在 平成24年11月	すべての授業において毎回演習を行い、同時に感想・質問等を記入させる 教務委員会の教員2名から授業参観、授業評価を受けた
2	作成した教科書、教材、参考書	平成21年12月 平成23年4月 平成23年4月 平成24年12月 平成26年1月	村田道雄, 石橋正己, 木越英夫, 佐々木誠(監訳), 荒井孝義, 荒井緑, 有本博一, 石橋正己, 及川雅人, 大石徹, 木越英夫, 北将樹, 此木敬一, 佐竹真幸, 佐々木誠, 末永聖武, 早川一郎, 松岡茂, 松森信明, 村田道雄(共訳), "ソレル有機化学(上)(下)" 東京化学同人, 2009 森田博史, 石橋正己, "ベーシック有機構造解析", 化学同人, 2011 石橋正己, "自然のなかに薬をさがす～千葉発の天然物研究小話", 千葉日報社, 2011 石橋正己, "生体における化学反応", 生体有機化学, 橋本祐一・村田道雄編, 東京化学同人, 2012, 53-68 石橋正己(翻訳), 有機スペクトル解析ワークブック, 東京化学同人, 2014
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		とくになし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成25年 平成23年 平成26年 平成26年 平成25年 平成23年	公開講座：柏の葉千葉学講座 千葉市科学フェスタ 高校講義：千葉県立長生高校(2014), 千葉県立佐原高校 千葉県立東葛飾高校、東京都立小松川高校PTA、 茨城県立並木中等教育学校、栃木県立宇都宮女子 千葉県立成東高校
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Bioactive heterocyclic natural products from actinomycetes having effects on cancer-related signaling pathways	単著	2014年	Progress in the Chemistry of Organic Natural Products, Kinghorn, A. D.; Falk, H.; Kobayashi, J. (Eds.); Springer; Wien, 2014, 99, 147-198
ウィントシグナル調節を目指した生物活性天然物の探索	共著	2014年	化学と生物, 2014, 52, 731-741
がん関連シグナル経路を標的とした植物由来天然物の探索	単著	2014年	化学と生物, 2014, 52, 541-548
疾患シグナルに作用する微生物由来天然物の探索	単著	2014年	化学工業, 2014, 65, 276-281
微生物由来天然物をはじめとするシグナル伝達作用物質の探索に関する研究	単著	2013年	The Japanese Journal of Antibiotics 2013, 66, 169-178
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
New heterocyclic natural products isolated in screening studies on disease and development pathways		2014年・10月	The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity
Natural products screening studies targeting Wnt, Hedgehog, and TRAIL signaling pathways		2014年・10月	The 14th International Symposium on Traditional Medicine in Toyama 2014
Natural products screening studies on Wnt and Hedgehog signaling pathways		2014年・10月	The 28th International Symposium on the Chemistry of Natural Products and the 8th International Conference on Biodiversity (ISCNP-28 & IC0B-8)
Bangladesh天然薬物資源調査		2014年・7月	第4回天然物パワーシンポジウム
Natural Product Screening Studies on Disease and Development Signaling Pathways		2015年・2月	The Society for Laboratory Automation and Screening 2015 annual conference
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在	日本薬学会学術誌編集委員会部門長(生薬・天然物化学部門)		
2014年4月～現在	日本生薬学会総務理事		
2004年～現在	天然有機化合物討論会世話人		
2013年～現在	香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会幹事		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬品物理化学
職名	准教授	氏名	星野 忠次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (計算機を活用した学習)	平成13年4月～ 現在	講義での座学に加え、大学の教育用端末システムを利用して学生の理解を深めている。例えば、原子のs軌道は球状で、p軌道はアレイ型の電子分布になると教科書には書いてあるが、本当か？実際に、Mathematicaで描画する。関数が正しく記述されないと、上手く描画できない。計算機を利用した演習を含むことで、良く理解できる。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) (OSCE)		薬学部で開催されるFD研修に毎回出席し、諸問題への見識を高めた。 本学で実施された「OSCE」に評価者としてほぼ毎年、参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Hiroshi Yanagita, Norio Yamamoto, Hideyoshi Fujii, Xinli Liu, Masakazu Ogata, Mizuho Yokota, Hiroshi Takaku, Hideki Hasegawa, Takato Odagiri, Masato Tashiro, Tyuji Hoshino : Mechanism of drug resistance of hemagglutinin of influenza virus and potent scaffolds inhibiting its function	共著	2012年6月	ACS Chem. Biol. 7, 552-562 (2012)
(論文) Kenichi Mori, Md. Iqbal Mahmood, Saburo Neya, Katsumi Matsuzaki, Tyuji Hoshino : Formation of GM1 Ganglioside Clusters on the Lipid Membrane Containing Sphingomyeline and Cholesterol	共著	2012年7月	J. Phys. Chem. B 116 (17), 5111-5121 (2012)
(論文) Md. Iqbal Mahmood, Xinli Liu, Saburo Neya, T. Hoshino : Influence of lipid composition on the structural stability of G-protein coupled receptor	共著	2013年4月	Chem. Pharm. Bull. 61(4), 426-437 (2013)
(論文) T. Hoshino, Md. I. Mahmood, K. Mori, K. Matsuzaki : Binding and Aggregation Mechanism of Amyloid β -Peptides Onto the GM1 Ganglioside-Containing Lipid Membrane	共著	2013年5月	J. Phys. Chem. B 117(27), 8085-8094 (2013)
(論文) Fei Qi, Satoshi Fudo, Saburo Neya, Tyuji Hoshino : A cluster analysis on the structural diversity of protein crystals, exemplified by human immunodeficiency virus type 1 protease	共著	2014年6月	Chem. Pharm. Bull. 62, 568-577 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 不動聡志、米田陽子、額賀路嘉、山本典生、鈴木優章、根矢三郎、星野忠次 : インフルエンザウイルスエンドヌクレアーゼ活性部位とその阻害化合物の共結晶構造解析		2015年・3月	日本薬学会、第135年会
(演題名) 齊非、不動聡志、根矢三郎、星野忠次 : タンパク質結晶の構造分類解析		2015年・3月	日本薬学会、第135年会
III 学会および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	遺伝子資源応用研究室
		職名	准教授
		氏名	山崎 真巳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		シラバス通りに進行し、予習が可能なよう配慮した。テキストを用いる教科については、板書形式で授業をし、受講者が思考する時間をとれるように意識して講義した。パワーポイントを用いる講義では、資料を配付した。講義の都度、出席をチェックした。H22年には、教員相互の授業参観・評価を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学部内・学内で行われたFD事業に積極的に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Mami Yamazaki, Masahisa Shibata, Yasutaka Nishiyama, Karin Springob, Masahiko Kitayama, Norimoto Shimada, Toshio Aoki, Sin-ichi Ayabe, Kazuki Saito: Differential gene expression profiles of red and green forms of <i>Perilla frutescens</i> leading to comprehensive identification of anthocyanin biosynthetic genes.	共著	2008年	FEBS J., 275, 3494-3502
Supaart Sirikantaramas, Mami Yamazaki, and Kazuki Saito: Mutations in topoisomerase I as a self-resistance mechanism coevolved with the production of the anticancer alkaloid camptothecin in plants.	共著	2008年	Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 105, 6782-6786
Somnuk Bunsupa, Kae Katayama, Emi Ikeura, Akira Oikawa, Kiminori Toyooka, Kazuki Saito, and Mami Yamazaki: Lysine decarboxylase catalyzes the first step of quinolizidine alkaloid biosynthesis and coevolved with alkaloid production in Leguminosae.	共著	2012年	Plant Cell., 24, 1202-1216
Mami Yamazaki et al.: Coupling Deep Transcriptome Analysis with Untargeted Metabolic Profiling in <i>Ophiorrhiza pumila</i> to Further the Understanding of the Biosynthesis of the Anti-Cancer Alkaloid Camptothecin and Anthraquinones.	共著	2013年	Plant and Cell Physiology 54, 686-696
Takashi Asano, Kanae Kobayashi, Emi Kashihara, Hiroshi Sudo, Ryosuke Sasaki, Yoko Iijima, Koh Aoki, Daisuke Shibata, Kazuki Saito, Mami Yamazaki: Suppression of camptothecin biosynthetic genes results in metabolic modification of secondary products in hairy roots of <i>Ophiorrhiza pumila</i> .	共著	2013年	Phytochemistry 91, 128-139
III 学会および社会における主な活動			
平成18年8月～平成20年7月	文部科学省 研究振興局 学術調査官		
平成20年～平成21年, 平成24年～平成25年	日本植物生理学会 評議員		
平成20年～平成21年	日本学術振興会科学研究費補助金第2段審査 専門委員		
平成20年～現在	日本薬剤師研修センター漢方生薬研修会 講師		
平成20年～平成23年	千葉県医薬品登録販売者協会研修会 講師		
平成21年8月29日～30日	第26回和漢医薬学会学術大会(千葉) 和漢医薬研究者の育成シンポジウム『生薬とデータベース』オーガナイザー		
平成23年12月2日～4日	日本学術振興会 韓国(NRF)との二国間セミナー「次世代に向けた植物バイオテクノロジー」オーガナイザー		
平成24年9月17日～18日	日本生薬学会第59回年会(千葉) オーガナイザー		

平成24年～平成25年	日本植物生理学会 会計幹事
平成24年～平成26年	日本植物細胞分子生物学会 評議委員
平成25年～現在	日本生薬学会編集委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	千葉大学	講座名	薬効薬理学	職名	准教授	氏名	藤野 裕道
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年5月～	薬理学の授業は学部1年生から始まるため、高校卒業程度の生物学あるいは化学的な知識においても理解できるように授業を展開しました。すなわち基本的な生物学・生化学のバックグラウンドを説明し、その上で生体にとっての生理活性物質や、薬物などの作用機序を解説する様に心がけました。また海外からの留学生などを対象に英語での講義も行いました。				
2	作成した教科書、教材、参考書		なし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし				
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年2月～ 平成25年12月	日本学術振興会ITP事業「健康植物科学コンソーシアムによる若手研究者育成プログラム」に学生5名を4回に分けてアリゾナ大学派遣に引率				
		平成23年7月 23日	千葉大学薬学部説明会（オープンキャンパス）にてミニ講義				
		平成25年3月 11日	FD研修発表「RAとTAの役割について」				
II 研究活動							
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
	(総説) 藤野裕道、村山俊彦 インドメタシンの新たな抗がん機構の解明：シクロオキシゲナーゼ阻害非依存的作用の探求	共著	2011年4月	日本薬理学雑誌 137巻 4号 177-181.			
	(論文) Fujino H*, Toyomura K, Chen XB, Regan JW, Murayama T. Prostaglandin E2 regulates cellular migration via induction of vascular endothelial growth factor receptor-1 in HCA-7 human colon cancer cells.	共著	2011年	Biochem Pharmacol. 81:379-387 *Corresponding autho			
	(論文) Yoshida K, Fujino H*, Otake S, Seira N, Regan JW, Murayama T. Induction of cyclooxygenase-2 expression by prostaglandin E2 stimulation of the prostanoid EP4 receptor via coupling to Gαi and transactivation of the epidermal growth factor receptor in HCA-7 human colon cancer cells.	共著	2013年	Eur J Pharmacol. 718:408-417. *Corresponding author			
	(論文) Oyama S, Fujino H*, Yamazaki R, Okura I, Regan JW, Awata A, Arai T, Murayama T. A novel indole compound, AWT-489, inhibits prostaglandin D2-induced CD55 expression by acting on DP prostanoid receptors as an antagonist in LS174T human colon cancer cells.	共著	2014年	Arch Biochem Biophys. 541:21-29. *Corresponding author			
	(論文) Otake S, Yoshida K, Seira N, Sanchez CM, Regan JW, Fujino H*, Murayama T. Cellular density-dependent down-regulation of EP4 prostanoid receptors via the up-regulation of hypoxia-inducible factor-1α in HCA-7 human colon cancer cells.	共著	2014年	Pharma Res Per. In press *Corresponding author			
2.	学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
	Risa Yamazaki, Tatsuo Kawashima, Yasuo Matsuzawa, Syo Otake, Erika Yamaura, Hiroyuki Nakamura, Hiromichi Fujino, Toshihiko Murayama: Contrary effects of sphingosine-1-phosphate on expression of α-smooth muscle actin in transforming growth factor β1-stimulated lung fibroblasts		2014年・6月	54th International Conference on the Bioscience of Lipids 2014 (Aberdeen, Scotland)			
	清良尚史、藤野裕道、谷本淳、Regan JW、村山俊彦：ヒト EP4 プロスタノイド受容体C末端領域機能の解明		2014年・10月	第131回日本薬理学会関東部会（横浜）			
	藤野裕道、大竹翔、吉田憲司、清良尚史、Sanchez CM、Regan JW、村山俊彦：ヒト結腸癌 HCA-7 細胞の細胞密度依存的なEP4プロスタノイド受容体発現量の減少		2015年・3月	第88回日本薬理学会年会（名古屋）			
	大蔵伊織、藤野裕道、清良尚史、Sanchez CM、Regan JW、村山俊彦：プロスタグランジンD ₂ はEP2プロスタノイド受容体を介してcAMP非依存的にT cell factorシグナルを活性化させる		2015年・3月	第88回日本薬理学会年会（名古屋）			
	清良尚史、藤野裕道、倉田直希、Regan JW、村山俊彦：ヒトEP4プロスタノイド受容体細胞内ループ3のT cell factor転写活性への影響		2015年・3月	日本薬学会第135年会（神戸）			
	藤野裕道：がん増悪化情報伝達系へのプロスタノイド受容体の役割		2015年・3月	日本薬学会第135年会（神戸）			
III 学会および社会における主な活動							
平成23年8月1日	岐阜県立可児高等学校において可児高校サマーインテンシブスタディとして「薬学部・薬剤師を志望する高校生のための講演会」にて千葉大学薬学部を紹介						
平成24年4月～	日本薬理学会評議員						
平成26年11月10日	日本薬学会 学術振興賞 第4B部門 受賞						

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	千葉大学	講座名	高齢者薬剤学	職名	准教授	氏名	山浦 克典
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		講義中に一人ずつ出席票を配布し、質問および感想を記入させた。理解しづらかったところや質問を把握し、次回の講義の冒頭でフィードバックした。復習を当日に行う事を毎回指導した。ハンドアウト資料は、カラー印刷で4 in 1サイズとし、読みやすさを心がけた。				
2	作成した教科書、教材、参考書		なし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし				
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年4月～	文科省H24年度大学間連携共同教育推進事業 選定取組「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」にて広報委員長およびプログラムEを担当。				
II 研究活動							
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称			
	(論文) Suwa E, Yamaura K (co-first author), Sato S, Ueno K. Increased expression of the histamine H4 receptor following differentiation and mediation of the H4 receptor on interleukin-8 mRNA expression in HaCaT keratinocytes.	共著	2014年	Exp Dermatol. 23:138-140.			
	(論文) Yamaura K, Tomono A, Suwa E, Ueno K. Sex-related differences in SLIGRL-induced pruritus in mice.	共著	2014年	Life Sciences. 94:54-57.			
	(論文) Yamaura K, Bi Y, Ishiwatari M, Oishi N, Fukata H, Ueno K. Sex differences in stress reactivity of hippocampal BDNF in mice are associated with the female preponderance of decreased locomotor activity in response to restraint stress.	共著	2013年	Zoolog Sci. 30:1019-1024.			
	(論文) Yamaura K, Ishiwatari M, Yamamoto M, Shimada M, Bi Y, Ueno K. Anthocyanins, but not anthocyanidins, from bilberry (Vaccinium myrtillus L.) alleviate pruritus via inhibition of mast cells degranulation.	共著	2012年	J Food Sci. 77:H262-267.			
	(論文) Yamaura K, Doi R, Suwa E, Ueno K. Repeated application of glucocorticoids exacerbate pruritus via inhibition of prostaglandin D2 production of mast cells in a murine model of allergic contact dermatitis.	共著	2012年	J Toxicol Sci. 37:1127-1134.			
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
	(シンポジウム) 皮膚疾患に対するクルクミンの有効性		2014年・3月	第134回日本薬学会年会			
	(シンポジウム) 長期ステロイド外用療法に伴う掻痒性皮膚毒性		2014年・7月	第41回日本毒性学会学術年会			
III 学会および社会における主な活動							
平成22年10月～	日本免疫毒性学会 評議員						
平成23年9月	第18回日本免疫毒性学会学術大会 実行委員長						
平成25年6月	第40回日本毒性学会学術年会 実行委員長						
平成25年11月～	日本免疫毒性学会 広報委員						

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	遺伝子薬物学
職名	准教授	氏名	小林 カオル
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年～現在	講義用配布資料には、適宜空欄を設け、講義中に学生に記入させることで理解を深める工夫をしている。必要に応じて、参考書等の紹介を行い、学習意欲の向上に努めている。各回の講義では、個別質問の時間を確保するように努めている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成21年8月	核内オーファンレセプターによるP450遺伝子の発現調節「P450の分子生物学」第2版 大村恒雄、石村巽、藤井義明編 pp. 104-117 講談社サイエンティフィク
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年～現在	薬学部FDにはほぼ出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Constitutive androstane/active receptor is a target of retinoic acid receptor.	共著	2010年7月	Biochem. Pharmacol. 80: 129-135
Increased expression of drug-metabolizing enzymes in human hepatocarcinoma FLC-4 cells cultured on micro-space cell culture plates	共著	2012年10月	Drug Metab. Pharmacokinet. 27: 478-485
Identification of CYP isozymes involved in benzbromarone metabolism in human liver microsomes	共著	2012年11月	Biopharm. Drug Dispos. 33: 466-473
Trans-chromosomal mice containing a human CYP3A cluster for prediction of xenobiotic metabolism in humans	共著	2013年2月	Hum. Mol. Genet. 22(3): 578-592
Knockout of mouse Cyp3a gene enhances synthesis of cholesterol and bile acid in the liver.	共著	2013年8月	J. Lipid Res. 54(8): 2060-2068
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
The effect of Cyp3a deficiency on androgen response and lipid synthesis in mouse prostate		2014年・5月	20th International Symposiums on Microsomes and Drug Oxidations
FORMATION OF NOVEL GLUTATHIONE ADDUCTS OF BENZBROMARONE METABOLITES BY HUMAN LIVER MICROSOMES AND CYTOSOLS		2014年・10月	19th North American ISSX and 29th JSSX Meeting
EFFECT OF CYP3A DEFICIENCY ON ANDROGEN ACTION IN THE MOUSE PROSTATE		2014年・10月	19th North American ISSX and 29th JSSX Meeting
CHARACTERIZATION OF CYP-MEDIATED METABOLIC PATHWAYS INVOLVED IN BENZBROMARONE-INDUCED HEPATOTOXICITY		2014年・10月	19th North American ISSX and 29th JSSX Meeting
Quantitative analysis for induction of CYP3A in a new double humanized mice of PXR/SXR(Knock-in) and CYP3A(transchromosomal)		2014年・10月	19th North American ISSX and 29th JSSX Meeting
III 学会および社会における主な活動			
平成22年1月～現在	日本薬物動態学会 評議員		
平成24年10月～現在	内閣府食品安全委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	千葉大学	講座名	薬化学	職名 准教授 氏名 根本 哲宏
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年4月～	教科書的な内容の説明以外にも、違う角度から同じ現象を見た場合の解釈も説明するように努めている。学生が必ず一度は自分の手で化学反応を書いて、体で化学を覚えられるように、授業はスライド等は極力使わずに板書している。授業後、学生による講義評価を受けている。	
2	作成した教科書、教材、参考書		なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年4月～	学部で行われているFDに参加しています。	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
(論文) Acid-Promoted Cascade Cyclization to Produce Fused-Polycyclic Indole Derivatives	共著	2013年	Org. Lett. 15(12), 2978-2981.	
(論文) Palladium-Catalyzed Intramolecular ipso-Friedel-Crafts Allylic Alkylation of Phenols via Arylative Activation of Allenes	共著	2013年	Adv. Synth. Catal. 355(13), 2693-2700.	
(論文) Palladium-Catalyzed Intramolecular ipso-Friedel-Crafts Alkylation of Phenols and Indoles: Rearomatization-Assisted Oxidative Addition	共著	2013年	Angew. Chem. Int. Ed. 52(8), 2217-2220.	
(論文) Asymmetric Synthesis of Chiral 9,10-Dihydrophenanthrenes Using Pd-Catalyzed Asymmetric Intramolecular Friedel-Crafts Allylic Alkylation of Phenols	共著	2012年	Org. Lett. 14(9), 2350-2353.	
(論文) An Acid-Promoted Novel Skeletal Rearrangement Initiated by Intramolecular ipso-Friedel-Crafts-Type Addition to 3-Alkylidene Indolenium Cations	共著	2012年	Chem. Commun. 48(44), 5431-5433.	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
Synthetic Studies of Pactamycin Using an Organocatalytic Asymmetric Aziridination		2014年・11月	第2回有機触媒国際会議(兼)第7回有機触媒シンポジウム	
Perhydrogephyrotoxin及びGephyrotoxin 287C の触媒的不斉合成		2014年・10月	第56回天然有機化合物討論会	
III 学会および社会における主な活動				
平成19年4月～平成22年3月	ファルマシアトピックス小委員			
平成19年～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム世話人			
平成26年～現在	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター 平成26年度専門調査員			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬品合成化学
職名	准教授	氏名	荒井 秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年～現在	出席カードにて出席状況を確認しながら、毎回授業の冒頭20分程度で前回内容の復習を行い、理解を深めるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成26年3月 平成25年5月 平成24年12月 平成21年11月	ロンドン大学教育研究所(IOE)にて語学研修に参加 宇都宮女子高校にて模擬講義 長生高校にて模擬講義 高崎高校にて模擬講義
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Palladium-Catalyzed Cyanation of Carbon-Carbon Triple Bonds under Aerobic Conditions. Arai, S.; Sato, T.; Koike, Y.; Hayashi, M.; Nishida, A.	共著	2009年5月	Angew. Chem. Int. Ed. 2009, 48, 4528-4531 (Highlighted in Synth. Org. Chem. Jpn. 2010, 68, 567).
(論文) Catalytic Dicyanative [4+2] Cycloaddition Triggered by Cyanopalladation of Conjugated Enynes Under Aerobic Conditions. Arai, S.; Koike, Y.; Hada, H.; Nishida, A.	共著	2010年3月	J. Am. Chem. Soc. 2010, 132, 4522-4523.
(論文) Palladium-Catalyzed Cyanation of Non-Activated Alkynes: Development of Cyanopalladation and Its Application to Cyclization and Cycloaddition Reactions. Arai, S.; Koike, Y.; Hada, H.; Nishida, A.	共著	2012年2月	Synlett 2012, 23, 2880-2893. (invited accounts).
(論文) Hydrocyanative Cyclization and Three-component Cross-coupling Reaction between Allenes and Alkynes under Nickel Catalysis. Arai, S.; Amako, Y.; Yang, X.; Nishida, A.	共著	2013年4月	Angew. Chem. Int. Ed. 2013, 52, 8147-8150.
(論文) A Concise and Versatile Synthesis of Alkaloids from Kopsia tenuis: Total Synthesis of (±)-Lundurine A and B. Arai, S.; Nakajima, M.; Nishida, A.	共著	2014年2月	Angew. Chem. Int. Ed. 2014, 53, 5669-5672 (Highlighted in Synfacts 2014, 10, 789).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
PINPOINT CYANATION of sp AND sp2 CARBONS UNDER NICKEL CATALYSIS		2014年・7月	20th International Conference on Organic Synthesis, Budapest.
シクロプロパン環開裂を伴うアレンの触媒的ヒドロシアノ化反応(堀弘人、天児由佳、荒井秀、西田篤司)		2014年・11月	第68回有機合成化学協会関東支部新潟シンポジウム
Lundurine類および関連アルカロイドの全合成研究(中島誠也、荒井秀、西田篤司)		2014年・11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
ニッケル触媒によるアレンの一及び立体選択的ヒドロシアノ化の開発と環化反応への応用(天児由佳、堀弘人、荒井秀、西田篤司)		2014年・9月	第44回複素環化学討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年1月～現在	千葉大学キラリテネットワーク研究会運営委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	病態分析化学
職名	准教授	氏名	西村 和洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～	講義の理解度を確保するための小テスト、講義外での学習が行われるようにレポート課題を課すことを行っている。講義の進め方では、教科書や参考書の図や写真を映写して指し示すことで、容易に理解できるように進めている。また、期末テスト等は資料持込み可にして、暗記に頼らない出題をするようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年2月	大学院生に対して、RAとTAの役割に関する研修を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD)	平成20年4月～	薬学部で行われるFD講習会には毎回参加し、様々な問題への見識を高めた。
	(CBT)	平成20年4月～	毎年、外部モニター員として派遣されている。
	(薬剤師養成)	平成21年11月	共用試験の学内システム管理者として、試験運営及び保守を行っている。
	(学生相談室)	平成20年4月～ 平成24年3月	認定実務指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォースとして参加した。 亥鼻キャンパスの学生相談室員を務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Saiki, R., Nishimura, K., Ishii, I., Omura, T., Okuyama, S., Kashiwagi, K., and Igarashi, K.: Intense correlation between brain infarction and protein-conjugated acrolein.	共著	2009年10月	Stroke 40, 3356-3361 (2009)
(論文) Nishimura, K., Okudaira, H., Ochiai, E., Higashi, K., Kaneko, M., Ishii, I., Nishimura, T., Dohmae, N., Kashiwagi, K., and Igarashi, K.: Identification of proteins whose synthesis is preferentially enhanced by polyamines at the level of translation in mammalian cells.	共著	2009年11月	Int. J. Biochem. Cell Biol. 41, 2251-2261 (2009)
(論文) Nishimura, K., Lee, S. B., Park, J. H., and Park, M. H.: Essential role of eIF5A-1 and deoxyhypusine synthase in mouse embryonic development.	共著	2012年2月	Amino Acids 42, 703-710 (2012)
(論文)+Yamashita, T., +Nishimura, K., Saiki, R., Okudaira, H., Tome, M., Higashi, K., Nakamura, M., Terui, Y., Fujiwara, K., Kashiwagi, K., and Igarashi, K.: Role of polyamines at the G1/S boundary and G2/M phase of the cell cycle.	共著	2013年6月	Int. J. Biochem. Cell Biol. 45, 1042-1050 (2013)
(論文) Saiki, R., Hayashi, D., Ikuo, Y., Nishimura, K., Ishii, I., Kobayashi, K., Chiba, K., Toida, T., Kashiwagi, K., and Igarashi, K.: Acrolein stimulation of the synthesis of IL-6 and CRP in thrombosis model mice and cultured cells.	共著	2013年12月	J. Neurochem. 127, 652-659 (2013)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
水田俊男、西村和洋、芝山徹、田中智之、戸井田敏彦、五十嵐一衛: ポリアミンによるマスト細胞のヒスタミン産生抑制機構の解明。		2014年・6月	「ポリアミンと核酸の共進化」第13回合同シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成21年11月～現在	日本ポリアミン学会 会計監査		
平成24年9月～平成25年8月	日本生化学会 代議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	微生物薬品化学
職名	准教授	氏名	高屋 明子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年10月1日～現在	出席カードに授業で説明した内容を穴埋め方式の問題を付し、授業ごとに提出させている。理解度の足りないところは、次回授業で再度説明することにより、講義の理解を深めるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年10月1日～現在	薬学部FDフォーラムにはほぼ出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Takaya A, Sato Y, Shoji T, Yamamoto T. Methylation of 23S rRNA nucleotide G748 by RlmAII methyltransferase renders <i>Streptococcus pneumoniae</i> telithromycin susceptible.	共著	2013年8月	Antimicrobiol agents Chemother. 57:3789-3796.
(論文) Takaya A, Erhardt M, Karata K, Winterberg K, Yamamoto T, Hughes KT. YdiV: a dual function protein that targets FlhDC for ClpXP-dependent degradation by promoting release of DNA-bound FlhDC complex.	共著	2012年3月	Mol. Microbiol. 83(6):1268-1284.
(論文) Sato Y, Takaya A, Yamamoto T. Meta-analytic approach to the accurate prediction of secreted virulence effectors in gram-negative bacteria.	共著	2011年11月	BMC Bioinformatics 12:442.
(論文) Kitagawa R, Takaya A, Yamamoto T. Dual regulatory pathways of flagellar gene expression by ClpXP protease in enterohaemorrhagic <i>Escherichia coli</i> .	共著	2011年11月	Microbiology. 157:3094-3103.
(論文) Kitagawa R, Takaya A, Ohya M, Mizunoe Y, Takade A, Yoshida SI, Isogai E, Yamamoto T. Biogenesis of <i>Salmonella enterica</i> serovar Typhimurium Membrane Vesicles Provoked by Induction of PagC.	共著	2010年11月	J Bacteriol. 192(21):5645-5656.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
サルモネラRNAシャペロンによるマクロファージ応答遺伝子発現制御		2015年・3月	第88回日本細菌学会総会
サルモネラ感染にตอบสนองして発現する長鎖ノココーディングRNA		2014年・11月	第37回日本分子生物学会年会
グラム陽性菌の内因性rRNA修飾と薬剤耐性		2014年・11月	感染症研究グローバルネットワークフォーラム2014
臨床由来コアグラウゼ陰性ブドウ球菌のリネゾリド耐性機構		2014年・10月	第43回薬剤耐性菌研究会
マルチオミクス解析によるサルモネラエフェクター予測と分泌制御様式の理解		2014年・10月	第96回日本細菌学会関東支部総会
肺炎球菌のテリスロマイシン感受性に寄与するrRNA内因性修飾		2014年・10月	第96回日本細菌学会関東支部総会
Genetical Assessment of Linezolid Resistance Mechanisms in <i>Staphylococcus capitis</i> Isolated Clinically		2014年・9月	Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy
サルモネラ感染による骨髄免疫細胞の障害		2014年・8月	第8回細菌学若手コロッセウム
III 学会および社会における主な活動			
平成21年1月1日～現在	日本細菌学会評議員		
平成24年1月1日～平成26年12月31日	日本細菌学会シンポジウム企画調整委員会委員		
平成24年1月1日～平成26年12月31日	日本細菌学会関東支部会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬品製造学
職名	准教授	氏名	鈴木 紀行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年4月～ 現在	講義毎に理解度の確認のための小テストを行い、そこに質問欄、感想欄をもうけて次回の講義でフィードバックを行っている。また、グループ学習や学生による発表などを行うことで、学生同士が互いに相談したり教え合ったりする機会を設けている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成24年2月	薬学教科書シリーズ(物理系薬学)第3版、 日本薬学会編、東京化学同人、東京
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年～現在	本学で実施された「OSCEトライアル」および「OSCE」に評価者として参加した。また、薬学部で開催されるFDにはほぼ全て出席し、問題と対応策を理解する事が出来た。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Quantitative imaging of selenoprotein with multi-isotope imaging mass spectrometry.	共著	2014年5月	Surface Interface Anal., 46, 154-157 (2014)
Immobilized 1,2-Bis(guanidinoalkyl)benzenes: Their Potential Ability for Purification of Arsenic-Polluted Water.	共著	2013年11月	Synlett, 24, 2510-2514 (2013)
Mechanisms Underlying the Inhibitory Effects of Arsenic Compounds on Protein Tyrosine Phosphatase (PTP).	共著	2012年9月	Toxicol. Appl. Pharmacol. 263, 273-280, (2012)
The Endoplasmic Reticulum is Target Organelle for Trivalent Dimethylarsinic Acid (DMAIII)-Induced Toxicity.	共著	2012年7月	Toxicol. Appl. Pharmacol. 260, 241-249 (2012)
Mitochondria are the Main Target Organelle for Trivalent Monomethylarsonous Acid (MMAIII)-Induced Cytotoxicity.	共著	2011年10月	Chem. Res. Toxicol., 24, 1094-1103 (2011)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒドロキシカルビノールアミドからのスピロ環形成反応		2014年・11月	反応と合成の進歩シンポジウム
ジャドマイシン類の合成研究		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
特異的酵素反応により活性化される新規スイッチ式caged化合物の開発		2014年・9月	第8回バイオ関連化学合同シンポジウム
特異的酵素反応によって活性化される新規caged化合物の開発		2014年・6月	日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	創薬資源科学
職名	准教授	氏名	北島 満里子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年5月～ 現在	講義内容をわかりやすく板書するとともに、毎回小テストを行い、その内容について解説することで、講義の理解を深めるようにしている。各講義において学生の授業評価を受け、その結果を授業の改善に役立てている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年5月～ 平成20～25年度 平成22年12月 平成23年12月 平成23～24年度 平成24年度 平成24年度～	薬学部で開催されるFDに毎回出席し、見識を深めている。 クラス顧問(平成19年度入学者担当)を務めた。 本学で実施したOSCEに評価者として参加した。 本学で実施したOSCEに評価者として参加した。 学生生活委員を務めた。 クラス顧問(主、平成18年度入学者担当)を務めた。 ハラスメント相談員を務めている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A. Nakayama, N. Kogure, M. Kitajima, and H. Takayama: Asymmetric Total Synthesis of a Pentacyclic Lycopodium Alkaloid, Huperzine-Q.	共著	2011年8月	Angew. Chem., Int. Ed., 50 (35), 8025-8028 (2011)
(論文) M. Harada, K. Asaba, M. Iwai, N. Kogure, M. Kitajima, and H. Takayama: Asymmetric Total Synthesis of an Iboga-Type Indole Alkaloid, Voacangalactone, Newly Isolated from Voacanga africana.	共著	2012年11月	Org. Lett., 14 (22), 5800-5803 (2012)
(総説) M. Kitajima and H. Takayama: Lycopodium Alkaloids: Isolation and Asymmetric Synthesis.	共著	2012年11月	Topics in Current Chemistry, "Alkaloid Synthesis", ed. by H.-J. Knölker, Springer, 309, 1-32 (2012)
(論文) M. Kitajima, S. Ohara, N. Kogure, D. Santiarworn, and H. Takayama: β -Carboline-type Indole Alkaloid Glycosides from <i>Ophiorrhiza trichocarpon</i> .	共著	2013年11月	Tetrahedron, 69 (45), 9451-9456 (2013)
(論文) H. Nishiyama, M. Ono, T. Sugimoto, T. Sasai, N. Asakawa, S. Ueno, Y. Tominaga, T. Yaegashi, M. Nagaoka, T. Matsuzaki, N. Kogure, M. Kitajima, and H. Takayama: 4-Chlorocolchicine Derivatives Bearing a Thiourea Side Chain at the C-7 Position as Potent Anticancer Agents.	共著	2014年2月	Med. Chem. Commun., 5 (4), 452-458 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Lycopodiumアルカロイド Lycopidineの生合成経路を模擬した短段階不斉全合成		2014年・6月	第105回有機合成シンポジウム
(演題名) 薬用資源植物由来の抗腫瘍性アルカロイドの探索と創薬先導化合物の創製研究		2014年・9月	日本生薬学会第61回年会(学術貢献賞受賞講演)
(演題名) キョウチクトウ科植物 <i>Kopsia arborea</i> 含有新規インドールアルカロイド <i>Kopsiyunnanines E, I, J1, J2</i>		2014年・10月	第56回天然有機化合物討論会
(演題名) 新規骨格 Lycopodium アルカロイド Lycoposerramine-Rの不斉全合成研究		2014年・11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) 温度感受性TRPチャネルアンタゴニスト活性を有する Voacangine 関連化合物の全合成研究と構造活性相関		2014年・11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成25年1月～平成26年12月	科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	千葉大学	講座名	分子画像薬品学	職名 准教授	氏名 上原知也
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月～	学生からの意見を踏まえ、研究や臨床現場とのつながりを意識した講義を行うようにしている。		
2	作成した教科書、教材、参考書		なし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月～	放射性核種またはX線発生装置を利用する人に対して放射線取扱講習会を年5回程度おこなっている		
II 研究活動					
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
	Yanagi M, Uehara T, Uchida Y, Kiyota S, Kinoshita M, Higaki Y, Akizawa H, Hanaoka H, Arano Y. Chemical design of 99mTc-labeled probes for targeting osteogenic bone region.	共著	2013年	Bioconjugate Chem., 24, 1248-1255.	
	Akizawa H, Imajima M, Hanaoka H, Uehara T, Satake S, Arano Y. Renal brush border enzyme-cleavable linkages for low renal radioactivity levels of radio labeled antibody fragments.	共著	2013年	Bioconjugate Chem., 24, 291-299	
	Gomez F.L.G., Uehara T, Rokugawa T, Higaki Y, Suzuki H, Hanaoka H, Akizawa H, Arano Y. Synthesis and evaluation of diastereoisomers of 1,4,7-triazacyclononane-1,4,7-tris-(glutaric acid) (NOTGA) for multimeric radio pharmaceuticals of gallium.	共著	2012年	Bioconjugate Chem., 23, 2229-2238	
	Suzuki H, Kanai A, Uehara T, Guerra G.F.L., Hanaoka H, Arano Y. Facile synthesis and evaluation of C-functionalized benzyl-1-oxa-4,7,10-triazacyclododecane-N,N',N''-triacetic acid as chelating agent for 111In-labeled polypeptides.	共著	2012年	Bioorgan. Med. Chem., 20, 978-984	
	Kobayashi N, Odaka K, Uehara T, Imanaka-Yoshida K, Kato Y, Oyama H, Tadokoro H, Akizawa H, Tanada S, Hiroe M, Fukumura T, Komuro I, Arano Y, Yoshida, Irie T. Toward in vivo imaging of heart disease using a radiolabeled single-chain Fv fragment targeting Tenascin-C.	共著	2011年	Anal. Chem., 83, 9123-9130	
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
	錯形成により多価効果を発揮する新たな99mTc標識薬剤の設計		2014年・5月	第9回日本分子イメージング学会	
	The linkage structure between D-penicillamine and RGD peptide (Pen-X-RGD) significantly affects formation and biodistribution of 99mTc-labeled bis(Pen-X-RGD) complexes		2014年・6月	第24回金属の関与する生体関連反応シンポジウム	
	A novel chemical design of Ga-67/68 labeled probes based on chelation-mediated multivalency to enhance target accumulation		2014年・9月	International seminar on pharmaceutical science and technology 2014	
	SPECT装置を用いたイメージングとそのブローブ開発		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会	
	腎放射活性の低減を目的とする低分子ポリペプチドGa標識薬剤に関する基礎的研究		2014年・11月	第54回日本核医学会総会	
	99mTc標識抗体フラグメントの非特異的腎集積低減に有効なMAG3を母体とする三官能性キレート試薬の開発		2014年・11月	第54回日本核医学会総会	
	D-penicillamineを配位子とする2価99mTc標識薬剤:Folateへの展開		2014年・11月	第54回日本核医学会総会	
	99mTc標識(Pen-X-RGD)2の作製と体内動態の向上を目的としたスベア構造の開発		2014年・11月	第54回日本核医学会総会	
III 学会および社会における主な活動					
平成24年6月～平成25年3月	日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する研究調査チーム委員				
平成25年8月～現在	大学等放射線施設協議会 常議員				

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	活性構造化学
		職名	准教授
		氏名	荒井 緑
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年5月～	出席票兼、その講義のまとめの問題を講義中に一人ずつ配布し、知識の確認を行った。まとめプリントは採点し、次の講義に学生に返し、ポイントや間違いが多かった問題の解説を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Arai, M. A.*; Fujimatsu, T.; Uchida, K.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Ishibashi, M.* "Hh signaling inhibitors from <i>Vitex negundo</i> : naturally occurring inhibitors of the GLI1-DNA complex"	共著	2013年	Mol. BioSyst. 9, 1012-1018.
(論文) Arai, M. A.*; Koryudzu, K.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; Ishibashi, M.* "Naturally Occurring Ngn2 Promoter Activators from <i>Butea superba</i> "	共著	2013年	Mol. BioSyst. 9, 2489-2497.
(論文) (10) Arai, T.*; Yamamoto, Y.; Awata, A.; Kamiya, K.; Ishibashi, M.; Arai, M. A.* "Catalytic Asymmetric Synthesis of Mixed 3,3'-Bisindoles and Their Evaluation as Wnt Signaling Inhibitors"	共著	2013年	Angew. Chem. Int. Ed., 52, 2486-2490
(論文) (3) Park, H.-Y.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Ishibashi, M. "Calotropin: a cardenolide from <i>Calotropis gigantea</i> that inhibits Wnt signaling by increasing casein kinase 1 α in colon cancer"	共著	2014年	ChemBioChem 15, 872-878
(論文) (4) Arai, M. A.*; Uchida, K.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Ishibashi, M.* "Physalin H from <i>Solanum nigrum</i> as Hh signaling inhibitor blocks GLI1-DNA complex formation"	共著	2014年	Beil. J. Org. Chem. 10, 134-140.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Midori A. Arai, Hes1 inhibitors from natural products		2014年・10月	Sino-Japan Workshop on Chemical Biology
荒井緑、天然物を基盤とした神経幹細胞分化活性化剤の探索と創成		2014年・6月	第13回新規素材探索研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	有機合成化学協会関東支部幹事		
平成25年8月～現在	文部科学省学術調査官(文部科学省非常勤職員)		
平成25年4月～現在	有機合成化学協会誌編集委員		
平成25年4月～現在	千葉大学キラリティーネットワーク研究会(WCCU)運営委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	ゲノム機能学
		職名	講師
		氏名	福本 泰典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年5月～ 平成26年5月	授業の際に出席カードを学生一人ずつに配布し、授業ごとに質問と要望を記入させた。必要に応じて次回の講義で質問に対して回答した。また授業の内容をまとめた穴埋めプリントを作成して配布し授業中に穴埋めを行い、授業の復習にも活用できるようにした。必要に応じて他の専門書・論文に掲載されている図・写真をプリントとして配布し、授業内容について学生の理解を促した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年5月～ 平成26年5月	薬学部で開催されるFDに毎回参加し、FDのテーマをなっている諸問題についての見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Kubota S., Morii M., Miura T., Kubota S., Ishibashi K., Honda T., Okamoto A., Yamaguchi N., Iwama A., Nakayama Y., and Yamaguchi N.: Src family kinases promote silencing of ATR-Chk1 signaling in termination of DNA damage checkpoint.	共著	2014年	J. Biol. Chem., 289: 12313-12329, 2014
(論文) Kubota S., Fukumoto Y., Ishibashi K., Soeda S., Kubota S., Yuki R., Nakayama Y., Aoyama K., Yamaguchi N., and Yamaguchi N.: Activation of the pre-replication complex is blocked by mimosine through reactive oxygen species-activated ATM without DNA damage.	共著	2014年	J. Biol. Chem., 289: 5730-5746, 2014
(論文) Kubota S., Fukumoto Y., Aoyama K., Ishibashi K., Yuki R., Morinaga T., Honda T., Yamaguchi N., Kuga T., Tomonaga T., and Yamaguchi N.: Phosphorylation of KRAB-associated protein 1 (KAP1) at Tyr-449, Tyr-458, and Tyr-517 by nuclear tyrosine kinases inhibits the association of KAP1 and heterochromatin protein 1 α (HP1 α) with heterochromatin.	共著	2013年	J. Biol. Chem., 288: 17871-17883, 2013
(論文) Ishibashi K., Fukumoto Y., Hasegawa H., Abe K., Kubota S., Aoyama K., Kubota S., Nakayama Y., and Yamaguchi N.: Nuclear ErbB4 signaling through H3K9me3 is antagonized by EGFR-activated c-Src.	共著	2013年	J. Cell Sci., 126: 625-637, 2013
(論文) Fukumoto Y., Obata Y., Ishibashi K., Tamura N., Kikuchi I., Aoyama K., Hattori Y., Tsuda K., Nakayama Y., and Yamaguchi N.: Cost-effective gene transfection by DNA compaction at pH 4.0 using acidified, long shelf-life polyethylenimine.	共著	2010年	Cytotechnology, 62: 73-82, 2010
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
v-Src による Rad17-Rad9 相互作用の阻害と DNA 複製フォーク崩壊の誘導		2014年・10月	第87回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬品物理化学
		職名	助教
		氏名	鈴木 優章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年～26年6月 平成21年～26年	実習における安全性確保の重要性について入念に説明した。 学生の苦勞を共有できるようスライドを極力利用せず板書に努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年～24年 平成23年～24年	薬学部教務委員 亥鼻IPEワーキンググループ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) "Aromatic versus Antiaromatic Effect on Photophysical Properties of Conformationally Locked trans-Vinylene Bridged Hexaphyrins" M. - C. Yoon, S. Cho, M. Suzuki, A. Osuka, D. Kim	共著	2009年6月	J. Am. Chem. Soc. 2009, 131, 7360-7367.
(論文) "Fabrications of potential imaging probes based on a β -alkyl substituted porphyrin with a terpyridine external coordination site" M. Suzuki, T. Uehara, Y. Arano, T. Hoshino, S. Neya	共著	2011年12月	Tetrahedron Lett. 2011, 52, 7164-7167.
(論文) "Synthesis, Structure, and Aromaticity of the Nickel(II) Complex of Pyricorrole, a Molecular Hybrid of Porphyrin and Corrole" S. Neya, M. Suzuki, T. Matsugae, T. Hoshino	共著	2012年3月	Inorg. Chem. 2012, 51, 3891-3895.
(論文) "Skeletal Recombination Reaction of N-Fused Pentaphyrin(1.1.1.1) via Bromination" M. Suzuki, T. Hoshino, S. Neya	共著	2014年1月	Org. Lett. 2014, 16, 327-329.
(論文) "Syntheses of Highly Distorted meso-Trifluoromethyl-Substituted β -Octaalkylporphyrins" M. Suzuki, S. Ishii, T. Hoshino, S. Neya	共著	2014年10月	Chem. Lett. 2014, 43, 1563-1565.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Skeletally recombined N-fused pentaphyrin(1.1.1.1) bromide and its derivatives		2014年・6月	8th International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines
(演題名) 非平面meso-トリフルオロメチル置換 β -オクタアルキルポルフィリンの合成と物性		2014年・9月	第25回基礎有機化学討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年	第21回金属の関与する生体関連反応シンポジウム実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	ゲノム機能学講座
		職名	助教
		氏名	吉本 尚子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年5月～ 現在	講義終了後に一部の学生から質問を受けた場合は、他の学生の理解が不十分である可能性を考えて、次の講義時に受講学生全員に解説をした。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部で開催されるFDIに可能な限り出席し、見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Mutsumi Watanabe, Keiichi Mochida, Tomohiko Kato, Satoshi Tabata, Naoko Yoshimoto, Masaaki Noji, and Kazuki Saito. Comparative genomics and reverse genetics analysis reveal indispensable functions of the serine acetyltransferase gene family in Arabidopsis.	共著	2008年9月	The Plant Cell, 20: 2484-2496
(論文) Cintia Goulart Kawashima, Naoko Yoshimoto, Akiko Maruyama-Nakashita, Yumiko N. Tsuchiya, Kazuki Saito, Hideki Takahashi and Tamas Dalmay. Sulphur starvation induces the expression of microRNA-395 and one of its target genes but in different cell types.	共著	2009年1月	The Plant Journal, 57: 313-321
(論文) Sarah G. Mugford, Naoko Yoshimoto, Michael Reichelt, Markus Wirtz, Lionel Hill, Sam T. Mugford, Yoshimi Nakazato, Masaaki Noji, Hideki Takahashi, Robert Kramell, Tamara Gigolashvili, Ulf-Ingo Fluegge, Claus Wasternack, Jonathan Gershenzon, Ruediger Hell, Kazuki Saito, and Stanislav Kopriva. Disruption of adenosine-5'-phosphosulfate kinase in Arabidopsis reduces levels of sulfated secondary metabolites.	共著	2009年3月	The Plant Cell, 21: 910-927
(論文) Cintia G. Kawashima, Colette A. Mattheuman, Siqui Huang, Bok-Rye Lee, Naoko Yoshimoto, Anna Koprivova, Ignacio Rubio-Somoza, Marco Todesco, Tina Rathjen, Kazuki Saito, Hideki Takahashi, Tamas Dalmay, and Stanislav Kopriva. Interplay of SLIM1 and miR395 in the regulation of sulfate assimilation in Arabidopsis.	共著	2011年6月	The Plant Journal, 66: 863-876
(論文) Michimi Nakamura, Tomoko Ochiai, Masaaki Noji, Yasumitsu Ogura, Kazuo T. Suzuki, Naoko Yoshimoto, Mami Yamazaki, Kazuki Saito. An improved tolerance to cadmium by overexpression of two genes for cysteine synthesis in tobacco.	共著	2014年3月	Plant Biotechnology, 31: 141-147
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Functional characterization of de-glutamylating and S-oxygenating enzymes for the alliin biosynthesis in garlic. Naoko Yoshimoto, Ayami Yabe, Misato Onuma, Yuka Sugino, Ryo Nakabayashi, Masae Ueyama, Yasuhiro Kamata, Shinsuke Imai, Shin-ichiro Sumi, Tadamitsu Tsuneyoshi, Kazuki Saito		2014年・4月	9th International Workshop on Sulfur Metabolism in Plants
ニンニクの含硫二次代謝物アリインの生合成に関わるS酸化酵素遺伝子AsFM01の機能解析. 小沼美沙都、吉本尚子、水野新也、中林亮、今井真介、角慎一郎、恒吉唯充、斉藤和季		2014年・9月	日本生薬学会 第61回年会
RNA-Seq analysis on 9 tissues of Sophora flavescens reveals putative genes involved in the biosynthesis of quinolizidine alkaloids and isoflavonoids. 韓榮春、中村道美、Bunsupa Somnuk、山本浩文、鈴木秀幸、高橋弘喜、吉本尚子、山崎真巳、斉藤和季		2014年・9月	日本生薬学会 第61回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～現在	トランスポーター研究会 幹事		
平成24年	日本生薬学会第59回年会実行委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	分子細胞生物学
		職名	助教
		氏名	山口 憲孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年5月～	授業は指定教科書(ルーイン細胞生物学など)に沿って行い、教科書の内容を説明・補足する図を示したスライドを作成し丁寧な説明を行うよう心がけた。毎回の授業の最後に感想と要望を記入するアンケートを行い、出欠確認を行なうと同時に理解度の確認と自らの授業へのフィードバックも行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Yamaguchi N, Oyama M, Hiroko K, Inoue J. Involvement of A20 in the molecular switch that activates the non-canonical NF- κ B.	共著	2013年9月	Sci Rep 3, 2568
(論文) Yamaguchi N, Yokota M, Taguchi Y, Gohda J, Inoue J. cIAP1/2 negatively regulate RANKL-induced osteoclastogenesis through the inhibition of NFATc1 expression.	共著	2012年12月	Genes Cells 12, 971-981
(論文) Yamaguchi N, Ito T, Azuma S, Ito E, Honma R, Yanagisawa Y, Nishikawa A, Kawamura M, Imai J, Watanabe S, Semba K, Inoue J. Constitutive activation of NF- κ B is preferentially involved in proliferation of basal-like subtype breast cancer cell lines.	共著	2009年9月	Cancer Sci 100, 1668-1674
(論文) Yamaguchi N, Oyama T, Ito E, Satoh H, Azuma S, Hayashi M, Shimizu K, Honma R, Yanagisawa Y, Nishikawa A, Kawamura M, Imai J, Ohwada S, Tatsuta K, Inoue J, Semba K, Watanabe S. NOTCH3 signaling pathway plays crucial roles in proliferation of ErbB2-negative human breast cancer cells.	共著	2008年3月	Cancer Res 68, 1881-1888
(論文) Yamaguchi N, Ito E, Azuma S, Honma R, Yanagisawa Y, Nishikawa A, Kawamura M, Imai J, Tatsuta K, Inoue J, Semba K, Watanabe S. FoxA1 as a lineage-specific oncogene in luminal type breast cancer.	共著	2008年1月	Biochem Biophys Res Commun 365, 711-717
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Cell detachment induces Lyn and Fyn activation through the change in their membrane distribution. Morinaga T, Abe K, Yanase S, Yamaguchi N, Nakayama Y, Yamaguchi N.		2014年・12月	The 2014 ASCB/IFCB Meeting
核内受容体共役因子に対するc-Ab1チロシンキナーゼの影響: 九鬼和雅、山口憲孝、青山和正、久保田 翔、幸 龍三郎、森井真理子、井出雄大、柴崎美里、阿蘇拓也、山口直人		2014年・11月	第37回 日本分子生物学会年会
AKAP8のチロシンリン酸化を介したクロマチンとの結合阻害: 久保田 翔、森井真理子、青山和正、幸 龍三郎、山口弘美、久家貴寿、朝長 毅、山口憲孝、山口直人		2014年・11月	第37回 日本分子生物学会年会
Src型チロシンキナーゼによる微小管結合タンパク質のリン酸化: 米谷詩織、森井真理子、武田祐美、青山和正、大牟田 舞、山口憲孝、山口直人		2014年・11月	第37回 日本分子生物学会年会
c-Ab1によるチロシンリン酸化を介したクロマチン制御因子への影響: 柴崎美里、山口憲孝、久保田 翔、青山和正、中條暖奈、山口弘美、山口直人		2014年・11月	第37回 日本分子生物学会年会
c-Ab1の新規核内基質の同定とDNA損傷応答への関与: 山口憲孝、久保田 翔、幸 龍三郎、青山和正、山口直人		2014年・11月	第37回 日本分子生物学会年会
MDCK 細胞浮遊化における Lyn の局在変化: 盛永敬郎、柳瀬さゆり、阿部紘平、山口憲孝、山口直人		2014年・11月	第36回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
ゴルジ体の集積と分散におけるSrcの役割: 大牟田 舞、阿部紘平、柳瀬さゆり、米谷詩織、佐藤里香、山口憲孝、山口直人		2014年・10月	第87回日本生化学会大会
v-Srcによるチロシンリン酸化で引き起こされる細胞周期進行異常: 本田拓也、中山祐治、添田修平、阿部紘平、森井真理子、山口千尋、久保田 翔、青山和正、山口憲孝、山口直人		2014年・10月	第87回日本生化学会大会
c-Ab1による転写制御因子のチロシンリン酸化: 阿蘇拓也、九鬼和雅、柴崎美里、山口憲孝、山口直人		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動			
			なし

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬効薬理学
		職名	助教
		氏名	中村 浩之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年5月～ 現在	講義に対する感想を記入してもらうことで弱点を把握し、 次回の講義で改善するようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FD) (認定実務指導薬剤師養成ワークショップ)	平成20年5月～ 現在	薬学部で開催されるFDに参加し、諸問題への見識を深めた。 ワークショップに参加し、薬剤師教育への見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Nakamura H, Murayama T. Role of sphingolipids in arachidonic acid metabolism.	共著	2014年3月	J Pharmacol Sci, 124, 307-312
(論文) Nakamura H, Moriyama, Makiyama T, Emori S, Yamashita H, Yamazaki R, Murayama T. Lactosylceramide interacts with and activates cytosolic phospholipase A2 α .	共著	2013年9月	J Biol Chem, 288, 23264-23272
(論文) Nakamura H, Yasufuku K, Makiyama T, Matsumoto I, Fujino H, Murayama T. Arachidonic acid metabolism via cytosolic phospholipase A2 α induces cytotoxicity in niemann-pick disease type C cells.	共著	2012年7月	J Cell Physiol, 227, 2847-2855
(論文) Nakamura H, Tada E, Makiyama T, Yasufuku K, Murayama T. Role of cytosolic phospholipase A2 α in cell rounding and cytotoxicity induced by ceramide-1-phosphate via ceramide kinase.	共著	2011年9月	Arch Biochem Biophys, 512, 45-51
(論文) Nakamura H, Wakita S, Sukanami A, Tamura Y, Hanada K, Murayama T. Modulation of the activity of cytosolic phospholipase A2 α by cellular sphingolipids and inhibition of cPLA2 α by sphingomyelin.	共著	2010年4月	J Lipid Res, 51, 720-728
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Lactosylceramide interacts with and activates cytosolic phospholipase A2.		2014年・6月	54th International Conference on the Bioscience of Lipids
(演題名) Contrary effects of sphingosine-1-phosphate on expression of α -smooth muscle actin in transforming growth factor β 1-stimulated lung fibroblasts		2014年・6月	54th International Conference on the Bioscience of Lipids
III 学会および社会における主な活動			
			なし

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 千葉大学	講座名 高齢者薬物学講座・高齢者薬剤学研究室	職名 助教	氏名 佐藤 洋美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月～	講義用資料は後で復習できるように必要項目を抜粋して配布した。また、講義時点で知識の習得は要さないが、現代医療の課題として話題になっていることを取り上げ、講義の合間に紹介するように心がけた。これらのトピックは資料を配布しない・配布しても知識として求めない等、講義で要する知識(試験範囲)とは別立てに伝わるように配慮した。授業評価アンケートを読み、改善点を求められた部分は次回に活かせるように努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			講座で薬剤師生涯教育セミナーを実施し、在学生には講義中に案内することで、薬剤師職に興味のある学生への学びの機会のつもりで紹介した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Sato H, Siddig S, Uzu M, Suzuki S, Nomura Y, Kashiba T, Gushimiyagi K, Sekine Y, Uehara T, Arano Y, Yamaura K, Ueno K. Elacridar enhances the cytotoxic effects of sunitinib and prevents multidrug resistance in renal carcinoma cells.	共著	2014年11月	European Journal of Pharmacology, 2014 (in press)
(論文) Sato H, Ishikawa M, Funaki A, Kimura Y, Yoshida H, Fukata H, Hasegawa H, Ueno K. Cyclolepis genistoides D. Don (palo azul) promotes differentiation of adipocytes and regulates adipokine expression.	共著	2013年11月	Nutrition Research. 33:922-931, 2013
(論文) Tuerd G, Ichinomiya S, Sato H, Siddig S, Suwa E, Iwata H, Yano T, Ueno K. Synergistic effect of combined treatment with gamma-tocotrienol and statin on human malignant mesothelioma cells.	共著	2013年10月	Cancer Letters. 33:116-127, 2013.
(論文) Sato H, Sugai H, Kurosaki H, Ishikawa M, Funaki A, Kimura Y, Ueno K. The effect of sex hormones on PPAR gamma expression and activity in mature adipocytes.	共著	2013年4月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, 36:564-573, 2013
(著書) Sato H, Ueno K. Chapter 10: Connexin 43 Enhances the Cisplatin-Induced Cytotoxicity in Mesothelioma Cells.	共著	2012年1月	Mesotheliomas. Alexander Zubritsky (Ed.), InTech, pp.153-168, 2012
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
佐藤洋美、加柴達朗、宇津美秋、山浦克典、樋坂章博：腎がん細胞におけるHDAC阻害薬trichostatin A とsunitinibの併用効果		2014年・7月	第130回日本薬理学会関東支部会
佐藤洋美：生活習慣病の治療と予防		2014年・7月	第18回予防医学センター市民講座
佐藤洋美、宇津美秋：γトコトリエノールとスタチンの併用は小胞体ストレスを介して悪性中皮腫の増殖を抑制する		2014年・9月	第74回日本癌学会学術総会
Sato H. Connexin as a possible cancer target.		2014年・11月	The 3rd Joint Symposium of SNU-CU
佐藤洋美、村友紀、住友麻衣、船木麻美、吉田博也、深田秀樹、上野光一、山浦克典、樋坂章博：南米原産ハーブCyclolepis genistoides D. Don (パロアッスル)は脂肪細胞におけるUCP1機能を高める		2015年・3月	第88回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年9月～	日本薬学会 医療薬科学部会 若手世話人		
平成24年4月～	日本薬理学会 評議員		
平成24年6月～	日本緩和医療薬学会 評議員		
平成25年8月～	日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	生物薬剤学
		職名	助教
		氏名	関根 秀一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～	出席票を講義中に一人ずつ配布し、質問および感想を記入させた。理解しづらかったところや質問を把握し、次の講義の冒頭で説明した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年4月～	薬学部で開催されるFD講習会に毎回出席し、種々の問題提起と解決方法を探っている。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
	(論文) Nakano T, Sekine S, Ito K, Horie T. Ezrin regulates the expression of Mrp2/Abcc2 and Mdr1/Abcb1 along the rat small intestinal tract.	共著	2013年12月
	(論文) Sekine S, Kimura T, Motoyama M, Shitara Y, Wakazono H, Oida H, Horie T. The role of cyclophilin D in interspecies differences in susceptibility to hepatotoxic drug-induced mitochondrial injury.	共著	2013年11月
	(論文) Sekine S, Mitsuki K, Ito K, Kugioka S, Horie T. Sustained intrahepatic glutathione depletion causes proteasomal degradation of multidrug resistance-associated protein 2 in rat liver	共著	2012年1月
	(論文) Ogimura E, Sekine S, Horie T. Bile salt export pump inhibitors are associated with bile acid-dependent drug-induced toxicity in sandwich-cultured hepatocytes.	共著	2011年12月
	(論文) Sekine S, Ito K, Saeki J, Horie T. Interaction of Mrp2 with radixin causes reversible canalicular Mrp2 localization induced by intracellular redox status.	共著	2011年11月
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	関根秀一、薄田健史、深貝明子、大泉久美子、伊藤晃成：サンドイッチ培養肝細胞での胆汁酸依存的毒性増強に関わる胆汁酸分子種の同定	2014年・11月	第9回 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
	大泉久美子、関根秀一、深貝明子、伊藤晃成：サンドイッチ培養肝細胞での胆汁酸依存的毒性増強に関わる胆汁酸分子種の同定	2014年・11月	第36回 胆汁酸研究会
	薄田 健史、関根 秀一、野崎 麻友香、松井 等、長田 智治、堀江利治、伊藤 晃成：サンドイッチ培養肝細胞を用いた胆汁うっ滞型薬剤性肝障害発症リスク予測法の有用性	2014年・11月	第36回 胆汁酸研究会
	劉 聡、関根 秀一、伊藤 晃成：Crabtree効果を考慮した薬物誘発性肝細胞毒性評価系の構築	2014年・10月	第58回 日本薬学会関東支部大会
	Shuichi Sekine, Maho Shirakawa, Ayaka Tanaka, Toshiharu Horie, Kousei Ito Hepatotoxic drugs-induced metabolism-dependent mitochondrial toxicity	2014年・10月	19th North American ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting
	Takeshi Susukida, Shuichi Sekine, Mayuka Nozaki, Hitoshi Matsui, Tomoharu Osada, Toshiharu Horie and Kousei Ito THE USEFULNESS OF IN VITRO SANDWICH CULTURED HEPATOCYTES ASSAY FOR PREDICTING THE CLINICAL RISK OF DRUG-INDUCED CHOLESTATIC LIVER INJURY	2014年・10月	19th North American ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting
	Koichi Arakawa, Shuichi Sekine, Kousei Ito FUNCTIONAL ASSESSMENT OF LIVER MITOCHONDRIA FROM LPS-PRETREATED EXPERIMENTAL DILI MODEL	2014年・10月	19th North American ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting
	Akinori Takemura, Aya Izaki, Shuichi Sekine, Kousei Ito Troglitazone and its sulfate conjugate cause dysfunction of the bile canalicular network formation	2014年・10月	19th North American ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting
	伊崎 彩、竹村 晃典、関根 秀一、伊藤 晃成：サンドイッチ培養肝細胞の肝毛細管形成を指標とした肝障害誘発性薬物の評価系の確立	2014年・7月	第41回 日本毒性学会
	白川 真帆、関根 秀一、田中 彩華、伊藤 晃成：劇症肝炎誘発薬物による反応性代謝を介した肝ミトコンドリア毒性評価系の構築	2014年・7月	第41回 日本毒性学会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～	次世代を担う若手医療薬科学部会 世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	生物薬剤学
職名	助教	氏名	青木 重樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月～	出席票に質問や感想欄を設けて、授業ごとに提出させ、その内容を受けて次の授業時に解説を行うようにしている。また、授業時に問題演習を随時行い、授業で理解しておくべき内容を明確にすると同時に、その理解を深めてもらうようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成25年11月～ 平成26年4月 平成26年12月	薬学部で開催されるFD研修会において、ハラスメント研修や情報セキュリティ研修を受け、諸問題に対する見識を深めると同時に、業務においても実践させた。 本学で開催された初任者研修を受講し、大学における教育・研究活動のあり方について学んだ。 本学で開催されたOSCE評価者講習会を受講し、本学で実施されたOSCEの進捗を務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Kariya Y, Honma M, Aoki S, Chiba A, Suzuki H. Vps33a mediates RANKL storage in secretory lysosomes in osteoblastic cells.	共著	2009年10月	J Bone Miner Res. 24(10):1741-52
(論文) Aoki S, Honma M, Kariya Y, Nakamichi Y, Ninomiya T, Takahashi N, Udagawa N, Suzuki H. Function of OPG as a traffic regulator for RANKL is crucial for controlled osteoclastogenesis.	共著	2010年9月	J Bone Miner Res. 25(9):1907-21
(論文) Kariya Y, Honma M, Hanamura A, Aoki S, Ninomiya T, Nakamichi Y, Udagawa N, Suzuki H. Rab27a and Rab27b are involved in stimulation-dependent RANKL release from secretory lysosomes in osteoblastic cells.	共著	2011年4月	J Bone Miner Res. 26(4):689-703
(論文) Honma M, Ikebuchi Y, Kariya Y, Hayashi M, Hayashi N, Aoki S, Suzuki H. RANKL subcellular trafficking and regulatory mechanisms in osteocytes.	共著	2013年9月	J Bone Miner Res. 28(9):1936-49
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Inhibition of basolateral efflux transporter causes drug induced bile acids-dependent hepatotoxicity. Susukida T, Sekine S, Aoki S, Oizumi K, Horie T, Ito K.		2014年・4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress, Melbourne, Australia
(演題名) 「フローサイトメーターを用いたエクソソームの定量評価形の構築」 阿部晃子、青木重樹、伊藤晃成		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会、東京
(演題名) 「特異体質毒性評価に利用可能なヒトマウスキメラ型HLA遺伝子の構築」 向後晃太郎、青木重樹、関根秀一、伊藤晃成		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会、東京
(演題名) 「ラットサンドイッチ培養肝細胞における胆汁酸依存的な肝細胞毒性の発現に対する血管側輸送体の寄与」 薄田健史、関根秀一、荻村栄一朗、青木重樹、堀江利治、伊藤晃成		2014年・12月	日本動物実験代替法学会第27回大会、横浜
III 学会および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	臨床薬学
		職名	助教
		氏名	櫻田 大也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年9月17日 発行	薬学生・薬剤師のための知っておきたい病気100第2版 (日本薬学会編)、第Ⅲ部 薬剤性障害 5. 薬剤性腎症 6. 薬剤性血液障害、287-292. 東京化学同人(分担執筆)。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年	1. 佐藤信範, 櫻田大也, 寺島朝子, 小林典子, 宮本悦子, 木津純子(2009)「実務実習指導・管理システムの構築と 試み 第4弾」- トライアル結果解析に基づく新規システ ムの構築-。第19回 日本医療薬学会年会(長崎)。
		2010年	2. 櫻田大也, 山浦克典, 設楽悦久, 高屋明子, 石井伊都 子, 関根祐子, 佐藤 信範, 上野光一(2010) 千葉大学薬 学部事前実務実習の取り組みと連携。日本薬学会 第130 年会(岡山)
		2010年	3. 櫻田大也, 増田和司, 高屋明子, 佐藤信範(2010) 実務 実習指導・管理システムの運用から見たシステム。第43回 日本薬剤師会学術大会(長野)。
		2011年	4. 櫻田大也, 小林江梨子, 長谷川哲也, 小嶋文良, 佐藤信 範(2011) 実務実習指導・管理システムの運用と評価。医 療薬学フォーラム2011第19回クリニカルファーマシーシ ンポジウム(旭川)。
		2014年	5. 高橋眞生, 櫻田大也, 大久保正人, 小林江梨子, 山浦 克典, 関根祐子, 石井茂樹, 眞鍋知史, 佐藤信範, 荒野 泰(2014) 効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び 実技修得に関する検討。第47回 日本薬剤師会学術大会 (山形)
		2014年	6. 櫻田大也, 大野智司, 小林江梨子, 佐藤 信範(2014) 医薬品適正使用の啓発活動における高校生の意識調査。 日本薬学会 第135年会年会(神戸)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	(FD) 2008年6月～	薬学部FDフォーラムには積極的に出席し、FDIに関す る諸問題への見識を高めた。 OSCE委員としてOSCEの実施・運営に携わっている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Sakurada T, Takada S, Eguchi H, Izumi K, Satoh N, Ueda S. Relationship between plasma concentrations of morphine and its metabolites and pain in cancer patients.	共著	2010年	Pharm World Sci. Vol.32, No.6, 737-743.
(論文) Sakurada, T., Yoshikawa, M., Sunaga, M., Kobayashi, E., Satoh, N., Yokosuka, O. and Ueda, S. Expression of Drug-Resistant Factor Genes in Hepatocellular Carcinoma Patients Undergoing Chemotherapy with Platinum Complex by Arterial Infusion.	共著	2010年	Pharmaceutics. 2010, 2, 300-312.
(論文) Tomoya Sakurada, Seiji Zusi, Eriko Kobayashi, Nobunori Satoh and Shiro Ueda. Simultaneous Determination of Morphine, Morphine Glucuronides (M3G, M6G) and Oxycodone in Human Plasma by High-performance Liquid Chromatography.	共著	2010年	Journal of Analytical & Bioanalytical Techniques. Vol.1, Issue 1, 1000101.
(論文) 櫻田大也、小嶋 文良、長谷川哲也、佐藤信範「実務実習指導・管理システムの活用と評価」	共著	2012年	Journal of Drug Interaction Research. 2012, Vol.36 No.1 21-27.
(論文) Mihar Suzuki, Tomoya Sakurada, Kazumi Gotoh, Satoshi Watanabe and Nobunori Satoh. Correlation Between the Administration of Morphine or Oxycodone and the Development of Infections in Patients With Cancer Pain.	共著	2013年	American Journal of Hospice and Palliative Medicine, 30(7):712-716.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
1. 高橋真生, 櫻田大也, 大久保正人, 小林江梨子, 山浦克典, 関根祐子, 石井茂樹, 眞鍋知史, 佐藤信範, 荒野泰「効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び実技修得に関する検討」		2014年・10月	第47回 日本薬剤師会学術大会
2. 櫻田大也, 大野智司, 小林江梨子, 佐藤 信範「医薬品適正使用の啓発活動における高校生の意識調査」		2015年・3月	日本薬学会 第135年年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成23年3月	(一社)千葉県薬剤師会 薬薬学連携特別委員会 委員		
平成19年4月～平成23年3月	(一社)千葉県薬剤師会 学術大会プロジェクトチーム 委員		
平成19年4月～	(一社)千葉県薬剤師会 生涯学習委員会(フォーラム小委員会) 委員		
平成21年5月～	(一社)千葉県薬剤師会 薬学生連絡会議 委員		
平成22年度～	一般社団法人 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 委員		
平成24年度～	(一社)千葉県薬剤師会在宅医療委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧						
大学名	千葉大学	講座名	臨床教育	職名 助教	氏名	櫻田 大也
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし		
2	作成した教科書、教材、参考書		2013年9月17日 発行	薬学生・薬剤師のための知っておきたい病気100第2版 (日本薬学会編), 第Ⅲ部 薬剤性障害 5. 薬剤性腎症 6. 薬剤性血液障害, 287-292. 東京化学同人 (分担執筆)		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等			<p>1. 佐藤信範, 櫻田大也, 寺島朝子, 小林典子, 宮本悦子, 木津純子 (2009) 「実務実習指導・管理システムの構築と試み 第4弾」— トライアル結果解析に基づく新規システムの構築—, 第19回 日本医療薬学会年会(長崎).</p> <p>2. 櫻田大也, 山浦克典, 設楽悦久, 高屋明子, 石井伊都子, 関根祐子, 佐藤 信範, 上野光一 (2010) 千葉大学薬学部事前実務実習の取り組みと連携, 日本薬学会 第130年会(岡山)</p> <p>3. 櫻田大也, 増田和司, 高屋明子, 佐藤信範 (2010) 実務実習指導・管理システムの運用から見たシステム, 第43回日本薬剤師会学術大会(長野).</p> <p>4. 櫻田大也, 小林江梨子, 長谷川哲也, 小嶋文良, 佐藤信範 (2011) 実務実習指導・管理システムの運用と評価, 医療薬学フォーラム2011第19回クリニカルファーマシーシンポジウム(旭川).</p> <p>5. 高橋眞生, 櫻田大也, 大久保正人, 小林江梨子, 山浦克典, 関根祐子, 石井茂樹, 眞鍋知史, 佐藤信範, 荒野泰 (2014) 効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び実技修得に関する検討, 第47回 日本薬剤師会学術大会(山形)</p> <p>6. 櫻田大也, 大野智司, 小林江梨子, 佐藤 信範 (2014) 医薬品適正使用の啓発活動における高校生の意識調査, 日本薬学会 第135年年会(神戸)</p>		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		(FD) 2008年6月～	薬学部FDフォーラムには積極的に出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。 OSCE委員としてOSCEの実施・運営に携わっている。		
II 研究活動						
1.	著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
	(論文) Sakurada T, Takada S, Eguchi H, Izumi K, Satoh N, Ueda S. Relationship between plasma concentrations of morphine and its metabolites and pain in cancer patients.		共著	2010年	Pharm World Sci. Vol. 32, No. 6, 737-743.	
	(論文) Sakurada, T., Yoshikawa, M., Sunaga, M., Kobayashi, E., Satoh, N., Yokosuka, O. and Ueda, S. Expression of Drug-Resistant Factor Genes in Hepatocellular Carcinoma Patients Undergoing Chemotherapy with Platinum Complex by Arterial Infusion.		共著	2010年	Pharmaceutics. 2010, 2, 300-312.	
	(論文) Tomoya Sakurada, Seiji Zusi, Eriko Kobayashi, Nobunori Satoh and Shiro Ueda. Simultaneous Determination of Morphine, Morphine Glucuronides (M3G, M6G) and Oxycodone in Human Plasma by High-performance Liquid Chromatography.		共著	2010年	Journal of Analytical & Bioanalytical Techniques. Vol.1, Issue 1, 1000101.	
	(論文) 櫻田大也, 小嶋 文良, 長谷川哲也, 佐藤信範. 実務実習指導・管理システムの活用と評価.		共著	2012年	Journal of Drug Interaction Research. 2012. Vol.36 No.1 21-27.	
	(論文) Miharū Suzuki, Tomoya Sakurada, Kazumi Gotoh, Satoshi Watanabe and Nobunori Satoh. Correlation Between the Administration of Morphine or Oxycodone and the Development of Infections in Patients With Cancer Pain.		共著	2013年	American Journal of Hospice and Palliative Medicine, 30(7):712-716.	
2.	学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
	1. 高橋眞生, 櫻田大也, 大久保正人, 小林江梨子, 山浦克典, 関根祐子, 石井茂樹, 眞鍋知史, 佐藤信範, 荒野泰. 「効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び実技修得に関する検討」.			2014	第47回 日本薬剤師会学術大会	
	2. 櫻田大也, 大野智司, 小林江梨子, 佐藤 信範 「医薬品適正使用の啓発活動における高校生の意識調査」.			2014	日本薬学会 第135年年会	
III 学会および社会における主な活動						
H19年4月～H23年3月	(一社) 千葉県薬剤師会 薬学連携特別委員会 委員					
H19年4月～H23年3月	(一社) 千葉県薬剤師会 学術大会プロジェクトチーム 委員					
H19年4月～	(一社) 千葉県薬剤師会 生涯学習委員会 (フォーラム小委員会) 委員					
H21年5月～	(一社) 千葉県薬剤師会 薬学生連絡会議 委員					
H22年度～	一般社団法人 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 委員					
H24年度～	(一社) 千葉県薬剤師会在宅医療委員会 委員					

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	千葉大学	講座名	臨床薬学	職名 助教
氏名	小林 江梨子			
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2	作成した教科書、教材、参考書		なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部主催の研修会に出席。	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
(論文) OTC医薬品に対する企業勤務者の意識調査	共著	2014年	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 43(3):251-260	
(論文) Safety of Pandemic Influenza A (H1N1) 2009 Vaccination during Pregnancy in Japan.	共著	2012年	医薬品相互作用研究. 36(1):39-46	
(論文) Patients' attitudes towards generic drug substitution in Japan.	共著	2011年	Health Policy 99(1): 60-65	
(論文) Community pharmacists' perspectives on generic substitution in Japan.	共著	2011年	J Public Health 19(3): 249-256	
(論文) Hospital Directors' and Community Pharmacists' Attitudes Towards Pharmacogenomics Research and a DNA Bank in Japan.	共著	2010年	Current Pharmacogenomics and Personalized Medicine 8(2):117-123	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
Ryotaro Oka, Megumi Musya, Kiyoto Kuwahara, Tomoya Sakurada, Eriko Kobayashi, Nobunori Satoh: THE HOSPITAL FORMULATION OF LEVETIRACETAM SUPPOSITORY AND EVALUATION OF THE PHARMACEUTICS		2014年・10月	25th Federation Of Asian Pharmaceutical Association, Sabah Malaysia	
Moe Hosaka, Hisashi Iijima, Eriko Kobayashi, Nobunori Satoh: INVESTIGATION OF ACTUAL CONDITIONS ABOUT MIXTURE OF EXTERNAL MEDICINES IN JAPANESE HEALTH INSURANCE PHARMACY: QUESTIONNAIRE SURVEY IN JAPAN		2014年・10月	25th Federation Of Asian Pharmaceutical Association, Sabah Malaysia	
阿部智美、鳥山五月、服部洋子、浅田和広、小林江梨子、佐藤信範: 新しい医療用医薬品の添付文書に関する研究-添付文書モデル(案)に対する医療従事者の意識調査-		2014年・9月	第24回日本医療薬学会年会(名古屋)	
鳥井真緒、飯嶋久志、小林江梨子、佐藤信範: 小児患者での薬剤による服用感の変化やアレルギー患者への服薬指導に関する研究		2014年・9月	第24回日本医療薬学会年会(名古屋)	
高安芽衣子、栗林芽衣、刈込 博、後藤一美、櫻田大也、小林江梨子、佐藤信範: 妊娠中の糖尿病薬使用に関する研究		2014年・9月	第24回日本医療薬学会年会(名古屋)	
木村美咲、坂田菜摘、黒沢智佳子、幸田真澄、黒木光良、高橋眞生、小林江梨子、佐藤信範: OTC医薬品に対する消費者意識調査~来局患者に関して~		2014年・9月	第24回日本医療薬学会年会(名古屋)	
川崎淳史、加茂恵代、澤田康裕、小林江梨子、佐藤信範: 一般用医薬品販売時の情報提供に関する意識調査		2014年・9月	第24回日本医療薬学会年会(名古屋)	
III 学会および社会における主な活動				
平成24年4月~	日本医療薬学会編集委員			
平成26年7月~	日本レギュラトリーサイエンス学会編集委員			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	千葉大学	講座名	臨床薬学講座 実務薬学研究室	職名	助教	氏名	大久保 正人
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月～	1～4年次に実施するチーム医療の実習は、医学部、薬学部、看護学部の協働により専門職連携教育 (Interprofessional education: IPE) を行っている。2週間に一回程度3学部合同のミーティングを開催し、実習プログラムや評価方法の検討を行っている。本年度は成果物の発表に対してルーブリックを用いた評価方法の構築を行った。				
2	作成した教科書、教材、参考書		なし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年10月	高橋眞生、櫻田大也、大久保正人ら、効果的・効率的な注射剤混合調製の知識及び実技修得に関する検討。第47回日本薬剤師会学術大会 講演要旨集 p441, 山形				
		平成26年3月	高橋平徳、小河祥子、朝比奈真由美、岡田忍、酒井郁子、関根祐子、池崎澄江、伊藤彰一、大久保正人ら、千葉大学「玄鼻 IPE」におけるFD/SDの効果測定を試み、保健医療福祉連携7巻1号 p47, 2014				
		平成23年7月	小林由佳、鈴木達也、増田和司、大久保正人ら、処方データベースの構築と病院実習への活用およびその評価。医療薬学フォーラム2011/第19回クリニカルファーマシーシンポジウム 講演要旨集 p249, 旭川 (2011.07)				
		平成22年8月	鈴木達也、小林由佳、大久保正人ら 薬学部実務実習生を対象とした処方鑑査トレーニングソフトの作成 日本病院薬剤師会関東ブロック第40回学術大会 講演要旨集 p342, 東京 (2010.08)				
		平成21年8月	増田和司、大久保正人、高橋香ら、薬剤部業務に関する教育・紹介ツールとしての映像の活用とその評価。日本病院薬剤師会関東ブロック第39回学術大会 講演要旨集 p338, 長野 (2009.08)				
4	その他教育活動上特記すべき事項 (実務実習) (OSCE)	平成25年4月～	医学部附属病院薬剤部を兼務し、本学薬学科5年生全員が実施する病院実務実習の指導をしている。附属病院における実習のコーディネートや薬学部・附属病院間の連絡調整に従事している。				
		平成25年4月～	薬学部実務実習委員会委員				
		平成26年1月	本学で実施したOSCEの運営に参画				
		平成26年11月	武蔵野大学で開催されたOSCE評価者講習会に参加				
		平成26年11月	武蔵野大学で開催されたOSCEに評価者として参加				
II 研究活動							
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
	(著書) 西野卓、田口奈津子、前田薫、余語久則、大久保正人、藤澤陽子: 海外文献紹介	共著	2012年5月	がん患者と対症療法 23(1):116-121			
	(著書) 田口奈津子、小川 恵子、木俣有美子、大久保正人、今井正太郎、西野 卓: 海外文献紹介	共著	2011年4月	がん患者と対症療法 22(1):67-73			
	(著書) 岡本英輝、水野裕子、大久保正人、榎原雅代、田口奈津子、西野 卓: 海外文献紹介	共著	2010年9月	がん患者と対症療法 21(2):173-179			
	(論文) 新井 さやか、大久保 正人ら: 医薬品の服用時期および最大投与量の設定根拠を迅速に検索できるデータベースの構築と疑義照会への活用	共著	2010年11月	医薬品情報学 2010;12(2):69-76			
	(論文) 増田 和司、今関 美智子、高橋 香、大久保 正人ら: 粉碎調剤後の安定性の情報に関する調査・検討	共著	2009年9月	医薬品情報学 2009;10(4):291-297			
2.	学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
	野村由貴、清水千聖、佐竹尚子、大久保正人、関根祐子: 関節リウマチ患者における生物学的製剤の周術期休業期間に関する研究		2014年・9月	第58回日本薬学会関東支部大会			
	佐竹尚子、岡部裕之、大久保正人、鈴木知子、関根祐子: 薬剤師による研究の質の変遷に関する研究		2014年・6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム			
III 学会および社会における主な活動							
平成21年5月～平成26年4月	千葉県病院薬剤師会 専門薬剤師育成委員会 がん専門小委員会 委員						
平成26年5月～現在	千葉県病院薬剤師会 薬学教育委員会 委員						

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	千葉大学	講座名	生化学	職名 助教 氏名 溝口 貴正
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年10月1日～	講義の内容をきちんと理解してもらうため、講義用のスライドから図表だけを抜き出したプリントを作製し、そこに講義内容を記入してもらうことで講義資料が完成するようにした。また講義中にちょっとした実験を行ったり、動画を用いるなどすることで講義に飽きないような工夫を行っている。	
2	作成した教科書、教材、参考書		なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年10月1日～ 平成25年3月10日～17日	できる限りのFD研修に参加している。 スキップワイズ・プログラムによる国際FDによるIOEにおける語学研修に参加した。	
II 研究活動				
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(論文) Mizoguchi T, Togawa S, Kawakami K, and Itoh M. "Neuron and sensory epithelial cell fate is sequentially determined by Notch signaling in zebrafish lateral line development."	共著	2011年10月	The Journal of Neuroscience, 31(43):15522-15530 (2011)
	(論文) Yamamoto M, Morita R, Mizoguchi T, Matsuo H, Isoda M, Ishitani T, Chitnis AB, Matsumoto K, Crump JG, Hozumi K, Yonemura S, Kawakami K, Itoh M.	共著	2010年6月	Development, 137(15):2527-2537 (2010)
	(論文) Kinkel M D, Sefton E M, Kikuchi Y, Mizoguchi T, Ward A B, and Prince V E. "Cyp26 enzymes function in endoderm to regulate pancreatic field size"	共著	2009年5月	PNAS, 106, 7870-7875 (2009)
	(論文) Mizoguchi T, Verkade H, Heath J, Kuroiwa A, and Kikuchi Y. "Sdf1/Cxcr4 signaling controls the dorsal migration of endodermal cells during zebrafish gastrulation."	共著	2008年6月	Development, 135: 2521-2529 (2008)
	(著書) 溝口 貴正, 菊池 裕「原腸陥入期における内胚葉細胞の運動制御機構」	共著	2008年11月	細胞工学27(11):1160-1161 (2008)
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
	(演題名) Different combinations of Notch ligands and receptors regulate V2 interneuron progenitor proliferation and V2a/V2b cell fate determination.		2014年・5月	日本発生物学会
	(演題名) Mib1 regulates cell migration through negative control of Ctnd1 function by its ubiquitination.		2014年・6月	11th International Conference on Zebrafish Development and Genetics
	(演題名) The appropriate control of the Notch signaling activity is required for various neuronal subtype differentiation and their functions		2014年・9月	第20回小型魚類研究会
	(演題名) The appropriate regulation of the Notch signaling activity is required for various neuronal subtype differentiation and the neurite outgrowth of V2b interneuron.		2014年・12月	Notch研究会
	(演題名) The actin dynamics live imaging reveals that Mib1 controls appropriate actin rearrangements and coordinates corrective cell migration.		2015年・1月	International Symposium on Multi-dimensional fluorescence live imaging of cellular function and molecular activities (MDFLI)
III 学会および社会における主な活動				
				なし

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	遺伝子薬物学
		職名	助教
		氏名	殿城 亜矢子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年10月 ～現在	毎回の授業の際、学生に感想や質問を出席カードに記入して提出してもらっている。それらを次の授業に生かして、解説を行なうなど学生の授業の理解を深めている。また、学生みずから積極的に発言できるような場を設けることで、学生が主体的に授業に参加できるように努めている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年10月 ～現在	FDフォーラムにほぼ毎回参加し、本学のFDに関する諸問題について見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Chihara T., Kitabayashi A., Morimoto M., Takeuchi K., Masuyama K., Tonoki A., Davis RL, Wang JW., Miura M. Caspase inhibition of select olfactory neurons rejuvenates innate attraction behavior in aged <i>Drosophila</i> .	共著	2014年	Plos Genetics., 2014 Jun 26; 10(6)
(論文) Takeishi A., Kuranaga E., Tonoki A., Misaki K., Yonemura S., Kanuka H., Miura M. Homeostatic epithelial renewal in the gut is required for dampening a fatal systemic wound response in <i>Drosophila</i> .	共著	2013年	Cell Reports., 2013, 3(3): 919-30
(論文) Tonoki A., Davis, RL., Aging impairs intermediate-term behavior memory by disrupting the dorsal paired medial neuron memory trace.	共著	2012年	Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 2012, 109 (16), 6319-24.
(論文) Tonoki A., Kuranaga E., Ito N., Nekooki-Machida Y., Tanaka M., Miura M. Aging causes distinct characteristics of polyglutamine amyloids in vivo.	共著	2011年	Genes Cells. 2011 May;16(5):557-64.
(論文) Tonoki A., Kuranaga E., Tomioka T., Hamazaki J., Murata S., Tanaka K., Miura M. Genetic evidence linking age-dependent attenuation of the 26S proteasome with the aging process.	共著	2009年	Mol Cell Biol. 2009 Feb;29(4):1095-106.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) "Aging impairs protein synthesis dependent long-term memory in <i>Drosophila</i> "		2014年・4月	Janelia Conference, "Structure and Function of the Insect Mushroom Body."
(演題名) Aging impairs protein synthesis dependent long-term memory in <i>Drosophila</i>		2014年・6月	The 11th Japanese <i>Drosophila</i> research conference
(演題名) 「嗅覚連合学習、老化、カルシウムイメージング」		2014年・8月	第7回分子高次機能研究会
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	千葉大学	講座名	薬物学	職名 助教	氏名 降幡 知巳
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年5月1日～	授業では、受講学生の学年・背景知識および志向を把握するよう努力し、より必要であろうと思われる点に対して重点的な説明をおこなった。授業形式は主にパワーポイントスライドでおこない、効率的な授業進行およびアニメーションによる視覚的な知識獲得に努めた。また、研究室での教育では最新かつ発展性のある内容を講義するとともに、独自資料を作成して、学生の研究遂行能力・論文作成能力の育成に努めた。		
2	作成した教科書、教材、参考書	平成20年5月1日～	なし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成20年5月1日～	なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年5月1日～	薬学部で開催されるFDには可能な限り出席し、種々の問題・課題の現状把握に努め、その解決・問題未然防止に努めた。		
II 研究活動					
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
	(論文) Furihata T (corresponding author), Satoh N, Ohishi T, Ugajin M, Kameyama Y, Morimoto K, Matsumoto S, Yamashita K, Kobayashi K, Chiba K. Functional analysis of a mutation in the SLC01B1 gene (G.1628T>G) identified in a Japanese patient with pravastatin-induced myopathy.	共著	2009年	Pharmacogenomics J 2009; 9:185-193.	
	(論文) Fukuchi Y, Furihata T (corresponding author), Hashizume M, Iikura M, Chiba K. Characterization of ribavirin uptake systems in human hepatocytes.	共著	2010年	J Hepatol 2010; 52: 486-492.	
	(論文) Kamiichi A, Furihata T (corresponding author), Kishida S, Ohta Y, Saito K, Kawamatsu S, Chiba K. Establishment of a new conditionally immortalized cell line from human brain microvascular endothelial cells: a promising tool for human blood-brain barrier studies. Brain Res 2012; 1488:113-122.	共著	2012年	Brain Res 2012; 1488:113-122.	
	(論文) Furihata T (corresponding author), Mizuguchi M, Suzuki Y, Matsumoto S, Kobayashi K, Chiba K. Identification of primary equilibrative nucleoside transporter 1 mRNA isoforms resulting from alternative promoter usage in human hepatocytes.	共著	2014年	Drug Metab Pharmacokinet 2014;29:325-32.	
	(論文) Furihata T (corresponding author), Matsumoto S, Fu Z, Tsubota A, Sun Y, Matsumoto S, Kobayashi K, Chiba K. Different interaction profiles of direct-acting anti-hepatitis C virus agents with human organic anion transporting polypeptides.	共著	2014年	Antimicrob Agents Chemother 2014; 58: 4555-64.	
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
	付中国、降幡知巳、松本涉吾、坪田昭人、孫雨晨、鈴木雄基、森尾花恵、千葉寛：新規直接作用型C型肝炎治療薬のOrganic anion transporting polypeptide 1B1/1B3阻害プロファイル		2014年・6月	第9回トランスポーター研究会(名古屋)	
	孫雨晨、降幡知巳、鈴木雄基、石井聖弥、長井美樹、原田まなみ、下里修、上條岳彦、本橋新一郎、吉野一郎、千葉寛、ヒト肺がん：ヒト大腸がんにおけるCancer-type OATP1B3 mRNA発現プロファイル		2014年・6月	第9回トランスポーター研究会(名古屋)	
	降幡知巳、川松真也、伊藤涼、上市敦子、岸田聡、鈴木翔太、千葉寛：間葉-血管内皮転換様効果を介したハイドロコルチゾンによるヒト不活化脳毛細血管内皮細胞HBMEC/ciβの細胞間結合能向上		2014年・6月	第9回トランスポーター研究会(名古屋)	
	Shibuya M, Ishikawa M, Aizawa T, Cho N, Furihata T, Kobayashi K, Chiba K. Characterization of CYP-mediated metabolic pathways involved in benzobromarone-induced hepatotoxicity		2014年・10月	19th North America ISSX/29th JSSX meeting	
	Ito R, Furihata T, Kamiichi A, Sun Y, Kawamatsu S, Kishida S, Suzuki S, Chiba K. Establishment of new immortalized human astrocytes for use in the functional characterization of astrocytic drug transporters		2014年・10月	19th North America ISSX/29th JSSX meeting	
	Suzuki Y, Furihata T, Fu Z, Matsumoto S, Tsubota A, Sun Y, Morio H, Chiba K. Identification of simeprevir and asunaprevir as unique OATP inhibitors with long-lasting properties		2014年・10月	19th North America ISSX/29th JSSX meeting	
	Sun Y, Furihata T, Ishii S, Nagai M, Harada M, Shimozato O, Kamiyo T, Chiba K. Exploration of clinicopathological features of Ct-OATP1B3 mRNA expression in human colon cancer		2014年・10月	19th North America ISSX/29th JSSX meeting	
	Koibuchi A, Furihata T, Aizawa T, Shibuya M, Murata M, Murayama H, Kobayashi K, Chiba K. Ornithine carbamoyltransferase is a promising blood biomarker for drug-induced liver injury		2014年・10月	19th North America ISSX/29th JSSX meeting	
	Furihata T, Kawamatsu S, Ito R, Suzuki S, Chiba K. Modification of culture medium composition ameliorates intercellular barrier property of a HBMEC/ciβ-based blood-brain barrier model through promotion of cellular differentiation		2014年・10月	19th North America ISSX/29th JSSX meeting	

Panigrahi R, Chandra PK, Ferraris P, Kurt R, Garry RF, Balart LA, Coe I, Furihata T, Wu T, Dash S. Persistently infected HCV cell culture impairs RBV antiviral activity through clathrin mediated trafficking of ENT1	2014年・11月	AASLD the liver meeting 2014
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年12月	トランスポーター研究会 第2回関東部会 組織委員	
平成24年11月	第27回日本薬物動態学会 プログラム委員	
平成26年1月	日本薬物動態学会学会誌DMPKニュースレター編集委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	薬化学研究室
		職名	助教
		氏名	原田 慎吾
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		よりわかりやすく説明するように心がけている。板書の時間を節約するため、スライドを作成。授業中口頭で問題を与え理解度を随時確認。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部で開催されるFDフォーラムに出席し、よりよい教育の実践に向けて学んでいる。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Shingo Harada, Satoru Kuwano, Yousuke Yamaoka, Ken-ichi Yamada, Kiyosei Takasu Kinetic Resolution of Secondary Alcohols Catalyzed by Chiral Phosphoric Acids.	共著	2013年8月	Angew. Chem. Int. Ed. 2013, 52 (39), 10227-10230.
(論文) Satoru Kuwano, Shingo Harada, Bubwoong Kang, Raphaël Oriez, Yousuke Yamaoka, Kiyosei Takasu, Ken-ichi Yamada Enhanced Rate and Selectivity by Carboxylate Salt as a Basic Cocatalyst in Chiral N-Heterocyclic Carbene-Catalyzed Asymmetric Acylation of Secondary Alcohols.	共著	2013年8月	J. Am. Chem. Soc. 2013, 135 (31), 11485-11488.
(論文) Shingo Harada, Takeo Sakai, Kiyosei Takasu, Ken-ichi Yamada, Yasutomo Yamamoto, Kiyoshi Tomioka General Entry to Asymmetric One-Pot [N+2+n] Cyclization for the Synthesis of 3- to 7-Membered Azacycloalkanes.	共著	2012年8月	J. Org. Chem. 2012, 77 (17), 7212-7222.
(論文) Shingo Harada, Takeo Sakai, Kiyosei Takasu, Ken-ichi Yamada, Yasutomo Yamamoto, Kiyoshi Tomioka Total Synthesis of (-)-Kopsinine by the Asymmetric One-Pot [N+2+3] Cyclization.	共著	2012年7月	Chem. Asian. J. 2012, 7 (10), 2196-2198.
(論文) 原田慎吾 [1+2+n] 環化反応による光学活性含窒素ヘテロ環の合成	単著	2013年6月	Yakugaku Zasshi 2013, 133 (9), 975-982.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ロジウム触媒を用いたアミド結合への挿入反応による含窒素架橋型分子の合成		2014年・11月	第106回有機合成シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	分子医薬科学
		職名	助教
		氏名	原田 真至
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成25年3月11 ～15日	ロンドン大学教育研究所(IOE)での国際FDに参加し、英語での教育・研究論についての見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Shinji Harada, Takahiro Morikawa, and Atsushi Nishida. "Chiral Holmium Complex-Catalyzed Diels-Alder Reaction of Silyloxyvinylindoles: Stereoselective Synthesis of Hydrocarbazoles"	共著	2013年	Org. Lett. 2013, 15, 5314-5317.
(論文) Shinji Harada, Takahiro Morikawa, Shiharu Hiraoka, and Atsushi Nishida "Development of catalytic and enantioselective Diels-Alder reaction of electron-rich dienes using chiral rare-earth metal complex"	共著	2013年	J. Synth. Org. Chem., Jpn 2013, 71 (8), 818-829.
(論文) Chenghong Huang, Theresa Liang, Shinji Harada, Eunsung Lee, and Tobias Ritter "Silver-Mediated Trifluoromethoxylation of Aryl Stannanes and Arylboronic Acids"	共著	2011年	J. Am. Chem. Soc. 2011, 133, 13308-13310.
(論文) Shiharu Hiraoka, Shinji Harada, and Atsushi Nishida "Catalytic Enantioselective Total Synthesis of (-)-Platyphyllide and Its Structural Revision"	共著	2010年	J. Org. Chem. 2010, 75 (11), 3871-3874.
(論文) Yukinori Sudo, Daisuke Shirasaki, Shinji Harada, and Atsushi Nishida "Highly Enantioselective Diels-Alder Reactions of Danishefsky Type Dienes with Electron-Deficient Alkenes Catalyzed by Yb(III)-BINAMIDE Complexes"	共著	2008年	J. Am. Chem. Soc. 2008, 130 (38), 12588-12589.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
キラルホルミウム触媒を用いた光学活性ヒドロカルバゾール合成		2014年・6月	第105回有機合成シンポジウム
Holmium-Catalyzed Diels-Alder Reaction of Silyloxyvinylindoles: Stereoselective Synthesis of Hydrocarbazoles and Application to Total Synthesis of Natural Products		2014年・7月	XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014)
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～平成26年3月	日本薬学会 ファルマシア トピックス小委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	病態分析化学
		職名	助教
		氏名	東 恭平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年4月～	当研究室が担当する分析化学実習が学生の実習に、学生10人につき1人のティーチングアシスタントを付け実験中にケガやミスがないように望んでいる。ノートをきちんと付けることを何度も伝え、実際の記入方法を実習中にチェック、指導した。また分析機器紹介のビデオを用い、実験の待ち時間が無駄にならないよう工夫した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Zhao X, Yang B, Solakylidirim K, Joo EJ, Toida T, Higashi K, Linhardt RJ, and Li L. Sequence analysis and domain motifs in the porcine skin decorin glycosaminoglycan chain.	共著	2013年	J. Biol. Chem., 288, 9226-9237.
(論文) Higashi K, Hosoyama S, Ohno A, Masuko S, Yang B, Sterner E, Wang Z, Linhardt RJ, and Toida T. Photochemical preparation of a novel low molecular weight heparin.	共著	2012年	Carbohydr. Polym., 67, 1737-1743.
(論文) Higashi K, Ly M, Wang Z, Masuko S, Bhaskar U, Sterner E, Zhang F, Toida T, Dordick JS, and Linhardt RJ. Controlled photochemical depolymerization of K5 heparosan, a bioengineered heparin precursor.	共著	2011年	Carbohydr. Polym., 86, 1365-1370.
(論文) Masuko S*, Higashi K*, Wang Z, Bhaskar U, Hickey AM, Zhang F, Toida T, Dordick JS, and Linhardt RJ. 14) Ozonolysis of the double bond of the unsaturated uronate residue in low-molecular-weight heparin and K5 heparosan. (*: contributed equally)	共著	2011年	Carbohydr. Res., 346, 1962-1966.
(論文) Higashi K, Sakamaki Y, Horai E, Demizu R, Uemura T, Saroj SD, Zenda R, Terui Y, Nishimura K, Toida T, Kashiwagi K, and Igarashi K. Identification and functions of amino acid residues in PotB and PotC involved in spermidine uptake activity.	共著	2010年	J. Biol. Chem., 285, 39061-39069.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Enhancement of the synthesis of EXT2, EXTL3 and CHSY1 by polyamines at the level of translation in mammalian cells. (Invited lecture)		2014年・7月	Glycomics meeting at Rensselaer Polytechnic Institute
Enhancement of the synthesis of EXT2, EXTL3 and CHSY1 by polyamines at the level of translation in mammalian cells. (Invited speaker)		2014年・7月	Gordon research conference at Proctor Academy
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～	ファルマシアトピックス小委員 (平成26年度)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	製剤工学
		職名	講師
		氏名	東 顕二郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年5月～ 現在まで	講義・実習では、学生が自立的・主体的に学習できるシステムを構築している。講義資料は独自で作成し、講義後も学生が復習できるように教科書の対応するページ番号や参考情報が掲載されているWebアドレスを記載するなど工夫し、学生の自主的学習を促している。また実習では、十分に安全が確保できる範囲内ではあるが、大型製剤機械の操作なども学生に一任し、学生が主体的に実習を進められるシステム作りを行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年5月～ 現在まで	薬学部FDにはほぼ出席し、FDに関する諸問題に関する見識を深めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Higashi, K., Ideura, S., Waraya, H., Moribe, K., Yamamoto, K. Structural evaluation of crystalline ternary γ -cyclodextrin complex.	共著	2011年1月	J. Pharm. Sci. 100 (1), 325-333
(論文) Kojima, T., Higashi, K., Suzuki, T., Tomono, K., Moribe, K., Yamamoto, K. Stabilization of a supersaturated solution of mefenamic acid from a solid dispersion with EUDRAGIT® EPO.	共著	2012年1月	Pharm. Res. 29 (10), 2777-2791
(論文) Higashi, K., Yamamoto, K., Pandey, K. M., Mroue, H. K., Moribe, K., Yamamoto, K., Ramamoorthy, A. Insights into atomic-level interaction between mefenamic acid and Eudragit EPO in a supersaturated solution by high-resolution magic-angle spinning NMR	共著	2013年11月	Mol. Pharm. 11 (1) 351-357
(論文) Higashi, K., Waraya, H., Lin, L. K., Namiki, S., Ogawa, M., Limwikrant, W., Yamamoto, K., Moribe, K. Application of intermolecular spaces between polyethylene glycol/ γ -cyclodextrin-polypseudotaxanes as a host for various guest drugs.	共著	2014年4月	Cryst. Growth Des. 14, 2773-2781
(著書) 東 顕二郎: 固体NMR法	共著	2014年4月	南山堂、薬剤学実験法必携マニュアル-物理薬剤学-, pp50-58
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 東 顕二郎: シクロデキストリン同士で形成される空間を利用した新規複合体の設計		2014年・9月	第31回シクロデキストリン学会
(演題名) Kenjirou Higashi, Hiroki Hayashi, Keiji Yamamoto, Kunikazu Moribe. Effect of phenytoin/Eudragit® S 100 miscibility in solid dispersion on drug and polymer dissolution rates		2014年・12月	PharmTech 2014
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在まで	日本薬剤学会英語セミナー委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	生体機能性分子
		職名	助教
		氏名	小暮 紀行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年5月～	担当科目以外のシラバスまで目を通し、他の科目と重複することがないように、学生の現在の学習状況を考慮して講義内容のレベルを決定し、講義準備を行なっている。講義中も学生との対話を行ない、理解状況を確認しながら、講義を進めてきた。実習においては学生全員の名前を覚え、学生と共に実習を楽しむことを大切に、一人一人に細かな指導を行なった。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年5月～	これまで薬学部で行なわれる全てのFD研修会に参加し、見識を深めてきた。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	N. Kogure, N. Ishii, H. Kobayashi, M. Kitajima, S. Wongseripipatana, and H. Takayama : New Iridoids from <i>Gelsemium</i> Species.	共著	平成20年
	N. Kogure, H. Kobayashi, N. Ishii, M. Kitajima, S. Wongseripipatana, and H. Takayama : New humantenine-type indole alkaloids with iridoid unit from <i>Gelsemium</i> species.	共著	平成20年
	A. Nakayama, N. Kogure, M. Kitajima and H. Takayama : First Asymmetric Total Synthesis of a Pentacyclic Lycopodium Alkaloid, Huperzine-Q	共著	平成23年
	N. Kogure, N. Katsuta, M. Kitajima, and H. Takayama : Two New Alkaloids from <i>Crinum asiaticum</i> var. <i>sinicum</i> .	共著	平成23年
	N. Kogure, Y. Suzuki, Y. Wu, M. Kitajima, R. Zhang and H. Takayama : Chemical Conversion of Strychnine into Kopsiyunnanine-I, a New Hexacyclic Indole Alkaloid from Yunnan <i>Kopsia arborea</i> .	共著	平成24年
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
			学会名
	東雅之、良川哲也、小暮紀行、北島満里子、高山廣光 : Lycopodium アルカロイド、Lycodineの生合成経路を模擬した段階不斉全合成		平成26年6月
	石田寛明、木村真也、小暮紀行、北島満里子、高山廣光 : 新規 Lycopodium アルカロイド Lycoserramine-R の不斉全合成研究		平成26年11月
			第105回有機合成シンポジウム
			第40回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	創薬資源学
		職名	助教
		氏名	花岡 宏史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年9月～ 現在	授業に関連する最近の研究トピックスについての話をを行い学生にその分野に興味を持たせるようにした。アンケートの結果を基に学生が理解しやすい授業を心がけている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Watanabe S, Hanaoka H, Liang JX, Iida Y, Endo K, Ishioka NS. PET imaging of norepinephrine transporter-expressing tumors using 76Br-meta-bromobenzylguanidine.	共著	2010年9月	J Nucl Med, 51(9), 1472-9
Ohshima Y, Hanaoka H, Watanabe S, Sugo Y, Watanabe S, Tominaga H, Oriuchi N, Endo K, Ishioka NS. Preparation and biological evaluation of 3-[76Br]bromo- α -methyl-L-tyrosine, a novel tyrosine analog for positron emission tomography imaging of tumors.	共著	2011年8月	Nucl Med Biol, 38(6), 857-65
Akizawa H, Imajima M, Hanaoka H, Uehara T, Satake S, Arano Y. Renal brush border enzyme-cleavable linkages for low renal radioactivity levels of radiolabeled antibody fragments.	共著	2013年2月	Bioconjug Chem, 24(2), 291-9
Ohshima Y, Hanaoka H, Tominaga H, Kanai Y, Kaira K, Yamaguchi A, Nagamori S, Oriuchi N, Tsushima Y, Endo K, Ishioka NS. Biological evaluation of 3-[18F]fluoro- α -methyl-D-tyrosine (D-[18F]FAMT) as a novel amino acid tracer for positron emission tomography.	共著	2013年5月	Ann Nucl Med, 27(4), 314-24
Hanaoka H, Kuroki M, Yamaguchi A, Achmad A, Iida Y, Higuchi T, Oriuchi N, Tsushima Y, Endo K. Fractionated Radioimmunotherapy with 90Y-Labeled Fully Human Anti-CEA Antibody.	共著	2014年3月	Cancer Biother Radiopharm, 29(2), 70-6
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	千葉大学	講座名	創薬資源科学
		職名	助教
		氏名	當銘 一文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (亥鼻IPE)	平成21年11月～	出席確認を兼ねた小テストを一人ずつに配布し、授業の内容の振り返りをさせるとともに、質問、感想などを自由に記載させた。授業に対する理解度を確認するとともに、質問事項については講義中に解説するか、個別に対応した。また、亥鼻IPE(チーム医療)では、月3回程度開催されるワーキンググループに参加し、医業看それぞれの学部の教員と講義進行や講義内容について話し合い、より良い授業につながるよう議論を深めた。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成22年6月～	講義で使用するプリントを作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) (実務実習) (OSCE)	平成21年6月～	薬学部FDには可能な限り参加するようにし、諸問題に関する知識を深めた。 認定指導薬剤師に関する講習会、ワークショップに参加し、知識の習得に努めた。また、毎年薬局訪問を行った。 本学で実施されたODCEに誘導員として協力した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Toume, K.; Tsukahara, K.; Ito, H.; Arai, M. A.; Ishibashi, M., Chromomycins A2 and A3 from marine actinomycete with TRAIL resistance-overcoming and Wnt signal inhibitory activities.	共著	2014年3月	Mar. Drugs, 12, 3466-3476.
Park, H. Y.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Ishibashi, M., Calotropin: A Cardenolide from Calotropis gigantea that Inhibits Wnt Signaling by Increasing Casein Kinase 1 α in Colon Cancer Cells.	共著	2014年1月	ChemBioChem, 2014, 6, 872-878.
Toume, K.; Kamiya, K.; Arai, M. A.; Mori, N.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Ishibashi, M., Xylogranin B: A Potent Wnt Signal Inhibitory Limonoid from Xylocarpus granatum.	共著	2013年11月	Org. Lett., 2013, 15, 6106-6109.
Toume, K.; Nakazawa, T.; Ohtsuki, T.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; Ishibashi, M., Cycloartane triterpenes isolated from Combretum quadrangulare in a screening program for death-receptor expression enhancing activity.	共著	2011年1月	J. Nat. Prod., 2011, 74, 249-255.
Ahmed, F.; Toume, K.; Sadhu, S. K.; Ohtsuki, T.; Arai, M. A.; Ishibashi, M., "Constituents of Amoora cucullata with TRAIL resistance overcoming activity"	共著	2010年6月	Org. Biomol. Chem., 2010, 8, 3696-3703
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
當銘一文、"ウィントシグナルに作用する生物活性天然物の探索"		2014年・5月	第5回ケミカルバイオロジー若手研究者ワークショップ(招待講演)
當銘一文、Firoj Ahmed、中澤孝文、大槻崇、荒井緑、石橋正己、"TRAILシグナルを介してがん選択的にアポトーシスを誘導する天然物の探索"		2010年・10月	第52回天然有機化合物討論会(口頭発表)
III 学会および社会における主な活動			
平成21年8月～	西千葉の薬学部薬草園にて、夏休み薬草教室を開催し、その運営を行った。(2012年まで)		
平成24年7月	日本生薬学会59回年会実行委員		
平成25年～	天然物化学談話会 世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。